2016（平成28）年度

事 業 報 告 書

学校法人　麻布獣医学園

麻布大学
125th
since 1890

2016(平成28)年度　事業報告書

目　次

Ⅰ 法人の概要

1. 建学の精神 …… 1
2. 基本経営方針 ミッションステートメント …… 1
3. 設置する学校 …… 2
4. 沿革 …… 2
5. 将来に向けてのビジョン[学校法人麻布獣医学園中期目標・中期計画] …… 5
6. 機構図 …… 7
7. 役員・評議員 …… 8
   (1) 役員 …… 8
   (2) 評議員 …… 9
8. 学生・生徒の状況 …… 10
   (1) 入学定員, 収容定員, 学生・生徒数, 収容定員充足率 …… 10
   (2) 専任教員一人当たりの学生数 …… 10
   (3) 非正規課程履修者 …… 11
9. 教職員の状況 …… 11
   (1) 大学教員(常勤) …… 11
   (2) 高等学校教員(常勤) …… 12
   (3) 職員(常勤) …… 12
   (4) 非常勤教職員 …… 12

Ⅱ 事業の概要

1. 平成28年度事業計画の実施状況 …… 13
2. 教育研究の概要 …… 23
   (1) 2016(平成28)年度の教育実施体制 …… 23
   (2) 入学試験実施状況 …… 24
   (3) 卒業者・修了者数及び進路状況 …… 29
   (4) 国家試験 …… 32
   (5) 退学者数・中退率・留年者数 …… 33
   (6) 国際交流 …… 34
   (7) 研究・知的財産等 …… 35
   (8) 産官学連携 …… 37
   (9) 地域連携 …… 38
   (10) 麻布大学附属高等学校に関する情報 …… 39
3. 管理運営の概要 …… 42
   (1) 学園運営に係る会議等 …… 42
   (2) 会議等の開催状況 …… 42
   (3) 2016(平成28)年度　主要行事 …… 51

Ⅲ 財務の概要

1. 学校法人会計の特徴と企業会計との比較 …… 53
2. 財務状況の推移 …… 54
3. 財務比率の推移 …… 56

Ⅰ　法人の概要

法人名	学校法人　麻布獣医学園
理事長名	柏崎　直巳
所在地	神奈川県相模原市中央区淵野辺１－１７－７１
目的	教育基本法及び学校教育法に従い，大学教育及び高等学校教育を行う。

１．建学の精神

「学理の討究と誠実なる実践」

本学は，創設者 與倉東隆（よくら はるたか）先生の建学の精神である，学理を討究し実践を重んじる誠実なる校風を受け継ぎ，人と動物との共存及び人と自然環境との調和の途を探求することを目的として，獣医学，畜産学，動物応用科学，生命科学及び環境科学に関する専門の知識を教授研究し，その応用力の展開をはかるとともに，進んで学術の進歩と国民生活の向上に寄与し，平和社会の建設に貢献することとしています。

２．基本経営方針　ミッションステートメント

私たちは**「学生・生徒第一主義」**をモットーに，**「学理の討究と誠実なる実践」**を教育理念とし，人と動物と環境の共生を探求する**「地球共生系」**の実現を目指し，常に学生・生徒の夢と希望を正面から受け止め，社会の変化を見通して，社会に貢献するよう，教育研究を実践していきます。

５つの重点改善事項

１）学園組織の活性化
２）志願者数の安定的確保
３）ステークホルダー満足度の向上
４）学園プレゼンスの向上
５）財政基盤の安定化

麻布獣医学園はこれらの事項に重点的に取り組むことにより，安定した経営を実現する。

３．設置する学校

麻布大学

設置認可年月	昭和 25(1950)年 2 月
学　長　名	浅利　昌男
所　在　地	神奈川県相模原市中央区淵野辺１－１７－７１
目　　的	〔大学〕 獣医学，畜産学，動物応用科学，生命科学及び環境科学に関する専門の学術を教授研究し，その応用能力の展開をはかるとともに，人格の完成につとめ，進んで学術の進歩と人類の生活向上に寄与し，平和社会の建設に貢献する。 〔大学院〕 建学の精神に則り，学部における教育の基礎の上に，学術の理論及び応用を教授研究し，その深奥をきわめ，高い技術力及び研究指導能力を養い，また，高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を培い，文化の進展に寄与する。

♦ 教育研究の理念 ♦
地球共生系
～人と動物と環境の共生を目指して～

麻布大学附属高等学校

設置認可年月	昭和 36(1961)年 5 月
校　長　名	中山　浩一
所　在　地	神奈川県相模原市中央区淵野辺１－１７－５０
目　　的	教育基本法及び学校教育法に基づき，中学校における教育の基礎の上に，心身の発達及び進路に応じて高度な普通教育を施す。

４．沿革

明治23(1890)年 9月	東京獣医講習所開所（現 東京都港区南麻布）
明治27(1894)年 4月	麻布獣医学校開設
明治45(1912)年 3月	麻布獣医畜産学校と改称
大正 9(1920)年 9月	財団法人麻布獣医畜産学校設立
昭和 9(1934)年 4月	実業専門学校令による麻布獣医専門学校の設置
	財団法人麻布獣医専門学校と校名変更
昭和19(1944)年12月	麻布獣医畜産専門学校と改称
昭和22(1947)年 6月	現在地（神奈川県相模原市）に移転
昭和25(1950)年 2月	新学制による麻布獣医科大学の設置認可　財団法人麻布獣医学園
4月	麻布獣医科大学として開学
昭和26(1951)年 3月	財団法人から学校法人へ改組，学校法人麻布獣医学園となる
昭和27(1952)年 3月	麻布獣医畜産専門学校廃止

昭和32(1957)年 4月	麻布獣医科大学獣医学部獣医学専攻科開設
昭和35(1960)年 4月	麻布獣医科大学大学院修士課程開設
昭和36(1961)年 5月	麻布獣医学園渕野辺高等学校開校
昭和37(1962)年 4月	麻布獣医科大学大学院博士課程開設
昭和40(1965)年 4月	麻布公衆衛生短期大学開学
昭和51(1976)年 4月	麻布獣医科大学獣医学部家畜環境学科開設
昭和53(1978)年 4月	麻布獣医科大学環境保健学部（環境保健学科及び衛生技術学科）開設
11月	麻布獣医科大学獣医学部獣医学専攻科廃止
昭和54(1979)年 6月	麻布公衆衛生短期大学廃止
昭和55(1980)年 4月	麻布獣医科大学を麻布大学に名称変更
	獣医学部家畜環境学科を獣医学部環境畜産学科に名称変更
昭和59(1984)年 4月	獣医学教育 6 年制発足（学校教育法の一部改正による）
昭和60(1985)年10月	渕野辺高等学校を麻布大学附属渕野辺高等学校に名称変更認可
昭和63(1988)年 4月	麻布大学附置生物科学総合研究所設置
平成元(1989)年12月	獣医学部環境畜産学科，環境保健学部　臨時定員増認可
平成 2(1990)年 4月	麻布大学大学院獣医学研究科博士課程（4 年制）開設
平成 5(1993)年 4月	麻布大学大学院獣医学研究科動物応用科学専攻（修士課程）開設
平成 6(1994)年 4月	麻布大学大学院環境保健学研究科環境保健科学専攻（修士課程）開設
	麻布大学獣医学部環境畜産学科を獣医学部動物応用科学科に改組
	麻布大学獣医学部環境畜産学科募集停止
	麻布大学大学院環境保健学研究科環境保健科学専攻（修士課程）開設
平成 7(1995)年 4月	麻布大学大学院獣医学研究科動物応用科学専攻（博士課程）開設
平成 8(1996)年 4月	麻布大学大学院環境保健学研究科環境保健科学専攻（博士課程）開設
平成 9(1997)年 7月	麻布大学附属動物管理センター設置
	麻布大学大学学生部保健課を麻布大学健康管理センターに組織変更
平成10(1998)年 4月	麻布大学環境保健学部環境保健学科を環境保健学部健康環境科学科に名称変更
12月	麻布大学獣医学部動物応用科学科，環境保健学部健康環境科学科・衛生技術学科の期間付入学定員増に係る学則認可（平成 11 年度まで）
平成11(1999)年 3月	麻布大学獣医学部環境畜産学科廃止認可
4月	麻布大学環境保健学部環境政策学科開設
7月	麻布大学獣医学部動物応用科学科，環境保健学部健康環境科学科・衛生技術学科の期間付入学定員増に係る学則認可（平成 16 年度まで）
	麻布大学獣医学部動物応用科学科，環境保健学部健康環境科学科・衛生技術学科の期間付入学定員の廃止に伴う収容定員増に係る学則変更認可
10月	麻布大学環境保健学部健康環境科学科・衛生技術学科の編入学定員設定認可
平成12(2000)年 4月	麻布大学附属図書館と麻布大学附属情報処理センターを統合し，麻布大学附属学術情報センターを設置
平成15(2003)年 4月	麻布大学大学院環境保健学研究科環境衛生政策専攻（修士課程）開設

平成18(2006)年 7月	麻布大学獣医学部動物応用科学科の入学定員増に係る学則変更認可
平成19(2007)年 4月	麻布大学獣医学部附属動物病院を麻布大学附属動物病院に組織及び名称変更
	麻布大学附属教育推進センター設置
平成20(2008)年 4月	麻布大学環境保健学部を改組し，生命・環境科学部臨床検査技術学科，食品生命科学科及び環境科学科を開設（環境保健学部健康環境科学科，衛生技術学科及び環境政策学科は募集停止）
	麻布大学研究推進・支援本部を設置
平成25(2013)年 3月	麻布大学環境保健学部（健康環境科学科，衛生技術学科及び環境政策学科）を廃止
平成26(2014)年 4月	麻布大学附属渕野辺高等学校を麻布大学附属高等学校に名称変更
平成27(2015)年 4月	麻布大学地域連携センター設置
9月	麻布大学いのちの博物館開館
平成28(2016)年 3月	麻布大学大学院環境保健学研究科環境衛生政策専攻（修士課程）廃止
4月	麻布大学大学院獣医学研究科動物応用科学専攻博士前期課程収容定員変更
平成29(2017)年 4月	麻布大学獣医学部動物応用科学科収容定員変更

5．将来に向けてのビジョン

学校法人麻布獣医学園 中期目標・中期計画［2015（平成 27）年度～2020（平成 32）年度］

◆ 中期目標・中期計画は，「学校法人」「大学」「高等学校」が，2015（平成 27）年度から 2020（平成 32）年度までに達成すべき事項を掲げたものである。【平成 27 年 5 月 28 日理事会・評議員会決定】

◆ 中期目標・中期計画は，学校教育法に規定する認証評価機関が定めた大学における評価項目を基に取りまとめたものである。また，高等学校については，文部科学省が定めた学校評価ガイドラインに基づいた評価項目を基に取りまとめたものである。

学校法人麻布獣医学園　中期目標・中期計画〔平成 27 年度～平成 32 年度〕
将来に向けてのビジョン

麻布獣医学園では，学園の使命を遂行するに当たり，第 3 期中期目標・中期計画〔平成 27 年度～平成 32 年度〕期間の到達目標として６つのビジョンを設定し，これらのビジョンに基づいた重点戦略を策定し，具体的な活動を展開します。

VISION-1 教育･学生支援	法人の方針である「学生・生徒第一主義」の下，大学の教育研究理念に基づき，学位授与の方針に見合う，質の高い専門性を備えた人材の育成を目指します。
VISION-2 学術研究	本学の教育研究者の特性に応じて，各教育研究者の能力が発揮されるよう，必要な学術研究支援体制の充実及び研究倫理の醸成に努めていくことを目指します。
VISION-3 社会連携	大学の教育研究理念に基づき，獣医療・人の健康・環境分析における教育研究成果を広く社会に還元することを目指します。
VISION-4 高等学校	法人の方針である「学生・生徒第一主義」の下，高等学校の教育理念に基づき，高等学校の教育方針に見合う，生徒自身の未来を拓く力を育む人材の育成を目指します。
VISION-5 ｷｬﾝﾊﾟｽ環境	大学の教育研究理念に基づき，人・動物・自然環境を意識するキャンパス整備を推進し，環境共生の調和を図りつつ，時を経るごとに価値を高めるキャンパスづくりを目指します。
VISION-6 法人経営	建学の精神に基づいた健全経営の下，学納金収入はもとより，新たな財源確保の取組として，法人事業の創出など，安定的な財務基盤の確立を目指します。

麻布大学

【学位授与の方針】
学士：人と動物と環境の共生をめざす専門的知識と技術を習得し，幅広い視野を持ち国際社会に対して積極的に貢献できる能力を身に付ける。
修士：科学者としての倫理観を備え，専門性が求められる職業を担うための能力を身に付け，人と動物と環境の共生をめざして，健康社会，食の安全に貢献することができる。
博士：学術の理論及び科学者としての倫理観を備え，高度に専門的な業務に従事するに必要な高度の研究･分析･提案能力を身に付け，人と動物と環境の共生をめざして，健全な社会の発展と国際貢献に寄与することができる。

麻布大学附属高等学校

【教育方針】
「未来を拓く力の育成」
高校の3年間は，人生の中で最も多感で，社会人として必要な人格形成に重要な意味を持つ期間と捉え，生徒は，誠実な校風のもと，学業，部活等でともに仲間と学びあうことを通じて，「自己を知り，自らを磨く」ことにより，「自身の未来を拓く力（自らの進路をみつめ，具現化する学力的，人格的素養）」を育む。

【大学の教育研究理念】
「地球共生系」
～人と動物と環境の共生をめざして～
人と動物との共存及び人と自然環境との調和の途を探求する。

【高等学校の教育理念】
夢を語り，学問を追求･実践し，誠実なる校風の基，平和社会の建設に貢献する。

大学・大学院の目的

大　学：人格の完成につとめ，進んで学術の進歩及び人類の生活の向上に寄与し，平和社会の建設に貢献する。
大学院：高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を培い，文化の進展に寄与する。

高等学校の目的

高等学校：中学校における教育の基礎の上に，心身の発達及び進路に応じて高度な普通教育を施す。

【建学の精神】「学理の討究と誠実なる実践」

第３期　中期目標・中期計画〔平成 27 年度～平成 32 年度〕概要図

建学の精神　「学理の討究と誠実なる実践」

大学の教育研究理念

「地球共生系　～人と動物と環境の共生をめざして～」
人と動物との共存及び人と自然環境との調和の途を探求する。

高等学校の教育理念

「夢を語り、学問を追求・実践し、誠実なる校風の基、平和社会の建設に貢献する。」

理念・目的　教育研究組織

理念・目的

(1)大学院の目的規定の見直し

(2)学修の成果に係る評価等の基準（ｱｾｽﾒﾝﾄﾎﾟﾘｼｰ）の策定

教育研究組織

(1)大学院研究科の一元化の検討

(2)環境保健学研究科の専攻の統合の検討

(3)基礎教育・教養教育・教職課程を担当する教員組織の強化

教育・学生支援

教員・教員組織

・各学部各学科の将来計画に沿った専門教育が担える教員の再配置の検討

教育内容･方法･成果

(1)研究教育の質の向上
(2)FD の推進
(3)専門知識，技術の習得
(4)学修成果の向上

学生の受入れ

(1)ｱﾄﾞﾐｯｼｮﾝﾎﾟﾘｼｰに基づいた質の高い学生の確保
(2)獣医学研究科における収容定員の検討

学生支援

(1)入学から就職までの学生支援を組織的な対応を推進する。
(2)修学支援の強化・充実

学術研究　社会連携　キャンパス環境

教育研究環境

(1)キャンパス整備における４つの柱の一つである「環境・共生」の方針を踏まえ，動物飼育エリアの再整備を年次計画に基づいて取り組む。
(2)幅広い研究分野を有する本学研究者の特性に応じた学術支援を充実させる。

社会連携･社会貢献

(1)獣医療・人の健康・環境分析における社会貢献を積極的に推進し，その成果を社会に還元する。
(2)地域社会との連携の推進及び生涯教育（卒後教育を含む。）の充実を図る。

法人経営

管理運営・財務

(1)改正学校教育法を踏まえた学長・学部長等の意思決定支援体制の見直し・強化を図る。
(2)事務職員の資質向上に向けた取組を行う。
(3)中期財政見通しに基づき、安定的な財務基盤の確立を図る。

内部質保証

(1)本学の教育研究活動について、定期的に自己点検・評価を行い、その結果を公表する。
(2)ｱｾｽﾒﾝﾄﾎﾟﾘｼｰの策定を目指す

附属機関

生物科学総合研究所

・生物科学に関する学術分野の研究機能を果たす。

学術情報センター

・図書、学術資料及び情報関連環境を提供して、教育研究の推進に寄与する。

動物管理センター

・動物飼育管理を介して、教育研究支援を行う。

動物病院

・獣医療を通じて地域社会に貢献する。

教育推進センター

・高校から大学教育への円滑な高大接続教育の推進

研究推進・支援本部

・本学の研究成果を知的資産として保護する。

地域連携センター

・相模原市、神奈川県及び東京都町田市との連携

高等学校

教育課程・学習指導　ｷｬﾘｱ教育/生徒指導　生徒の受け入れ

(1)本校生徒の実情に即した教育課程の編成
(2)進路を切り開く学力の充実
(3)基本的生活習慣の確立

保健管理/安全管理　特別支援教育

学校保健計画に基づく生徒の心身の健康の維持・増進

組織運営/研修　教育目標･学校評価　教育環境整備

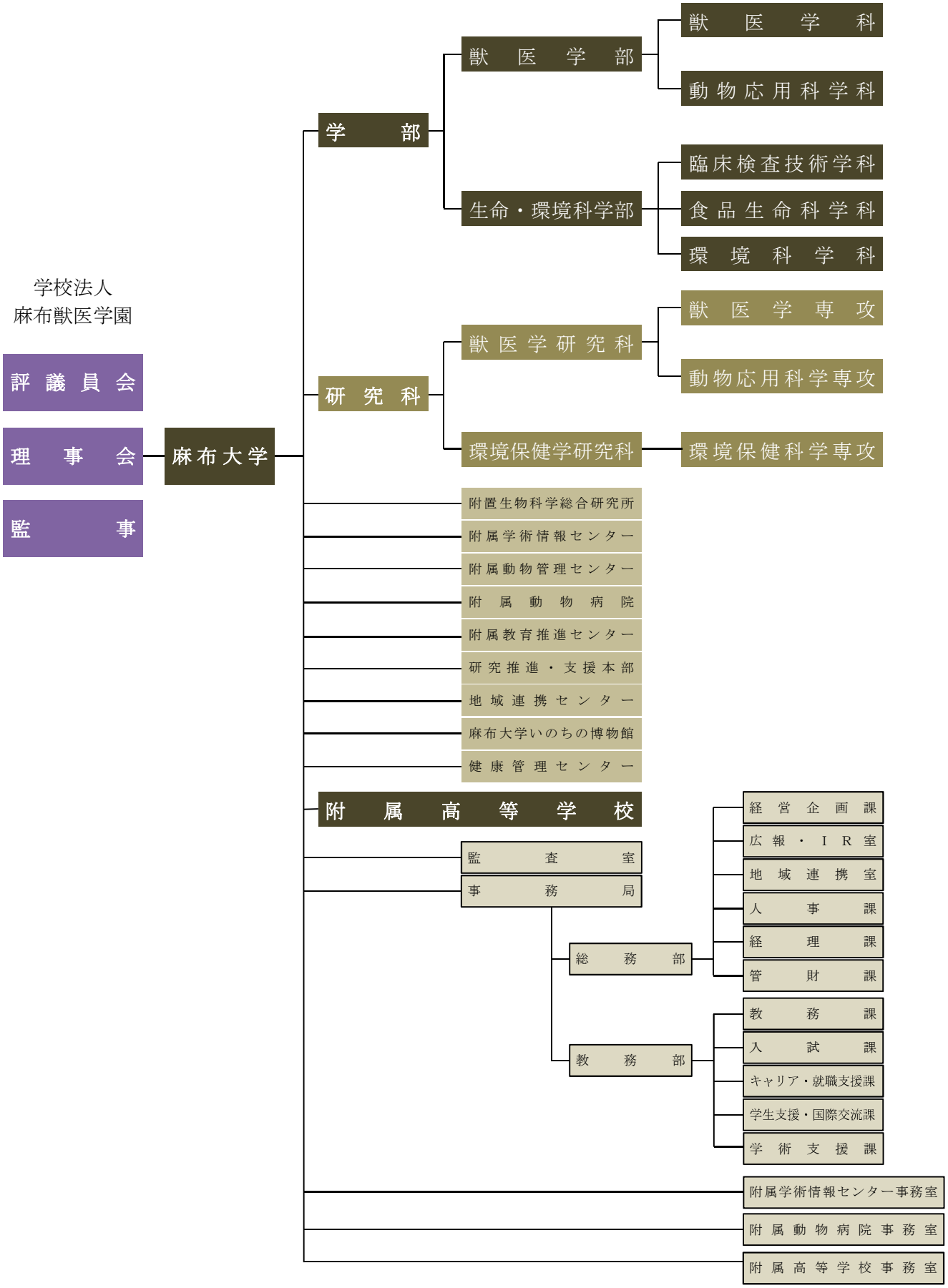
学校長を中心とした教育目標の達成に向けたリーダーシップの発揮

情報提供/地域連携

(1)後援会・地域住民による参画
(2)学校情報に関する情報開示

6．機構図

2017(平成29)年5月1日現在



7．役員・評議員

2017(平成 29)年 5 月 1 日現在

	任期	定数	現員
理　事	4 年	10～11 人	11 人
監　事	4 年	2 人	2 人
評議員	4 年	28～34 人	34 人

（1）役員

理事・監事の区別	担当職務等	氏　名	就任年月日（重任年月日）	寄附行為	選任区分	常勤/非常勤	備考
理事	理事長	**柏崎直巳**	平成 21 年 6 月 1 日（平成 28 年 6 月 1 日）	第 8 条第 2 号	評議員（評議員会選任）	常勤	平成 26 年 6 月 25 日理事長就任
理事		**浅利昌男**	平成 26 年 6 月 25 日	第 8 条第 1 号	大学長	常勤	
理事	総務・高校担当	**滝沢達也**	平成 28 年 6 月 1 日	第 8 条第 2 号	評議員（評議員会選任）	常勤	
理事	改革(教育・研究)担当 動物病院支援副担当	**山下　匡**	平成 28 年 6 月 1 日	第 8 条第 2 号	評議員（評議員会選任）	常勤	
理事	財務担当	**川上　泰**	平成 28 年 6 月 1 日	第 8 条第 2 号	評議員（評議員会選任）	常勤	
理事	総務・高校副担当 動物病院支援副担当	**髙橋　徹**	平成 15 年 6 月 1 日（平成 28 年 6 月 1 日）	第 8 条第 2 号	評議員（評議員会選任）	非常勤	
理事	総務・高校副担当	**横尾清文**	平成 24 年 6 月 1 日（平成 28 年 6 月 1 日）	第 8 条第 2 号	評議員（評議員会選任）	非常勤	
理事	改革(教育・研究)副担当	**松家芳実**	平成 28 年 6 月 1 日	第 8 条第 2 号	評議員（評議員会選任）	非常勤	
理事	財務副担当	**中村　滋**	平成 28 年 6 月 1 日	第 8 条第 2 号	評議員（評議員会選任）	非常勤	
理事		**武本成十**	平成 28 年 6 月 1 日	第 8 条第 3 号	学識経験者（理事会選任）	非常勤	
理事		**中田祐児**	平成 28 年 6 月 1 日	第 8 条第 3 号	学識経験者（理事会選任）	非常勤	
監事		**小野口勝巳**	平成 24 年 6 月 1 日（平成 28 年 6 月 1 日）	第 9 条		非常勤	
監事		**保坂　広**	平成 28 年 6 月 1 日	第 9 条		非常勤	

（2）評議員　　2017(平成 29)年 5 月 1 日現在

氏　名	就任年月日 (重任年月日)	寄附行為	選任区分	備考
小栗山茂	平成 28 年 6 月 1 日	第 18 条第 2 号	卒業者	議長
佐藤正広	平成 28 年 6 月 1 日	第 18 条第 2 号	卒業者	副議長
柏崎直巳	平成 18 年 6 月 1 日 (平成 28 年 6 月 1 日)	第 18 条第 1 号	法人職員	評議員会選任理事
金子一幸	平成 28 年 6 月 1 日	第 18 条第 1 号	法人職員	
川上　泰	平成 24 年 6 月 1 日 (平成 28 年 6 月 1 日)	第 18 条第 1 号	法人職員	評議員会選任理事
佐原弘益	平成 28 年 6 月 1 日	第 18 条第 1 号	法人職員	
滝沢達也	平成 28 年 6 月 1 日	第 18 条第 1 号	法人職員	評議員会選任理事
田原口智士	平成 28 年 6 月 1 日	第 18 条第 1 号	法人職員	
藤井洋子	平成 28 年 6 月 1 日	第 18 条第 1 号	法人職員	
古畑勝則	平成 28 年 6 月 1 日	第 18 条第 1 号	法人職員	
松井久実	平成 28 年 6 月 1 日	第 18 条第 1 号	法人職員	
三宅　太	平成 24 年 6 月 1 日 (平成 28 年 6 月 1 日)	第 18 条第 1 号	法人職員	
村上　賢	平成 24 年 6 月 1 日 (平成 28 年 6 月 1 日)	第 18 条第 1 号	法人職員	
柳原新太郎	平成 24 年 6 月 1 日 (平成 28 年 6 月 1 日)	第 18 条第 1 号	法人職員	
山下　匡	平成 28 年 6 月 1 日	第 18 条第 1 号	法人職員	評議員会選任理事
髙橋　徹	平成 12 年 6 月 1 日 (平成 24 年 6 月 1 日)	第 18 条第 2 号	卒業者	評議員会選任理事
中村　滋	平成 24 年 6 月 1 日 (平成 28 年 6 月 1 日)	第 18 条第 2 号	卒業者	評議員会選任理事　平成 24 年 6 月 1 日～平成 28 年 5 月 31 日寄附行為第 18 条第 3 号評議員
有賀　誠	平成 18 年 6 月 1 日 (平成 28 年 6 月 1 日)	第 18 条第 2 号	卒業者	
横尾清文	平成 24 年 6 月 1 日 (平成 28 年 6 月 1 日)	第 18 条第 2 号	卒業者	評議員会選任理事
柴田武志	平成 28 年 6 月 1 日	第 18 条第 2 号	卒業者	
函城悦司	平成 28 年 6 月 1 日	第 18 条第 2 号	卒業者	
前田　茂	平成 28 年 6 月 1 日	第 18 条第 2 号	卒業者	
松家芳実	平成 24 年 6 月 1 日 (平成 28 年 6 月 1 日)	第 18 条第 2 号	卒業者	評議員会選任理事
長友士郎	平成 24 年 6 月 1 日 (平成 28 年 6 月 1 日)	第 18 条第 2 号	卒業者	
白石政美	平成 21 年 6 月 1 日 (平成 28 年 6 月 1 日)	第 18 条第 2 号	卒業者	
佐藤　泰	平成 24 年 6 月 1 日 (平成 28 年 6 月 1 日)	第 18 条第 2 号	卒業者	
牛尾光宏	平成 28 年 6 月 1 日	第 18 条第 3 号	学識経験者 (評議員会選任)	
酒井健夫	平成 28 年 6 月 1 日	第 18 条第 3 号	学識経験者 (評議員会選任)	
佐藤英明	平成 28 年 6 月 1 日	第 18 条第 3 号	学識経験者 (評議員会選任)	
武本成十	平成 24 年 6 月 1 日 (平成 28 年 6 月 1 日)	第 18 条第 3 号	学識経験者 (評議員会選任)	理事会選任理事　平成 24 年 6 月 1 日～平成 28 年 5 月 31 日寄附行為第 18 条第 2 号評議員
中田祐児	平成 28 年 6 月 1 日	第 18 条第 3 号	学識経験者 (評議員会選任)	理事会選任理事
宮島成郎	平成 28 年 6 月 1 日	第 18 条第 3 号	学識経験者 (評議員会選任)	
浅利昌男	平成 24 年 6 月 1 日 (平成 26 年 6 月 25 日)	第 18 条第 4 号	大学長	兼理事　平成 24 年 6 月 1 日～平成 26 年 6 月 24 日寄附行為第 18 条第 1 号評議員
中山浩一	平成 29 年 4 月 1 日	第 18 条第 5 号	高等学校長	

8．学生・生徒の状況

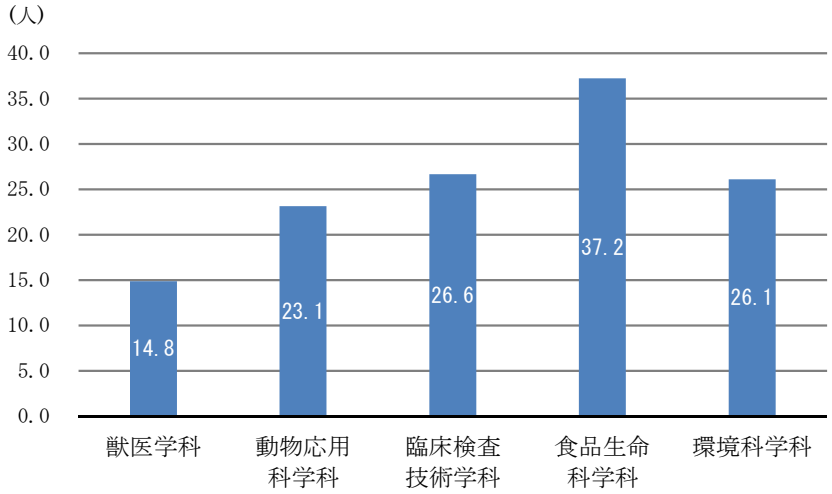
2017(平成 29)年 5 月 1 日現在

（1）入学定員，収容定員，学生・生徒数，収容定員充足率　（人）

学部・学科等			入学定員	収容定員	学生・生徒数 1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次	合計	収容定員充足率
学部	獣医学部	獣医学科	120	720	142	158	149	150	135	142	876	121.7%
		動物応用科学科	130	490	177	149	136	139	—	—	601	122.7%
		小　計	250	1,210	319	307	285	289	135	142	1,477	—
	生命・環境科学部	臨床検査技術学科	80	320	94	96	102	81	—	—	373	116.6%
		食品生命科学科	80	320	91	92	94	95	—	—	372	116.3%
		環境科学科	80	320	91	89	84	101	—	—	365	114.1%
		小　計	240	960	276	277	280	277	—	—	1,110	—
	学 部 計		490	2,170	595	584	565	566	135	142	2,587	—
研究科	獣医学研究科	獣医学専攻博士課程	10	40	8	8	8	3	—	—	27	
		動物応用科学専攻 博士前期課程	20	40	15	21	—	—	—	—	36	
		動物応用科学専攻 博士後期課程	4	12	2	4	3	—	—	—	9	
		小　計	34	92	25	33	11	3	—	—	72	
	環境保健学研究科	環境保健科学専攻 博士前期課程	7	14	3	4	—	—	—	—	7	
		環境保健科学専攻 博士後期課程	2	6	1	0	1	—	—	—	2	
		小　計	9	20	4	4	1	—	—	—	9	
	研 究 科 計		43	112	29	37	12	3	—	—	81	
附属高等学校			258	774	337	527	489	—	—	—	1,353	
総 合 計			791	3,056	961	1,148	1,066	569	135	142	4,021	

※　2017（平成 29 年）度から獣医学部動物応用科学科の入学定員を変更したことから，同学科の 2017（平成 29）年度の収容定員は次のとおり。収容定員　計 490 人：1 年次 130 人，2 年次 120 人，3 年次 120 人，4 年次 120 人

（2）専任教員一人当たりの学生数



1. 獣医学科には附属動物病院所属専任教員，動物応用科学科には基礎教育系及び附置生物科学総合研究所所属専任教員，環境科学科には国際コミュニケーション及び教職課程所属専任教員を含む。

2. 学長及び特任教員は除く。

（3）非正規課程履修者　（人）

区　分	獣医学部	生命・環境科学部	獣医学研究科	環境保健学研究科	動物病院	合　計
研究生	28	3	0	0	0	31
研修生	1	0	0	0	0	1
研修獣医師	―	―	―	―	65	65
聴講生	2	1	0	0	0	3
科目等履修生	0	1	0	0	0	1
外国人研究生	1	0	0	0	0	1
特別聴講学生(受入)	0	0	0	0	0	0
特別研究学生(受入)	0	0	0	0	0	0
合　計	32	5	0	0	65	102

※　特別聴講学生，特別研究学生として各協定大学大学院研究科に派遣する大学院学生は，両研究科ともになし。

9．教職員の状況

2017(平成29)年5月1日現在

（1）大学教員（常勤）　（人）

学部・学科等		学長		教授		准教授		講師		助教		助手		特任教員		合計
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
学　長		1	0	―	―	―	―	―	―	―	―	―	―	―	―	1
獣医学部	獣医学科	―	―	15	2	12	2	11	5	4	2	0	0	0	0	53
	動物応用科学科	―	―	8	1	6	0	1	3	0	0	0	0	1	1	21
	基礎教育系	―	―	1	0	2	0	3	0	0	0	0	0	0	0	6
	小　計	0	0	24	3	20	2	15	8	4	2	0	0	1	1	80
生命・環境科学部	臨床検査技術学科	―	―	5	0	3	2	3	1	0	0	0	0	0	0	14
	食品生命科学科	―	―	2	3	1	0	2	0	1	1	0	0	0	0	10
	環境科学科	―	―	4	0	3	1	4	0	0	0	0	0	0	0	12
	国際コミュニケーション	―	―	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	2
	教職課程	―	―	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2
	寄附講座	―	―	(2)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1(2)
	小　計	0	0	12(2)	3	7	3	12	1	1	1	0	0	0	1	41(2)
大学院	獣医学研究科	―	―	(27)	(3)	(17)	(2)	(11)	(2)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(62)
	環境保健学研究科	―	―	(9)	(3)	(4)	(3)	(4)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(23)
	小　計	0	0	(36)	(6)	(21)	(5)	(15)	(2)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(85)
附置生物科学総合研究所		―	―	1(2)	0	(1)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1(3)
附属学術情報センター		―	―	(1)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	(1)
附属動物管理センター		―	―	(1)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	(1)
附属動物病院		―	―	2(2)	0	1	0	2	0	1	0	0	0	7	4	17(2)
附属教育推進センター		―	―	(1)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	(1)
研究推進・支援本部		―	―	(1)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	(1)
地域連携センター		―	―	0	0	(1)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	(1)
健康管理センター		―	―	(1)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	(1)
合　計		1	0	39	6	28	5	29	9	6	3	0	0	8	6	140

1.　（ ）は兼務者を表す。ただし，同一部門内兼務者を除く。
2.　附属施設の長は兼務者とする。また，副病院長も兼務者とする。

2017(平成 29)年 5 月 1 日現在

（２）高等学校教員（常勤）　（人）

	校長		副校長		教頭		教諭		契約講師		合計
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
附属高等学校	1	0	1	0	1	0	25	12	7	0	47

（３）職員（常勤）　（人）

	事務局長		事務局長待遇		事務局次長		部長		課長・事務長室長・主監		管理職計
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
麻布大学	(1)	0	1	0	0	1	2	0	10	3	17
附属高等学校	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
合計	(1)	0	1	0	0	1	2	0	11	3	18

（人）

	補佐		主査		主任		一般職		契約職員		計
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
麻布大学	6	0	7	3	15	6	12	6	1	8	64
附属高等学校	0	0	1	1	0	0	1	1	1	0	5
合計	6	0	8	4	15	6	13	7	2	8	69

※（ ）は兼務者を表す。

常勤教職員

男　204 人	女　70 人	総合計　274 人

※ 常勤教職員の合計欄は，実人数である。

（４）非常勤教職員　（人）

学部等	非常勤講師	非常勤職員	合　計
獣医学部	49	20	69
生命・環境科学部	42	8	50
附属高等学校	40	1	41
事務組織	0	31	31
合　計	131	60	191

1. 非常勤講師欄は，獣医学部，生命・環境科学部及び附属高等学校を兼務する者を含む延べ人数である。
2. 非常勤講師には，業務委託による講師を含む。
3. 非常勤職員には，派遣職員を含む。

Ⅱ　事業の概要

1．平成 28 年度事業計画の実施状況

平成 28 年度事業計画［平成 28 年 2 月 23 日開催の理事会及び評議員会で承認］は，2016(平成 28)年度に学園全体として事業を推進するに当たり，学園の中期目標・中期計画［2015(平成 27)年度～2020(平成 32)年度］を基に，本学園の役員及び教職員が共通の認識に立って学内外ともに明確にしておかなければならない事項を取り上げたもので，その実施状況は，次のとおりである。

決算額・予算額（単位：百万円）

平成 28 年度事業計画	実施状況			
1．優秀な教職員の確保	決算額	3,063	予算額	3,008
(1)将来展望を見据えた教職員の計画的採用と人材の適正配置	【大学】 大学教員にあっては，教育研究組織の人員構成を見据えながら，教育・研究活動を継続的・安定的に維持できるよう，人員の配置及び退職者の補充・確保に努めた。 事務職員にあっては，平成 28 年度の定年退職者や中途退職者の補充として，専任職員 4 人を公募採用し，事務組織を維持・継続するための人員確保に努めた。 【附属高等学校】 生徒数の増加に伴い，安定的に教育の質を確保できるように，適正な人員配置に努め，平成 28 年度には教諭 2 人，契約講師 5 人を増員し，教育体制を整備した。			
(2)獣医学教育モデルコアカリキュラムに基づく参加型臨床実習に対応した附属動物病院人員体制の充実	特任教員Ⅰ種（特任助手）及び特任教員Ⅱ種（特任副手）の人員確保に努めたが，特任教員Ⅱ種（特任副手）の人員枠を充足できなかったこともあり，平成 28 年 12 月から特任教員Ⅱ種（特任副手）の給料を増額改正した。今後も引き続き，附属動物病院人員体制の充実に努める。なお，特任教員Ⅰ種（特任助手）については，4 人を平成 29 年 4 月 1 日付けで採用することを決定した。			
(3)学園職員の資質の向上に向けた人材育成の推進	【大学】 大学教員におけるファカルティ・ディベロップメント（FD）活動については，平成 27 年度に全学組織の FD 委員会を設置し，学長の下で組織的に FD 活動に取り組んでいる。FD 委員会に設置された 15 の部会で特色ある研修会や講演会等が開催され，積極的な資質向上に努めた。 全学的な活動として，ハラスメント防止に関する問題意識を喚起するよう，教育講演会及び研修会を 3 回開催し，ハラスメントに関する資質向上に努めた。 事務職員においては，課長等を対象に外部講師による管理職研修を行い，職場のリーダーとして求められるマネジメント力，貢献力，判断力			

	等に関する本質，構造，キーポイントについて，講義，演習を通して理解修得に努めた。また，ミドルクラスの課長補佐，主査及び主任 30 人で構成する「事務改革ワーキンググループ」を設置し，課題 5 テーマについて 5 グループに分かれて，課題解決の提案を取りまとめ，検討結果の報告及び情報交換を行い，課題に対する認識の共有化を図り，事務職員の資質向上，組織の活性化に努めた。 【高等学校】 学内外問わず，教員研修の場を飛躍的に増加させて，人材育成の推進に努めた。 主な研修内容は以下のとおりである。 ・入職前初任者研修会の実施 ・初任者対象研究授業の実施 ・中堅若手教員対象研究授業及び授業研究会の実施 ・全教員による教員相互授業参観週間の設置及び実施 ・神奈川県私学協会主催初任者研修会への参加 ・他校への授業見学研修の実施 ・各種研修会への参加
2．教育事業の見直し・活発化　決算額 828　予算額 828	
(1)大学共通	
①平成 29 年度実施の大学評価(認証評価)受審への対応準備	平成 29 年度に学校教育法に規定する認証評価を受審するため，基礎データの収集及び調書を作成，これに基づく自己点検・評価を実施し，報告書及び根拠資料を取りまとめた。取りまとめた報告書及び根拠資料をもって，平成 29 年 1 月に公益財団法人大学基準協会（以下「大学基準協会」という。）の大学評価に申請を行い，平成 29 年 3 月に評価資料の提出を行った。 また，大学基準協会が獣医学教育の第三者評価機関として，平成 29 年度から獣医学教育評価を開始することに伴い，現状の教育の評価，改善点等の把握に努め，多様な課題に対して迅速に対応するため，本学として第 1 回目の獣医学教育評価を受審することを決定し，獣医学教育評価の自己評価ワークシートを作成の上，自己点検・評価を実施した。取りまとめたワークシート及び根拠資料をもって，平成 29 年 1 月に大学基準協会に申請を行い，平成 29 年 3 月に評価資料の提出を行った。
②大学共通の教員評価基準(指標)の策定の推進	平成 27 年度に学長の下に設置された「教員評価ワーキンググループ」において，平成 26 年 3 月 27 日付けで前学長に報告された「教員評価基準に関する検討委員会報告書」を基に，実効性のある評価基準の検討を行った。同ワーキンググループの検討結果を「麻布大学における今後の教員評価の在り方について（報告）」として取りまとめ，平成 28 年 4 月 5 日付けで学長に報告した。平成 28 年度試行実施，平成 29 年度までに本格運用を目指したが，実現に至っていない。

③FD 活動の推進	平成 28 年度の FD 活動については，各部会を中心に次のとおり実施した。 ①　教育推進センター部会 ・学生による授業評価，教育改善プログラム選考，在学生調査 2016，在学生調査 2015 結果報告会 ②研究推進・支援本部部会 ・CITI 倫理セミナー（平成 28 年 6 月 30 日開催） ・研究不正を疑われないための画像処理セミナー（平成 28 年 10 月 18 日開催）（獣医学研究科部会及び環境保健学研究科部会と合同開催） ③地域連携部会 ・附属高校及び大学教員合同研修会（平成 28 年 7 月 13 日開催） ④獣医学研究科部会 ・アクセプトされる論文の書き方ワークショップ（平成 28 年 5 月 27 日開催） ⑤学生支援部会 ・メンタルヘルスセミナー（平成 29 年 1 月 19 日開催） ⑥就職支援部会 ・キャリア・就職支援教育講演会（平成 28 年 12 月 26 日開催） また，「大学設置基準等の一部を改正する省令」（平成 28 年文部科学省令第 18 号，平成 29 年 4 月 1 日施行）による FD・SD の見直しに伴い，平成 29 年度以降は全学教務委員会において FD 活動を推進することを決定し，必要な規程の整備を行った。
④私立大学等改革総合支援事業への積極的取組	学長の下に設置した「私立大学等改革総合支援事業対策ワーキンググループ」において，私立大学等改革総合支援事業のタイプ 2［特色を発揮し，地域の発展を重層的に支える大学づくり］及びタイプ 3［産業界・国内の大学等と連携した教育研究］の採択を目指して優先的に取り組み，平成 28 年度は，タイプ 3 に選定された。 また，これらの一連の取組の中で，日本獣医生命科学大学との連携協力に関する協定を締結し，相互に連携して教育改善が図れるよう体制を整えた。
⑤学生の修学支援体制の充実	各学部における学生指導委員会において，以下の取組を実施した。 ①出席状況の確認 ・前期，後期とも，15 回の授業回数のうち，5 回終了時における必修科目の出席状況を確認し，3 回以上欠席している学生を対象に指導を行う。さらに 10 回終了時にも同様の指導を行い，学習意欲の喚起を実施した。 ②成績不良者への対応 ・平成 27 年度指導対象学生の進級状況に鑑み，平成 28 年度指導対象基準の見直しを行った。

	・前期成績確定時における留年確定者に対し，父母との連携した指導を実施した。 ・前期成績確定時に平成 28 年度指導対象基準に基づき，留年懸念者への指導を行った。 ・平成 28 年度進級判定結果を受けて，留年した学生の父母と連携した，次年度学習指導を行った。
⑥キャリア教育・就職支援の強化・充実	学生が進路選択をする際に直面する様々な問題に対応するため，就職支援にあっては，繁忙期において，学生相談，エントリーシートの添削及び面接指導等に対応する時間を増やす等の支援体制の充実を図った。 就職活動の取組としては，実践的なバーチャル採用試験講座等，就職開催行事の充実を図った。また，ハローワーク相模原との連携の下，学卒担当ジョブサポーターを学内に派遣していただき，未就職者の就労支援を行った。 キャリア支援にあっては，キャリア形成を醸成させるためのライフキャリアセミナーの開催及び本学の学びに関連した企業人事担当者とのパネルディスカッション講座を開催した。
⑦高大接続改革実行プランの施行に伴う大学教育改革及び入学者選抜改革の検討(教学三方針の法定化への対応，教員養成課程改革への対応に向けた検討，認証評価への取組対応など)	(1)教学三方針について，各学科又は各研究科専攻において，学位授与方針，教育課程編成・実施の方針，入学者受入れの方針の見直しを行い，平成 30 年度入学者から適用することとした。また，三方針に基づく大学教育の PDCA サイクルを確立した。 (2) 大学入学者選抜実施要領の見直し等については，「大学入学希望者学力評価テスト(仮称)」の「実施方針」等の公表を受けて，実施することとし，具体的な検討は平成 29 年度に取り組むこととした。
⑧競争的資金の適正管理，倫理教育の実施	麻布大学競争的資金等の運営・管理に関する規程，麻布大学競争的資金等執行マニュアル，麻布大学における研究活動上の不正行為の防止及び対応に関する規程に基づき，競争的資金の適正管理に取り組んだ。 また，倫理教育として，全教員，全大学院学生（前・後期課程含む），公的研究費を取り扱う事務職員（経理課・管財課・学術支援課）に対して，CITI Japan の e-ラーニングプログラムの受講を要請し，誓約書の提出を求めた。そのほかに，外部講師を招き教職員を対象にした研究倫理教育の研修会・説明会を企画し，平成 28 年度も，研究分野における画像処理の知識と方法に関するセミナーを開催した。
(2)学部	
①入学定員超過率・編入学者数比率の改善 ・入学定員超過率を全学部で 1.20 以下に抑制	平成 29 年度入学試験では，事業計画に基づき，動物応用科学科を除く 4 学科の入学者については，入学定員超過率を 1.20 以下にするよう取り組むことができた。 ただし，動物応用科学科については，予想以上に歩留率が増加し，結果的に入学定員超過率が 1.33 となった。平成 30 年度入学試験は，全学

	科とも適正な入学定員超過率に努めたい。
②入学前・入学時修学指導の充実	①入学前教育 大学入試制度の多様化に伴い，入学決定時期の早期化が進んだ結果，入学までの間，時間を持て余した入学決定者に勉学意欲の低下が見られ，入学後の学習理解に一般入学試験合格者との差が出てしまう結果となっていることから，以下の取組を実施した。 ・獣医学科を除く 4 学科において，入学決定者とその父母を対象とした学科説明会を開催し，入学前教育の課題，専任教員の紹介，学科・教育課程の概要説明を行った。 ・レポート課題等の提出 ・教育推進センターと連携したリメディアル授業（3 月実施） ・附属高等学校推薦合格者を対象とした入学前支援授業（1 月実施） ②入学時修学指導 入学式当日を含む 4 日間で入学者オリエンテーションを実施し，カリキュラム，学生生活，科目履修，各学科の進級基準，卒業要件等大学生活に必要な事項の説明を行った。
③高大一貫教育の推進	附属高等学校生徒に対し，高大一貫授業（102 人受講）及び夏期体験実習（51 人参加）を実施した。また，高等学校教育と大学教育の連携強化を目的に附属高等教員及び大学教員合同研修会を開催した。
④各学部の取組 【獣医学部】 ・獣医学教育モデルコアカリキュラムへの対応準備	①モデルコアカリキュラムに対応した新カリキュラムを平成 30 年度から導入するための検討を行った。 ②平成 29 年度から実施する参加型臨床実習に向け，vetCBT 及び vetOSCE のトライアルを実施し，課題の整理と解決を行った。
【生命・環境科学部】 ・食品生命科学分野の充実検討	食品生命科学科では，平成 30 年度に栄養士養成施設設置に向けた学科改組を検討してきたが，関係省庁との事前相談の中で大きな課題が提示され，現時点では解決が非常に困難であることから，平成 30 年度の学科改組は行わないことを決定した。 今後は，食品生命科学科を含めた生命・環境科学部の改革について，学部将来構想検討委員会を設置し，引き続き検討することとしている。
(3)大学院 ・両研究科教育のコースワークの充実に向けた検討の推進	他大学院との単位互換制度を本学大学院の他研究科の履修にも適用させ，現行の大学院授業科目を増やすことなく，学生の履修における選択肢を広げることにより，コースワークの充実を図った。
(4)高等学校	
①全教員による募集活動の推進及び入学定員の適正管理への取組	生徒の質の確保と入学者数の適正化に努め，両者において，昨年度に対して大きく向上する結果となった。引き続き適正な入学者数となるよう取り組んでいく。
②高大一貫教育の推進	継続的に 2，3 年生の授業等を通して，高大一貫教育の推進を行ってい

	る。
③高大接続改革実行プラン施行に伴う生徒の主体的・共同的な学習 ・指導方法の充実に向けて必要な方策への対応	教員が外部研修会に積極的に参加するとともに，校内でも研修会や事例発表会を重ね，ICT 教具の活用とともに実践が進んでいる。
(5)学生・生徒募集のための広報活動の効果的実施 ・学生及び生徒の募集強化のための全学体制の構築	【大学】 教職員が協力し，次のとおり広報活動に取り組んだ。 ・首都圏を中心とした高校訪問の強化及び関東エリアで開催する高校内進路相談会，高校内模擬授業や全国規模の相談会（東京，大阪，名古屋，福岡，仙台で開催）等へ積極的に参加することで高校生及び高校教諭への認知度向上を図った。 ・オープンキャンパス等の学内イベントのほか，高校教員対象大学説明会及び理科実験技術研修会を実施し，教員と高校教諭との良好な関係の構築に努めた。 ・大学の情報発信強化及び受験生への訴求力向上のため，平成 29 年 4 月からのホームページのリニューアルに取り組み，受験生向けのサイトを先行して公開するとともに，各種媒体等を通じた広報活動を行った。 【附属高等学校】 ホームページ等のインターネット環境の更なる拡充を行ったことにより，オープンスクールでのイベント予約など，ネット上での利便性を向上させることで募集強化を図った。 また，附属高等学校の広報活動の中で，大学の紹介も行うことで全学の広報活動の一助としている。
(6)社会貢献活動の推進 ・卒後教育の推進	(1)獣医学，畜産学，動物応用科学，環境衛生，食品分野等関連領域に関する学術の向上と卒業生の学び直し及び会員相互の親睦を図ることを目的とする「麻布獣医学会」と，「麻布環境科学研究会」を開催し，次のとおり特別講演を開催し，市民にも開放することによって地域社会への情報発信を図った。 ①麻布獣医学会：「犬の遺伝性疾患における原因遺伝子解析のための遺伝子（DNA）バンク拠点形成」をメインテーマとして取り上げ，1）犬の緑内障および白内障の遺伝子解析，2）犬のアトピー性皮膚炎の遺伝子解析の成果発表を行った。 本研究において犬の遺伝子(DNA)資源の活用と保存のために，獣医系大学附属動物病院等の臨床医を中心に遺伝関連疾患を含む非感染性疾患犬や陰性対照となる健常犬からの DNA 収集を行い，収集された DNA を使用して犬の遺伝関連疾患における原因遺伝子の解析を行うことを本研究の目的とした。また，市民公開講座では，「いくつから始めればいいの？アンチエイジング」という演題を取り上げ，自分たちにとって，又，次

	世代を担う子供たちにとってのアンチエイジングを，市民公開講座を通し，一般市民も含めて学ぶことを目的とした。 ②麻布環境科学研究会：平成 28 年度は環境科学科が担当学科となり，「健康な環境の創生をめざして」をメインテーマとして取り上げ，1）環境問題の歴史と分析技術の進歩，2）有機化学物質による水域汚染のトレンドと将来展望，3）バイオの眼で見る化学物質複合汚染の 3 演題の講演を行った。 (2) 卒後教育などの卒業生に対するサービス機能の強化のため「麻布大学教育セミナー」を実施した。 ・麻布大学養豚科学セミナー：平成 28 年 9 月 28 日 ・麻布大学教育セミナーin さいたま（市民公開講座）：平成 29 年 2 月 19 日 ・麻布大学附属病院主催 小動物臨床セミナー： 平成 28 年 6 月 10 日～平成 29 年 2 月 10 日 毎週金曜日，全 7 回， 研修獣医師及び本学動物病院と関係のある東京・神奈川の開業獣医師を対象として開催，研修医の教育及び附属動物病院の広報活動など卒後教育の推進を図った。（延べ参加者数 329 人）
・地域・国際交流の活性化	(1) 地域交流の活性化 ・市民大学講座 2 講座 ①『動物から人間社会へ－動物研究からわかる人の進化と健康―』 （平成 28 年 7 月 27 日～9 月 7 日 毎週水曜日，全 5 回） ②『私たちの生活に潜む健康リスク～環境科学でリスクと向き合う～』 （平成 28 年 7 月 28 日～9 月 8 日 毎週木曜日，全 5 回） ・さがまちカレッジ 2 講座 ①『動物の頭の骨を　観察してみよう！～シカとタヌキの骨くらべ～』 （平成 28 年 7 月 29 日） ②『愛されわんこを目指すには！親子でできるワンコミュニケーション』 （平成 28 年 12 月 3 日） ・オーサーズカフェ 1 講座 『健康を維持する食生活』 （平成 28 年 4 月 9 日） (2) 国際交流 ・学術交流協定校との連携の実施 学術交流協定校 6 大学（ペンシルヴァニア大学，ベルン大学，国立台湾大学，国立中興大学，チェンマイ大学，北京農学院）に計 16 人の学生を派遣した一方で，同協定校から計 20 人の学生及び研究者（教員）を受入れ，学術交流を行った。

３．研究活動の活性化		決算額	356	予算額	372
(1)研究活動の活発化					
	①学内競争的資金の効果的活用	平成 28 年度は，本学初の知財の展開と活用を図る研究に対する「知財展開研究」をメインに前年に引き続き支援を実施した。当該補助金の活用により，特許出願のみならず，企業へのライセンスに向けたエビデンスの集積に貢献できた。			
	②外部資金獲得の推進	外部資金獲得のために，平成 28 年度は学内教員を講師としてセミナーを開催した。科研費については，申請率 100%を目指して全教員に対して個々に働きかけを行うほか，教員が作成した申請書については，研究推進・支援本部のコーディネーター及び課員の複数の眼を通して内容を確認し，教員と共にブラッシュアップを図った申請を行う等，外部資金獲得を推進している。 また，各種助成金の公募情報を取りまとめ，隔週で教員にメール通知し，情報提供を行っているため，年々その申請数も増加の傾向にある。			
	③知的資産の蓄積及び活用と産学官連携の推進	教員からの権利化に係る研究成果相談への対応や，大学の知的資産を顕在化させることを目的に，実用化が見込まれるシーズの発掘から特許出願，権利化・維持管理を行った。また，保有している知的資産の社会還元（技術移転）を進め，更なる研究資金の獲得や各種イベントへの出展を通して研究アクティビティ PR による大学のブランド価値向上に働きかけた。共同研究・受託研究等を積極的に推進するために，企業等との交渉・契約を一元的に執り行い，研究の加速化及び研究費の獲得を推し進めた。			
	④ピッグ・リサーチセンター構想の推進	平成 28 年 2 月に学長の下にワーキンググループを設置し，(仮称)ピッグリサーチセンター設立目的等の骨子の作成から，獣医師向けトレーニングプログラムの企画，受講生向け動物実験倫理プログラムの企画，オペレーション体制，ブタの管理，連携企業との医療者向けトレーニング等に関する検討を重ねた。平成 29 年度も多面的な検討を継続中である。			

４．附置・附属施設の充実	決算額	687	予算額	746
(1)学術情報センター機能の充実	図書館機能にあっては，麻布大学収書方針に基づき，教育・学習・研究のための図書を拡充し体系的な蔵書を構築するとともに，電子ジャーナル，データベース等の版元価格上昇が続く中で，利用者への学術情報の効率的・効果的提供を維持した。また，過年度分の未製本雑誌の計画的整備に着手し，利用者サービスの向上を図った。 情報システム機能にあっては，事業計画に基づき，基幹事務システムのリプレイス，ポータルシステム・認証関連システムのリプレイス及び事務系 PC のリプレイスを実施した。これらのリプレイスにより，情報化グランドデザインで示された，ユーザの利便性の向上，業務の効率化及び質の向上を実現しながらも，リプレイスにかかるサーバハードウェア等の投資費用を大幅に削減し，情報化投資の適正化を図った。			

	いのちの博物館機能にあっては，博物館の基本機能の整備を図るとともに，企画展示として「ロードキル」展，「動物の目」展，「動物の病気」展を，新規収蔵品展示として「須田修氏遺品」を特別展として開催した。また，「夏休み子供教室」及び「フクロウ食性分析」のイベントを開催したほか，地域住民を中心とした見学者を数多く受け入れるなど，博物館活動を通して大学の社会貢献である地域連携を具体的に進めることとした。平成 29 年度からは事務分掌を総務部地域連携室に移管し更なる基盤形成を図ることとしている。
(2)動物病院の医療用器具・機械の計画的整備，動物病院支援に関するワーキンググループ報告に基づく改善整備	平成 27 年度に滅菌器の不具合に対応するため，洗浄・滅菌・保管を一貫する計画を立て，平成 27 年度において一次工事を完了し，平成 28 年度には，医療機器洗浄器・大型高圧蒸気滅菌器・滅菌物保管庫を設置した。このことにより滅菌作業が円滑に行えるようになったほか，有害とされる EOG（エチレンオキサイトガス）滅菌装置の使用頻度を大幅に削減され，労働環境が大幅に改善された。なお，EOG（エチレンオキサイトガス）滅菌装置の使用については，平成 27 年 6 月に発足した「動物病院支援に関するワーキンググループ」においても問題提起され早急な改善を求められていた。 また，平成 29 年度に導入を予定している電子カルテシステムにおける医薬品在庫管理システムを導入したほか， 除細動器・コリブリⅡセット等を新規購入し，クオリティーの高い獣医療の提供を図った。その他，劣化の進んでいた医療ガス供給設備の更新工事を実施した。
(3)生物科学総合研究所の備品の更新	生物科学総合研究所では，動物福祉対策を考慮した，国際規格に準拠したケージへシフトを進めている。一方，設立後 28 年が経過し，施設・設備の老朽化が進んでいるものの，全学的な予算縮小の観点から，緊急度を精査しつつ修繕対応を進めた。 また平成 28 年度は，長年の懸案事項であった中央洗浄室を中心とする大規模な雨漏りへの対応や，東西の階段に生じた亀裂等への対応を実施した。

５．教育研究環境の整備	決算額	871	予算額	1,141
(1)安全・良質な施設の構築				
①動物飼育エリアの整備	豚舎，更衣室棟及び飼料倉庫の建築並びに旧豚舎の解体を行った。			
②参加型臨床実習に係る施設設備	7 号館 1 階の内装を改修し，LED 無影灯及びコンピュータ X 線撮影装置を整備した。症例検討のディスカッションやレントゲンのフィルムリーディングを行うため，新規にプロジェクタを設置した。 また，附属動物病院における参加型臨床実習の実施を見据え，建物増改築案の検討・作成等を行っている。			
③高等学校の備品整備	教育に関しては電子黒板，管理に関しては食堂什器及び調理器具の更新等備品の整備を行った。引き続き経年劣化した物等を適切に管理し，教具をはじめとして備品類の整備と管理を適切に行っていく。			

６．業務運営の改善・効率化		決算額	287	予算額	355
(1)寄附金獲得に向けた取組	従来，大学入学者のみを対象に 1 口 10 万円で実施してきた一般寄附金について，対象を大学及び高等学校の在学者に広げ，1 口金額を 1 万円に下げた上で募集を行った。 さらに，創立 125 周年記念募金サイトをリニューアルし，用途を問わない一般寄附金のほか，用途が指定できる特別寄付金も選択可能な「未来募金」としてサイトを開設した。				
(2)IR の推進	平成 27 年 4 月 1 日に設置された総務部 IR 室が平成 28 年 10 月 1 日に事務組織改組により総務部広報・IR 室となった。 IR 業務については，事務局内横断的に IR プロジェクトを組織し，評価指標に基づく事務局各課等の既存の各種データを収集し，グラフ化を基本として経年比較や他大学との比較も行いながら見える化を図り，本学の状況把握に努めた。最終的には，主に大学の総括的な内容について，「麻布大学ファクトブック 2016」として，平成 28 年度中にその概要をまとめた。				
	合　計	決算額	6,093	予算額	6,449

2．教育研究の概要

2016(平成 28)年 5 月 1 日現在

（1）2016(平成 28)年度の教育実施体制

①教員及び学生数　（人）

学部・学科等			教員								学生		
			大学設置基準上の教員数		常勤教員数		常勤教員の学位取得状況			非常勤教員数	入学定員	収容定員	学生数
			総数	内 教授(学部)内 研究指導教員 教授(大学院)	総数	内 教授(学部)内 研究指導教員 教授(大学院)	博士	修士(6 年制含む)	学士				
学部	獣医学部	獣医学科	19	10	54	18	54	0	0	54	120	720	893
		動物応用科学科	10	5	19	9	18	0	1		120	480	560
		基礎教育系	—	—	6	1	4	2	0		—	—	—
		小計	—	—	79	28	76	2	1	54	240	1,200	1,453
	生命・環境科学部	臨床検査技術学科	8	4	15	5	13	1	1	63	80	310	378
		食品生命科学科	8	4	9	5	9	0	0		80	310	369
		環境科学科	10	5	13	4	9	4	0		80	340	392
		教職課程	2	1	2	1	2	0	0		—	—	—
		寄附講座	—	—	1(2)	(2)	1	0	0		—	—	—
		小計	—	—	40(2)	15(2)	34	5	1	63	240	960	1,139
	大学設置基準上，大学全体で必要な教員数		23	14	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	学部　計		80	43	119(2)	43(2)	110	7	2	117	480	2,160	2,592
研究科	獣医学研究科	獣医学専攻博士課程	8	4	(42)	(17)	—	—	—	0	10	40	24
		動物応用科学専攻 博士前期課程	6	3	(18)	(9)	—	—	—		20	32	36
		動物応用科学専攻 博士後期課程	8	3	(18)	(9)	—	—	—		4	12	10
		小計	22	10	—	—	—	—	—	0	34	84	70
	環境保健学研究科	環境保健科学専攻 博士前期課程	12	4	(19)	(8)	—	—	—	0	7	14	8
		環境保健科学専攻 博士後期課程	12	4	(15)	(7)	—	—	—		2	6	1
		小計	24	8	—	—	—	—	—	0	9	20	9
	研究科　計		46	18	—	—	—	—	—	0	43	104	79
附属動物病院			—	—	16(2)	2(2)	7	9	0	0	—	—	—
附置生物科学総合研究所			—	—	1(3)	(2)	1	0	0	0	—	—	—
総合計			—	—	136	45	118	16	2	117	523	2,264	2,671

1. 2014(平成 26)年度から生命・環境科学部の各学科の入学定員を変更するとともに，編入学定員を廃止したことから，同学部各学科の 2016(平成 28)年度の収容定員は次のとおり。
   臨床検査技術学科及び食品生命科学科：1 年次 80 人，2 年次 80 人，3 年次 80 人，4 年次 70 人
   環境科学科　：1 年次 80 人，2 年次 80 人，3 年次 80 人，4 年次 100 人
2. 2016(平成 28)年度から獣医学研究科動物応用科学専攻博士前期課程の入学定員を変更したことから，2016(平成 28)年度の収容定員は次のとおり。
   動物応用科学専攻博士前期課程：1 年次 20 人，2 年次 12 人

②職員数　（人）

	常勤職員	非常勤職員	合計
麻布大学	80	51	131

1. （ ）は兼務者を表す。
2. 非常勤教員は，獣医学部，生命・環境科学部，大学院，附属高等学校を兼務するものを含む延べ人数である。
3. 非常勤教員には，業務委託による講師を含む。
4. 非常勤職員には，派遣職員を含む。

（2）入学試験実施状況

①入学試験結果

■　獣医学部

（人）

学部	区分 学科等		募集人数	2017（平成29）年度 志願者 男	志願者 女	志願者 計	受験者 男	受験者 女	受験者 計	合格者 男	合格者 女	合格者 計	入学者 男	入学者 女	入学者 計	2016年度 受験者	2016年度 入学者	2015年度 受験者	2015年度 入学者
獣医学部	獣医学科	推薦	25	23	59	82	23	59	82	4	23	27	4	23	27	89	25	91	23
		附属	5人程度（推薦内）	1	5	6	1	5	6	1	5	6	1	5	6	4	4	10	4
		帰国子女	若干名	2	0	2	2	0	2	1	0	1	0	0	0	1	0	0	0
		社会人	若干名	0	2	2	0	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
		外国人	若干名	0	1	1	0	1	1	0	1	1	0	0	0	3	0	0	0
		地域枠	若干名	0	1	1	0	1	1	0	1	1	0	1	1	1	1	—	—
		卒業生後継者	若干名	12	8	20	12	8	20	4	0	4	4	0	4	19	5	29	5
		AO	8	32	48	80	32	48	80	3	2	5	3	2	5	114	8	121	8
		一般	75	744	718	1,462	707	688	1,395	106	96	202	46	43	89	1,337	97	1,470	87
		センター利用	12	234	293	527	222	286	508	46	60	106	2	4	6	365	5	337	11
		計	120	1,048	1,135	2,183	999	1,098	2,097	165	188	353	60	78	138	1,933	145	2,059	138
	動物応用科学科	推薦	25	14	24	38	14	24	38	10	10	20	10	10	20	37	27	30	22
		附属	10人程度（推薦内）	5	9	14	5	9	14	5	9	14	5	9	14	7	7	13	13
		帰国子女	若干名	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		外国人	若干名	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		地域枠	若干名	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		AO	15	13	24	37	13	24	37	1	14	15	1	14	15	48	17	48	15
		一般	65	141	247	388	137	235	372	84	142	226	34	60	94	391	88	392	73
		センター利用（第Ⅰ期）	25	140	241	381	137	239	376	85	143	228	12	18	30	362	9	353	20
		センター利用（第Ⅱ期）	若干名	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2	1
		計	130	314	545	859	306	531	837	185	318	503	62	111	173	846	148	838	144
	合計	推薦	50	37	83	120	37	83	120	14	33	47	14	33	47	126	52	121	45
		附属	15人程度（推薦内）	6	14	20	6	14	20	6	14	20	6	14	20	11	11	23	17
		帰国子女	若干名	2	0	2	2	0	2	1	0	1	0	0	0	1	0	0	0
		社会人	若干名	0	2	2	0	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
		外国人	若干名	0	1	1	0	1	1	0	1	1	0	0	0	3	0	0	0
		地域枠	若干名	0	1	1	0	1	1	0	1	1	0	1	1	1	1	—	—
		卒業生後継者	若干名	12	8	20	12	8	20	4	0	4	4	0	4	19	5	29	5
		AO	23	45	72	117	45	72	117	4	16	20	4	16	20	162	25	169	23
		一般	140	885	965	1,850	844	923	1,767	190	238	428	80	103	183	1,728	185	1,862	160
		センター利用（第Ⅰ期）	37	374	534	908	359	525	884	131	203	334	14	22	36	727	14	690	31
		センター利用（第Ⅱ期）	若干名	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2	1
		計	250	1,362	1,680	3,042	1,305	1,629	2,934	350	506	856	122	189	311	2,779	293	2,897	282

1. 合格者は，正規合格者を示す。
2. 2017（平成29年）度入学試験から，獣医学部動物応用科学科の入学定員（募集人員）を120人から130人に変更。

■　獣医学部編入学

（人）

学部	区分 学科	募集人数	選抜区分	2017（平成29）年度 志願者 男	志願者 女	志願者 計	受験者 男	受験者 女	受験者 計	合格者 男	合格者 女	合格者 計	入学者 男	入学者 女	入学者 計	206年度 受験者	206年度 入学者	2015年度 受験者	2015年度 入学者
獣医学部	獣医学科	若干名	第1次選抜	26	20	46	25	19	44	12	9	21	—	—	—	41	—	46	—
			第2次選抜	12	9	21	12	9	21	2	1	3	2	1	3	20	3	30	4
	動物応用科学科	若干名		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0

■　生命・環境科学部

（人）

学部	学科等		募集人数	2017(平成29)年度 志願者 男	志願者 女	志願者 計	受験者 男	受験者 女	受験者 計	合格者 男	合格者 女	合格者 計	入学者 男	入学者 女	入学者 計	2016年度 受験者	2016年度 入学者	2015年度 受験者	2015年度 入学者
生命・環境科学部	臨床検査技術学科	推薦	20	6	27	33	6	27	33	3	23	26	3	23	26	47	32	39	30
		附属	5（推薦内）	3	4	7	3	4	7	3	4	7	3	4	7	6	6	12	8
		帰国子女	若干名	0	1	1	0	1	1	0	1	1	0	1	1	0	0	0	0
		社会人	若干名	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		一般A	55	59	109	168	56	103	159	11	40	51	0	15	15	173	27	192	28
		一般B		39	76	115	39	66	105	22	49	71	12	21	33	70	12	119	15
		一般C		36	60	96	33	52	85	7	27	34	2	3	5	137	20	90	10
		センター利用(第Ⅰ期)	5	45	107	152	45	107	152	9	33	42	0	4	4	98	0	114	2
		センター利用(第Ⅱ期)	若干名	3	2	5	0	2	2	0	1	1	0	0	0	8	0	1	1
		計	80	191	386	577	182	362	544	55	178	233	20	71	91	539	97	567	94
	食品生命科学科	推薦	25	5	1	6	5	1	6	4	1	5	4	1	5	9	8	10	9
		附属	7（推薦内）	2	2	4	2	2	4	2	2	4	2	2	4	3	3	10	9
		指定校	（推薦内）	6	1	7	6	1	7	6	1	7	6	1	7	9	9	14	14
		帰国子女	若干名	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		社会人	若干名	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		一般A	50	62	64	126	62	63	125	50	55	105	18	14	32	94	27	130	20
		一般B		30	29	59	27	26	53	25	25	50	11	4	15	84	14	78	15
		一般C		21	22	43	17	21	38	14	20	34	4	2	6	187	26	189	22
		一般Ⅱ期	若干名	6	1	7	6	1	7	0	1	1	4	0	4	11	6	15	4
		センター利用(第Ⅰ期)	5	63	66	129	63	65	128	49	55	104	4	8	12	170	1	162	2
		センター利用(第Ⅱ期)	若干名	2	3	5	2	3	5	1	1	2	0	0	0	9	0	5	1
		計	80	197	189	386	190	183	373	151	161	312	53	32	85	576	94	613	96
	環境科学科	推薦	25	4	5	9	4	5	9	4	5	9	4	5	9	2	2	1	1
		附属	7（推薦内）	2	0	2	2	0	2	2	0	2	2	0	2	0	0	3	2
		指定校	（推薦内）	10	2	12	10	2	12	10	2	12	10	2	12	6	6	16	16
		環境特別	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	1	0
		帰国子女	若干名	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		社会人	若干名	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		一般A	50	64	33	97	64	31	95	52	28	80	19	8	27	69	25	69	25
		一般B		35	14	49	32	13	45	30	12	42	9	2	11	66	18	61	13
		一般C		23	14	37	21	10	31	12	9	21	2	2	4	120	31	105	24
		一般Ⅱ期	若干名	6	1	7	6	1	7	6	1	7	6	1	7	8	4	4	2
		センター利用(第Ⅰ期)	5	84	51	135	84	51	135	67	42	109	8	1	9	114	6	117	4
		センター利用(第Ⅱ期)	若干名	3	1	4	3	1	4	3	1	4	0	0	0	3	0	2	2
		計	80	231	121	352	226	114	340	186	100	286	60	21	81	388	92	379	89
	合計	推薦	70	15	33	48	15	33	48	11	29	40	11	29	40	58	42	50	40
		附属	19（推薦内）	7	6	13	7	6	13	7	6	13	7	6	13	9	9	25	19
		指定校	（推薦内）	16	3	19	16	3	19	16	3	19	16	3	19	15	15	30	30
		環境特別	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	1	0
		帰国子女	若干名	0	1	1	0	1	1	0	1	1	0	1	1	0	0	0	0
		社会人	若干名	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		一般A	155	185	206	391	182	197	379	113	123	236	37	37	74	336	79	391	73
		一般B		104	119	223	98	105	203	77	86	163	32	27	59	220	44	258	43
		一般C		80	96	176	71	83	154	33	56	89	8	7	15	444	77	384	56
		一般Ⅱ期	若干名	12	2	14	12	2	14	6	2	8	10	1	11	19	10	19	6
		センター利用(第Ⅰ期)	15	192	224	416	192	223	415	125	130	255	12	13	25	382	7	393	8
		センター利用(第Ⅱ期)	若干名	8	6	14	5	6	11	4	3	7	0	0	0	20	0	8	4
			240	619	696	1,315	598	659	1,257	392	439	831	133	124	257	1,503	283	1,559	279

※ 合格者は，正規合格者を示す。

■　生命・環境科学部編入学

（人）

学部	学科	区分	募集人数	2017(平成29)年度 志願者 男	志願者 女	志願者 計	受験者 男	受験者 女	受験者 計	合格者 男	合格者 女	合格者 計	入学者 男	入学者 女	入学者 計	2016年度 受験者	2016年度 入学者	2015年度 受験者	2015年度 入学者
生命・環境科学部	臨床検査技術学科	2年次	若干名	0	2	2	0	2	2	0	1	1	0	1	1	4	2	1	0
	食品生命科学科		若干名	1	3	4	1	3	4	0	3	3	0	3	3	1	1	2	2
	環境科学科		若干名	0	1	1	0	1	1	0	1	1	0	1	1	0	0	0	0
	小計			1	6	7	1	6	7	0	5	5	0	5	5	5	3	3	2
	臨床検査技術学科	3年次	若干名													0	0	0	0
	食品生命科学科		若干名													0	0	0	0
	環境科学科		若干名													0	0	0	0
	小計															0	0	0	0
合計			若干名	1	6	7	1	6	7	0	5	5	0	5	5	5	3	3	2

■　獣医学研究科

（人）

研究科	専攻	区分	募集人数	2017（平成29）年度 志願者 男	志願者 女	志願者 計	受験者 男	受験者 女	受験者 計	合格者 男	合格者 女	合格者 計	入学者 男	入学者 女	入学者 計	2016年度 受験者	2016年度 入学者	2015年度 受験者	2015年度 入学者
獣医学研究科	獣医学専攻 博士課程	1期	10	2	2	4	2	2	4	2	2	4	2	2	4	5	4	5	3
		2期	若干名	4	1	5	4	1	5	4	0	4	4	0	4	5	4	6	6
		計	10	6	3	9	6	3	9	6	2	8	6	2	8	10	8	11	9
	動物応用科学専攻 博士前期課程	1期	20	8	8	16	8	8	16	5	5	10	5	5	10	20	13	16	11
		2期	若干名	5	2	7	5	2	7	3	2	5	3	2	5	7	6	7	5
		計	20	13	10	23	13	10	23	8	7	15	8	7	15	27	19	23	16
	動物応用科学専攻 博士後期課程	1期	4	0	1	1	0	1	1	0	1	1	0	1	1	1	0	2	2
		2期	若干名	1	0	1	1	0	1	1	0	1	1	0	1	4	4	1	1
		計	4	1	1	2	1	1	2	1	1	2	1	1	2	5	4	3	3
合計			34	20	14	34	20	14	34	15	10	25	15	10	25	42	31	37	28

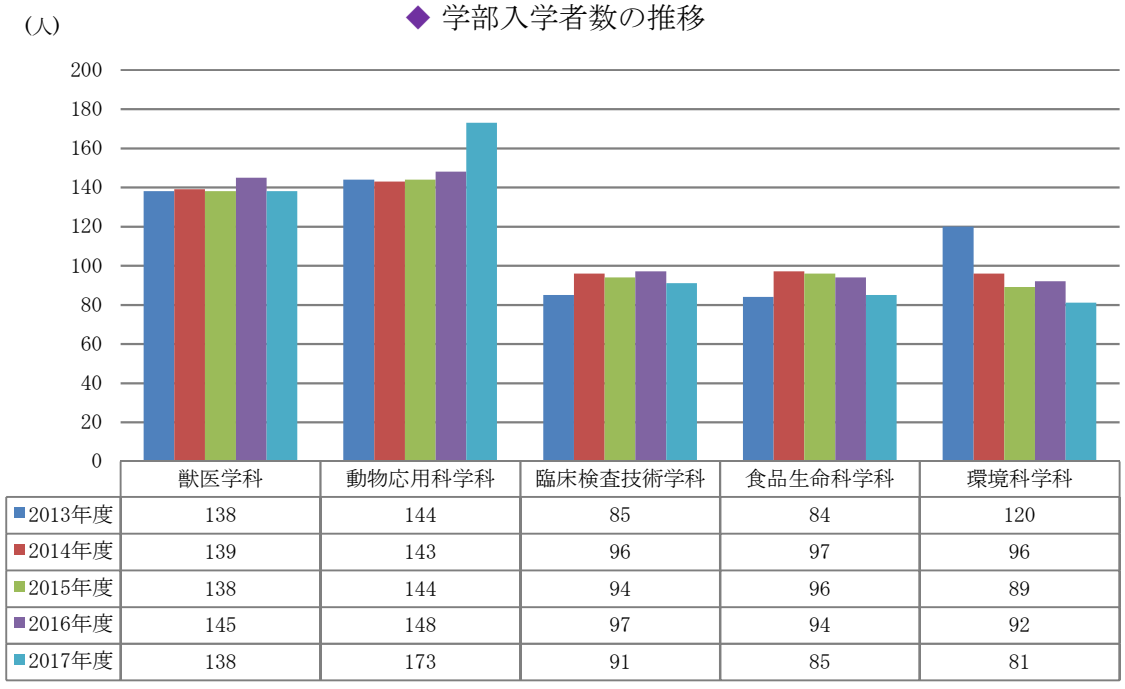
※ 2016（平成 28 年）度入学試験から，獣医学研究科動物応用科学専攻博士前期課程の入学定員（募集人員）を 12 人から 20 人に変更。

■　環境保健学研究科

（人）

研究科	専攻	区分	募集人数	2017（平成29）年度 志願者 男	志願者 女	志願者 計	受験者 男	受験者 女	受験者 計	合格者 男	合格者 女	合格者 計	入学者 男	入学者 女	入学者 計	2016年度 受験者	2016年度 入学者	2015年度 受験者	2015年度 入学者
環境保健学研究科	環境保健科学専攻 博士前期課程	1期	7	1	1	2	1	1	2	1	1	2	1	1	2	4	4	1	1
		2期	若干名	0	1	1	0	1	1	0	1	1	0	1	1	2	1	2	1
		計	7	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	6	5	3	2
	環境保健科学専攻 博士後期課程	1期	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
		2期	若干名	1	0	1	1	0	1	1	0	1	1	0	1	0	0	0	0
		計	2	1	0	1	1	0	1	1	0	1	1	0	1	0	0	1	1
合計			9	2	2	4	2	2	4	2	2	4	2	2	4	6	5	4	3

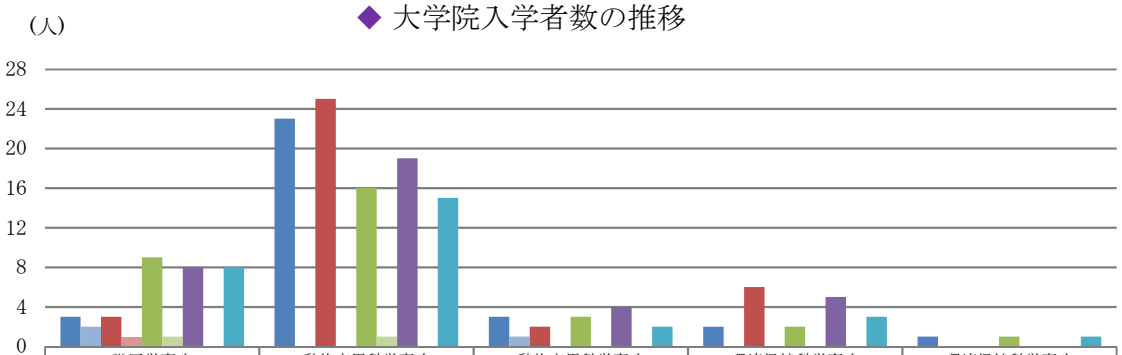
②入学者の推移（過去 5 年）



	獣医学科	動物応用科学科	臨床検査技術学科	食品生命科学科	環境科学科
2013年度	138	144	85	84	120
2014年度	139	143	96	97	96
2015年度	138	144	94	96	89
2016年度	145	148	97	94	92
2017年度	138	173	91	85	81

※　2014（平成 26）年度入学者から生命・環境科学部の各学科の入学定員を変更。
臨床検査技術学科及び食品生命科学科：入学定員 70 人から 80 人に変更
環境科学科：　入学定員 100 人から 80 人に変更

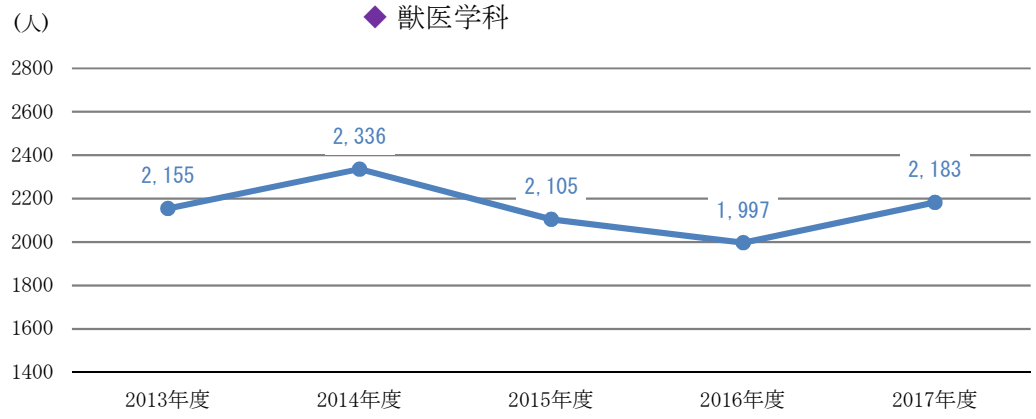
◆ 大学院入学者数の推移



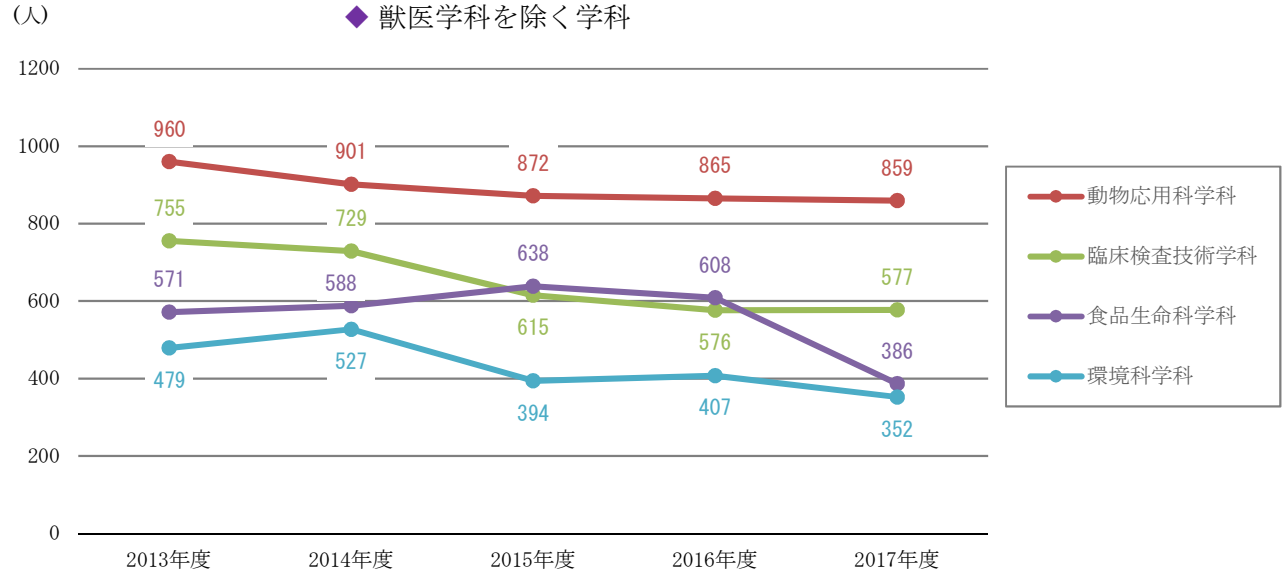
	獣医学専攻 博士課程	動物応用科学専攻 博士前期課程	動物応用科学専攻 博士後期課程	環境保健科学専攻 博士前期課程	環境保健科学専攻 博士後期課程
2013年4月	3	23	3	2	1
2013年10月	2	0	1	0	0
2014年4月	3	25	2	6	0
2014年10月	1	0	0	0	0
2015年4月	9	16	3	2	1
2015年10月	1	1	0	0	0
2016年4月	8	19	4	5	0
2016年10月	0	0	0	0	0
2017年4月	8	15	2	3	1

③志願者の推移（過去５年）

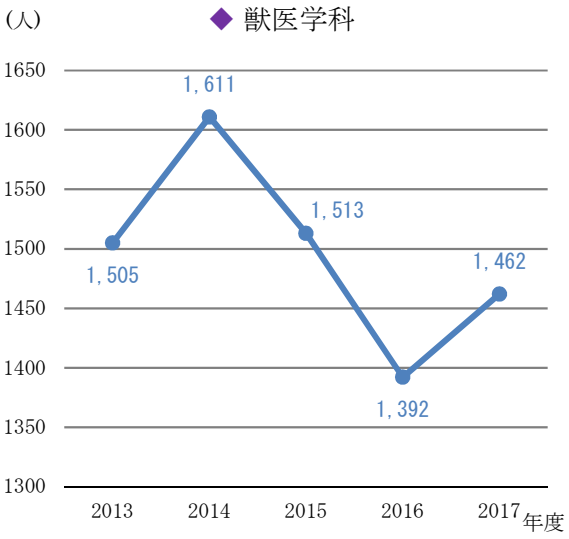
◆ 獣医学科

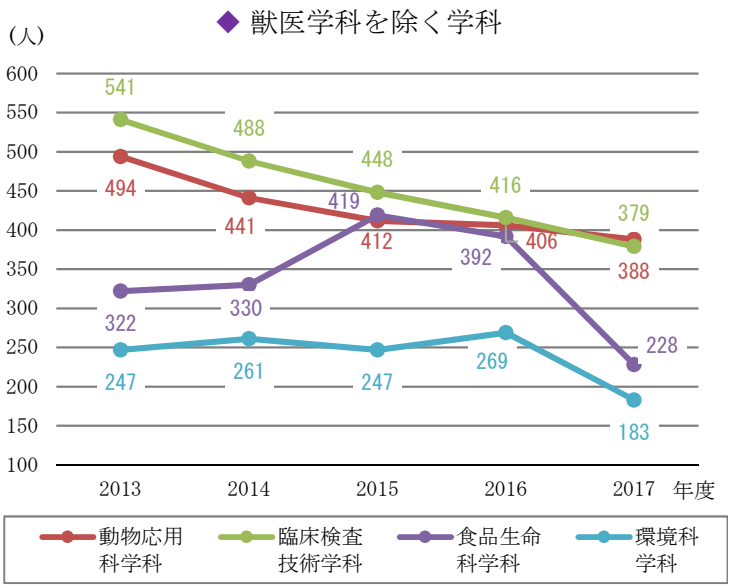


◆ 獣医学科を除く学科



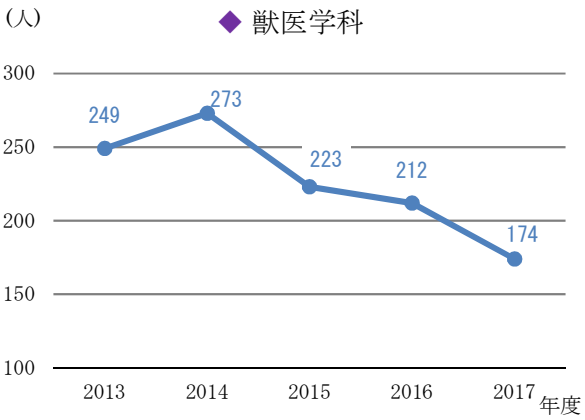
■　一般入学試験の志願者

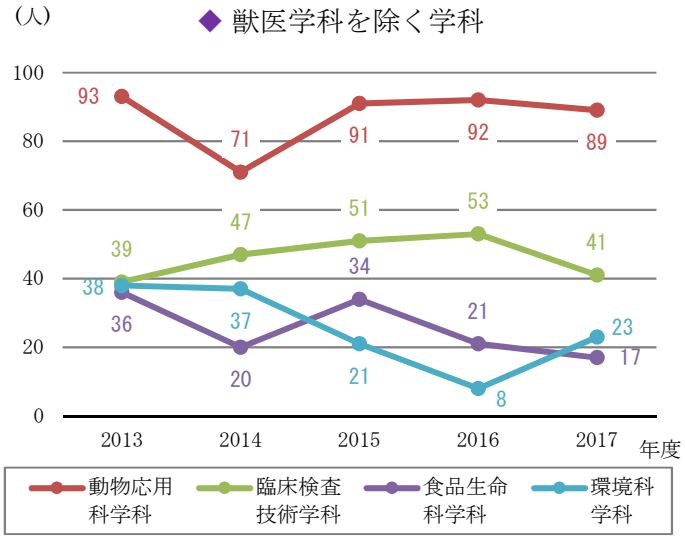




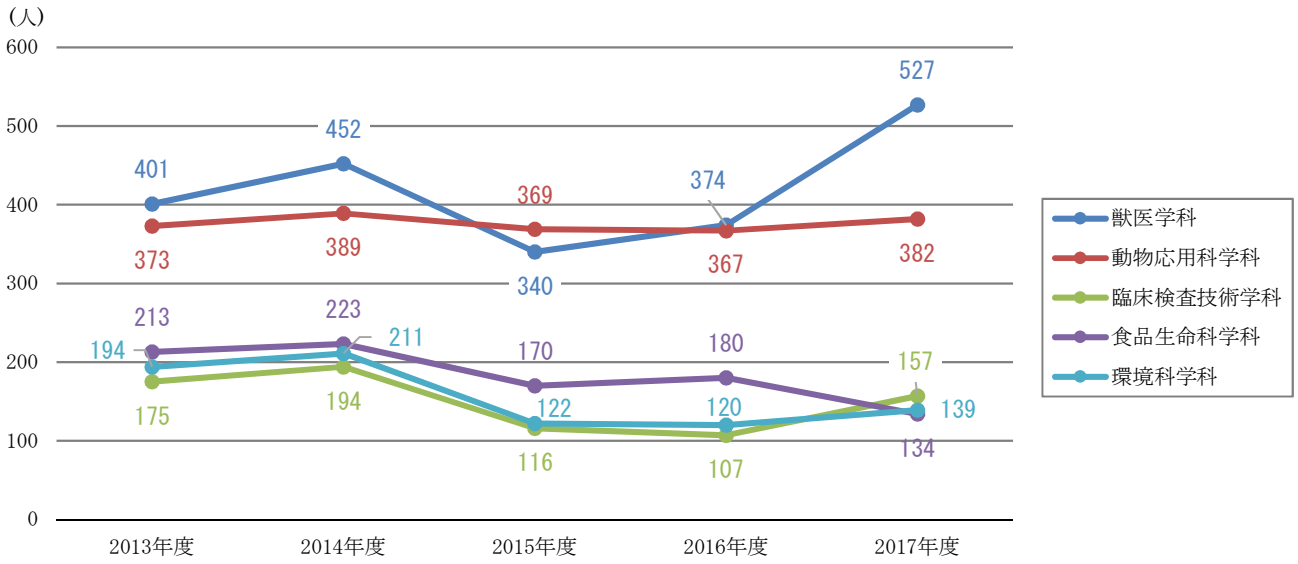
＊食品生命科学科及び環境科学科の一般入試Ⅱ期の志願者を除く。

■　推薦等入学試験





■　大学入試センター試験利用入学試験



＊センター利用入試Ⅱ期の志願者を含む。

（３）卒業者・修了者数及び進路状況

2017（平成 29）年 5 月 1 日現在

①卒業者・修了者数（2016 年度）　（人）

学部・学科		卒業者数
獣医学部	獣医学科	152
	動物応用科学科	126
生命・環境科学部	臨床検査技術学科	86
	食品生命科学科	76
	環境科学科	100

（人）

研究科・専攻			修了者数
獣医学研究科	獣医学専攻博士課程		4
	動物応用科学専攻	博士前期課程	12
		博士後期課程	3
環境保健学研究科	環境保健科学専攻	博士前期課程	3
		博士後期課程	0

2017（平成 29）年 3 月 31 日現在

②博士・修士学位授与数　（人）

研究科・専攻等		学位授与数		
		修士	博士（獣医学）	博士（学術）
獣医学研究科	獣医学専攻	―	4	―
	動物応用科学専攻	12	―	3
	麻布大学学位規則第 3 条第 3 項に該当する者※	―	1	0
	小計	12	5	3
環境保健学研究科	環境保健学専攻	3	―	0
	麻布大学学位規則第 3 条第 3 項に該当する者※	―	―	0
	小計	3	―	0
合　計		15	5	3

※【麻布大学学位規則 】　第 3 条第 3 項

博士の学位は，本学大学院の博士課程を経ない者であっても，論文を提出して，その審査に合格し，かつ，前項に該当する者と同等以上の学力があることを確認された場合には授与することができる。

2017（平成 29）年 5 月 1 日現在

③進路状況　（人）

学部・学科		就職	進学	その他
獣医学部	獣医学科	124	9	19
	動物応用科学科	92	23	11
生命・環境科学部	臨床検査技術学科	68	3	15
	食品生命科学科	66	6	4
	環境科学科	83	5	12

（人）

研究科・専攻			就職	進学	その他
獣医学研究科	獣医学専攻博士課程		4	0	0
	動物応用科学専攻	博士前期課程	9	1	2
		博士後期課程	3	0	0
環境保健学研究科	環境保健科学専攻	博士前期課程	3	0	0
		博士後期課程	0	0	0

2017（平成 29）年 5 月 1 日現在

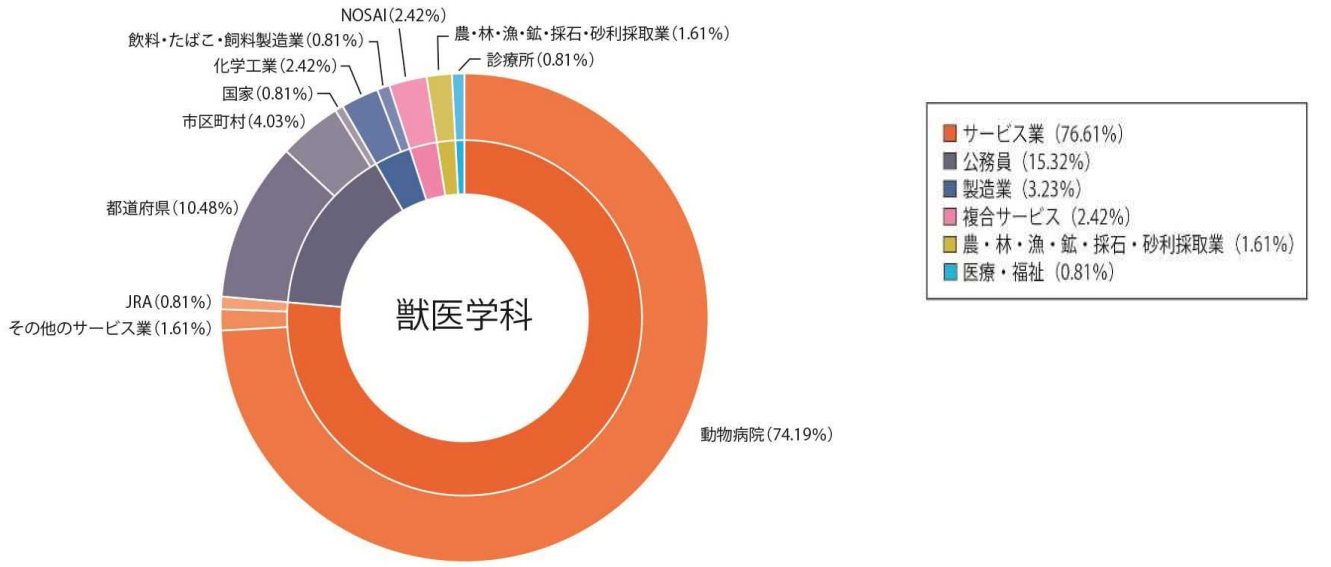
④進学先内訳

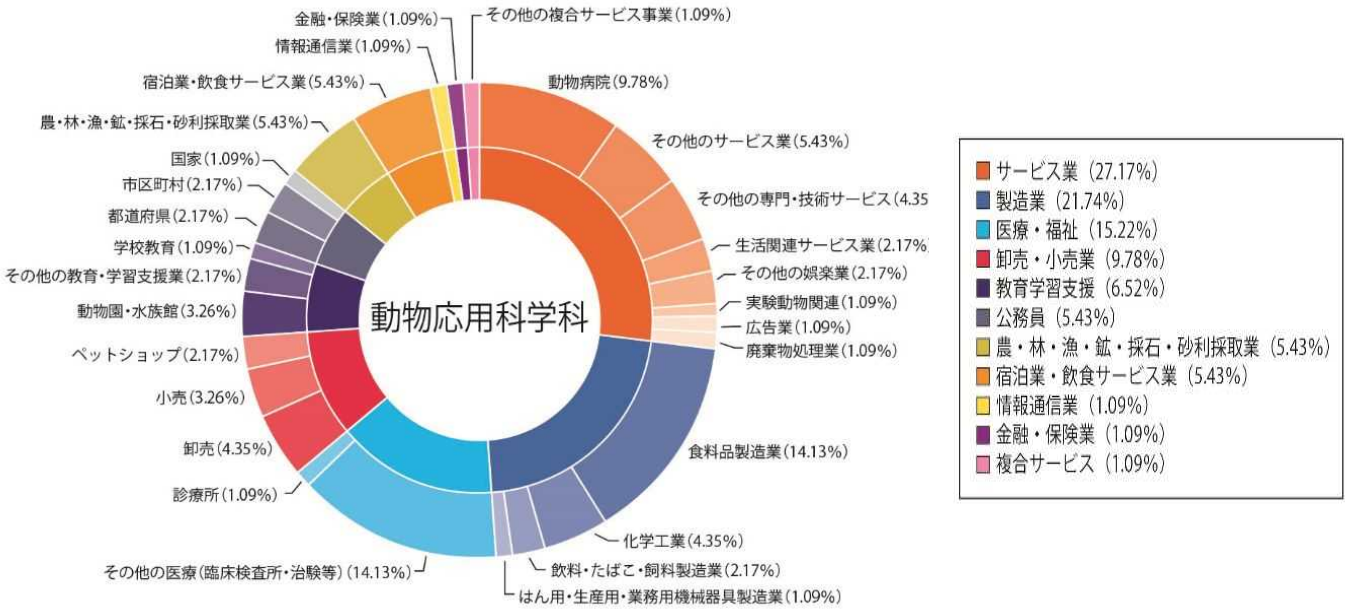
（人）

学部・学科		自大学院	他大学院	自大学	他大学	短期大学	専門学校・各種学校	その他（留学等）
獣医学部	獣医学科	3	3	0	0	0	0	3
	動物応用科学科	14	3	2	0	0	1	3
生命・環境科学部	臨床検査技術学科	0	1	1	0	0	1	0
	食品生命科学科	2	2	1	0	0	1	0
	環境科学科	1	2	0	0	0	2	0

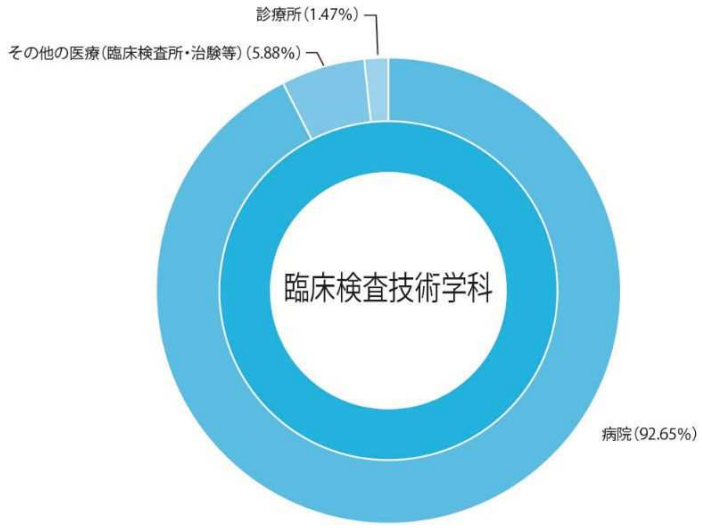
2017（平成 29）年 5 月 1 日現在

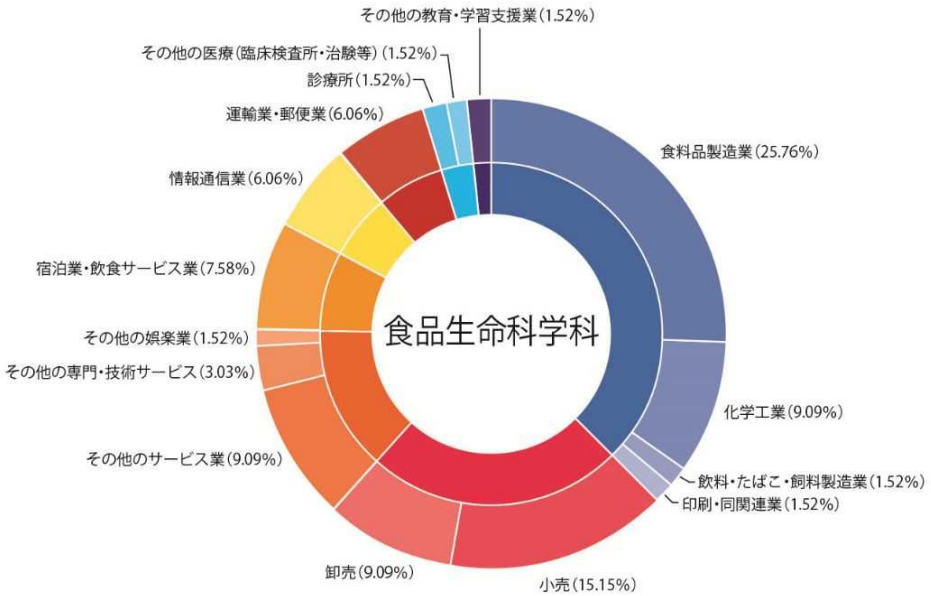
⑤就職先内訳

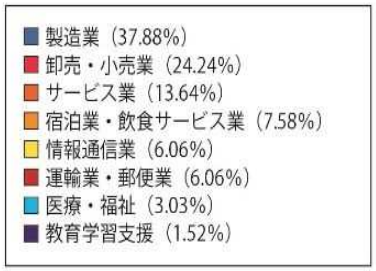


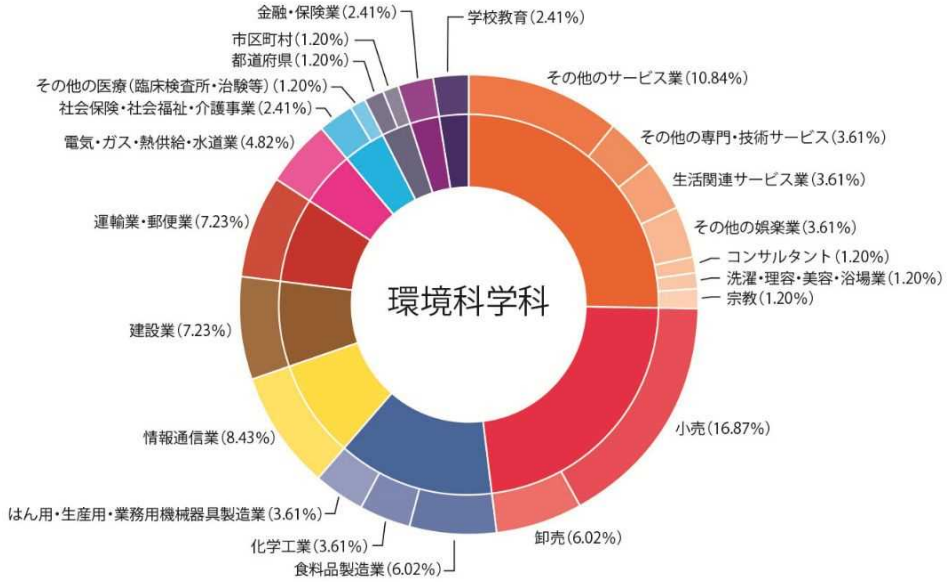


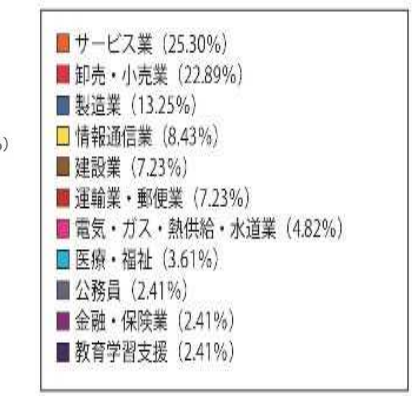
2017（平成 29）年 5 月 1 日現在







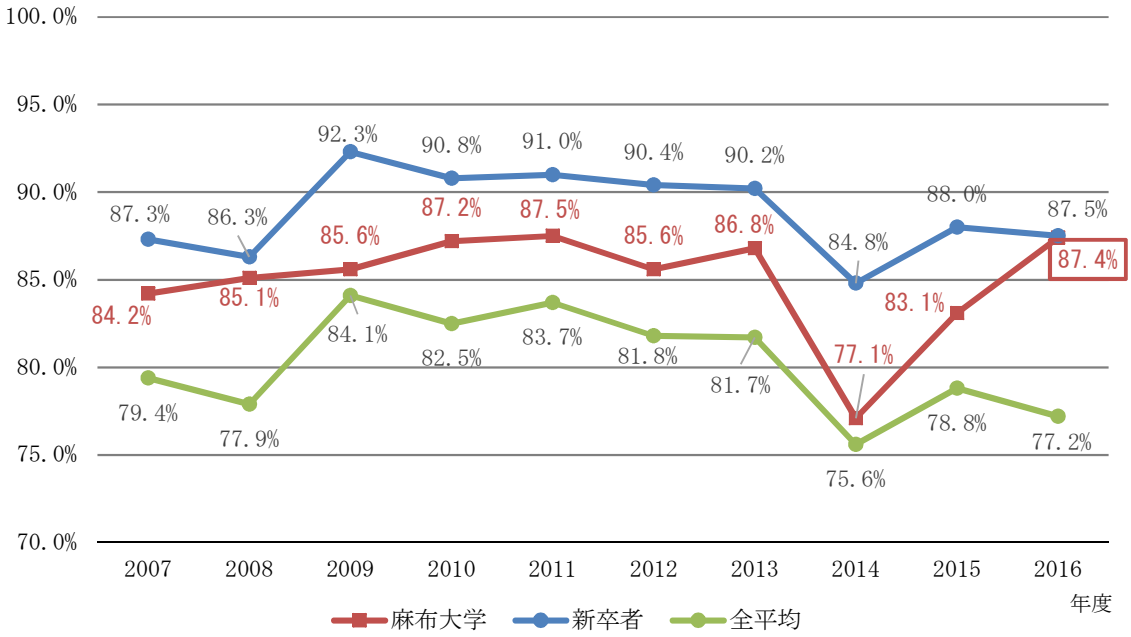




（４）国家試験

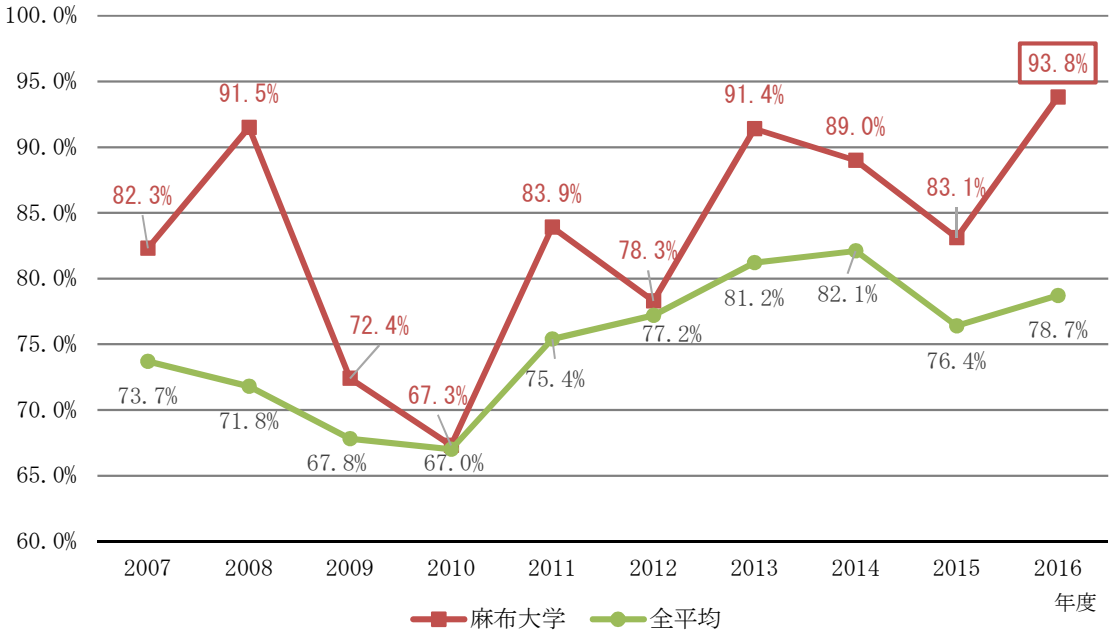
①獣医師国家試験合格率の推移

（麻布大学　獣医学部獣医学科）



②臨床検査技師国家試験合格率の推移

（麻布大学 生命・環境科学部臨床検査技術学科，環境保健学部衛生技術学科）



※　2011（平成 23）年度受験者から生命･環境科学部 臨床検査技術学科入学者が受験。

（5）退学者数・中退率・留年者数

2017（平成 29）年 5 月 1 日現在

①退学者数

◆ 麻布大学　（人）

学部・学科		獣医学部						生命・環境科学部								
		獣医学科			動物応用科学科			臨床検査技術学科			食品生命科学科			環境科学科		
年度		2016	2015	2014	2016	2015	2014	2016	2015	2014	2016	2015	2014	2016	2015	2014
1 年次	男	1	1	1	0	1	4	3	1	0	3	0	5	1	5	4
	女	1	0	0	0	2	3	5	1	3	1	2	1	0	1	1
	計	2	1	1	0	3	7	8	2	3	4	2	6	1	6	5
2 年次	男	0	2	1	2	1	2	0	4	5	0	1	0	1	2	3
	女	2	1	0	1	4	1	2	3	1	1	0	0	1	1	3
	計	2	3	1	3	5	3	2	7	6	1	0	0	2	3	6
3 年次	男	1	1	1	0	2	0	0	1	0	1	3	1	2	2	0
	女	0	2	1	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	1	0
	計	1	3	2	0	2	0	0	1	0	1	5	1	2	3	0
4 年次	男	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	2
	女	0	0	2	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0
	計	0	0	2	0	0	0	0	1	0	1	0	0	1	0	2
5 年次	男	0	0	0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	女	0	0	0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	計	0	0	0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
6 年次	男	0	0	0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	女	0	0	0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	計	0	0	0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
合計		6	7	6	3	10	10	10	11	9	7	8	7	6	12	13

◆ 麻布大学大学院　（人）

研究科・専攻		獣医学研究科									環境保健学研究科					
		獣医学専攻 博士課程			動物応用科学専攻 博士前期課程			動物応用科学専攻 博士後期課程			環境保健科学専攻 博士前期課程			環境保健科学専攻 博士後期課程		
年度		2016	2015	2014	2016	2015	2014	2016	2015	2014	2016	2015	2014	2016	2015	2014
1 年次	男	1	1	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0
	女	0	0	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	1	1	2	1	1	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0
2 年次	男	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
	女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
3 年次	男	0	0	0	—	—	—	0	0	0	—	—	—	0	0	0
	女	0	1	0	—	—	—	0	0	0	—	—	—	0	0	0
	計	0	1	0	—	—	—	0	0	0	—	—	—	0	0	0
4 年次	男	0	0	0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	女	0	0	0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	計	0	0	0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
合計		1	2	2	2	1	1	0	1	0	1	0	0	0	0	0

②中退率

学部・学科		中退率
獣医学部	獣医学科	0.7%
	動物応用科学科	0.5%
生命・環境科学部	臨床検査技術学科	2.6%
	食品生命科学科	1.9%
	環境科学科	1.5%

研究科・専攻			中退率
獣医学研究科	獣医学専攻博士課程		4.2%
	動物応用科学専攻	博士前期課程	5.6%
		博士後期課程	0.0%
環境保健学研究科	環境保健科学専攻	博士前期課程	12.5%
		博士後期課程	0.0%

※　中退率＝2017（平成 29）年 5 月 1 日現在での 2016（平成 28）年度(4 月 1 日～翌年 3 月 31 日)退学者数÷2016 年度在籍学生数（2016 年 5 月 1 日現在）×100

③留年者数

学部・学科		留年者数
獣医学部	獣医学科	30 人
	動物応用科学科	9 人
生命・環境科学部	臨床検査技術学科	12 人
	食品生命科学科	9 人
	環境科学科	15 人

研究科・専攻			留年者数
獣医学研究科	獣医学専攻博士課程		1 人
	動物応用科学専攻	博士前期課程	2 人
		博士後期課程	0 人
環境保健学研究科	環境保健科学専攻	博士前期課程	0 人
		博士後期課程	0 人

（６）国際交流

2017（平成 29）年 3 月 31 日現在

①学術交流協定・機関

■学術交流協定

	名称	国名	協定締結年	協定形態
1	アスンシオン大学	パラグアイ共和国	1986(昭和 61)年	大学間
2	ペンシルヴァニア大学	アメリカ合衆国	1990(平成 2)年	獣医学部間
3	国立中興大学	台湾	1997(平成 9)年	大学間
4	全北大学校	大韓民国	2004(平成 16)年	大学間
5	吉林農業大学	中華人民共和国	2005(平成 17)年	大学間
6	北京農学院	中華人民共和国	2006(平成 18)年	大学間
7	チェンマイ大学	タイ王国	2007(平成 19)年	大学間
8	モンゴル大学	モンゴル国	2008(平成 20)年	大学間
9	モンゴル科学アカデミー	モンゴル国	2008(平成 20)年	機関間
10	フスタイ国立公園	モンゴル国	2008(平成 20)年	機関間
11	モンゴル自然史博物館	モンゴル国	2008(平成 20)年	機関間
12	国立台湾大学	台湾	2013(平成 25)年	獣医学部間
13	ベルン大学	スイス連邦	2015(平成 27)年	獣医学部間

■学術交流準協定

	名称	国名	協定締結年	協定形態
1	エディンバラ大学	スコットランド(英国)	2008(平成 20)年	大学ー獣医学部間

②　海外派遣学生　（2016 年度）

③　外国人留学生数（2016 年度）

（人）

学部・研究科等		海外派遣学生数	外国人留学生数
獣医学部	獣医学科	14	0
	動物応用科学科	2	0
生命・環境科学部	臨床検査技術学科	0	0
	食品生命科学科	0	0
	環境科学科	0	0
学部計		16	0
獣医学研究科	獣医学専攻博士課程	0	3
	動物応用科学専攻博士前期課程	0	2
	動物応用科学専攻博士後期課程	0	0
環境保健学研究科	環境保健科学専攻博士前期課程	0	0
	環境保健科学専攻博士後期課程	0	0
研究科計		0	5
合計		16	5

※　海外派遣学生数は，学術交流協定校への派遣のみを対象としている。

（７）研究・知的財産等

2017（平成 29）年 3 月 31 日現在

① 競争的資金等受入状況（2016 年度）

■ 文部科学省及び厚生労働省　科学研究費補助金

交付元	研究種目	件数（件）		交付金額（千円）		
				直接経費	間接経費	計
文部科学省	新学術領域研究	新規	0	0	0	0
		継続	1	14, 500	4, 350	18, 850
	基盤研究（A）海外	新規	0	0	0	0
		継続	0	0	0	0
	基盤研究（A）	新規	0	0	0	0
		継続	1	8, 000	2, 400	10, 400
	基盤研究（B）	新規	0	0	0	0
		継続	3	9, 400	2, 820	12, 220
	基盤研究（C）	新規	8	8, 000	2, 400	10, 400
		継続	19	23, 900	7, 170	31, 070
	挑戦的萌芽研究	新規	2	2, 700	810	3, 510
		継続	2	3, 400	1, 020	4, 420
	若手研究（A）	新規	0	0	0	0
		継続	0	0	0	0
	若手研究（B）	新規	3	4, 700	1, 410	6, 110
		継続	4	3, 900	1, 170	5, 070
	奨励研究	新規	0	0	0	0
		継続	0	0	0	0
	特別研究員奨励費	新規	0	0	0	0
		継続	0	0	0	0
	小計	新規	13	15, 400	4, 620	20, 020
		継続	30	63, 100	18, 930	82, 030
厚生労働省		新規	0	0	0	0
		継続	0	0	0	0
合計			43	78, 500	23, 550	102, 050

※本学教員等が「研究代表者」となっているもの。

■ その他の競争的資金等

交付元	件数（件）		受入額（千円）		
			直接経費	間接経費	計
文部科学省	獣医学部	3	4, 920	409	5, 329
	生命・環境科学部	0			
農林水産省	獣医学部	3	11, 387	0	11, 387
	生命・環境科学部	0			
環境省	獣医学部	1	9, 500	950	10, 450
	生命・環境科学部	0			
厚生労働省	獣医学部	1	11, 367	1, 833	13, 200
	生命・環境科学部	1			
受入金額合計（千円）			37, 174	3, 192	40, 366

②学内競争的資金の状況（2016 年度）

学内競争的資金	件数（件）		金額（千円）
知財展開研究経費	獣医学部	1	2, 080
	生命・環境科学部	1	3, 000

2017（平成 29）年 3 月 31 日現在

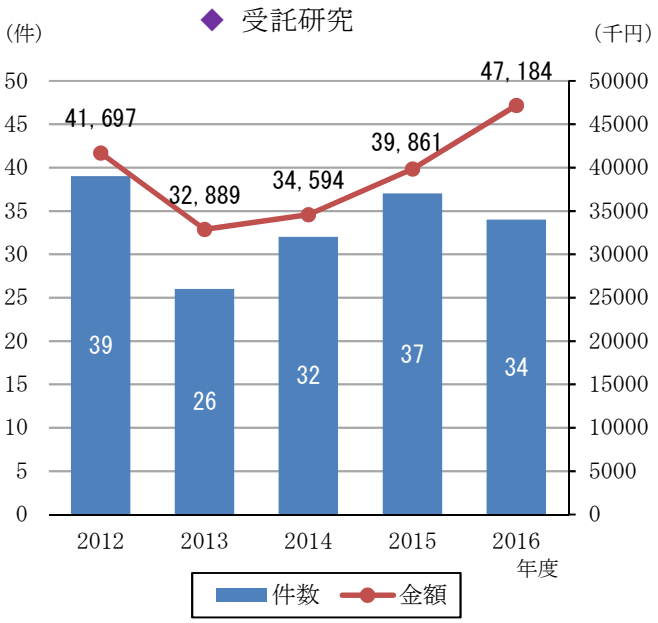
③知的財産データ

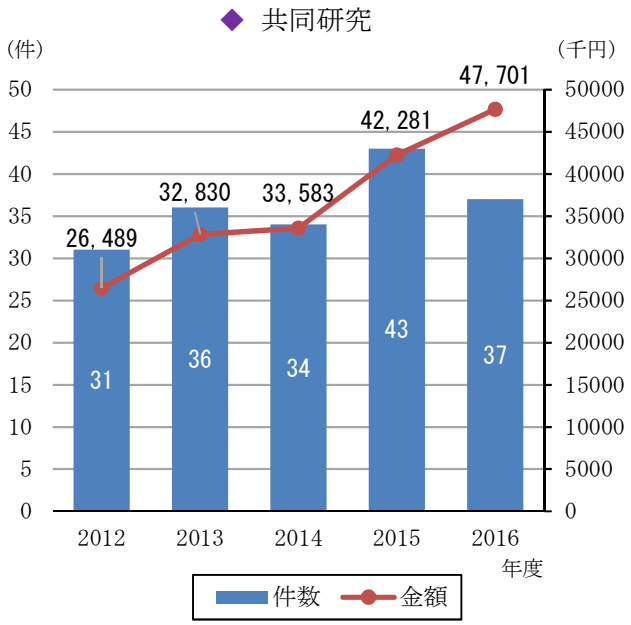
（件）

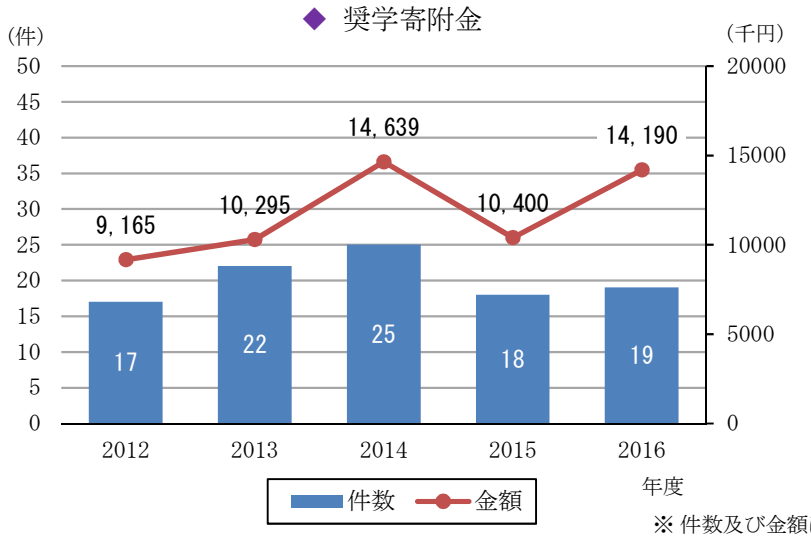
出願・登録 ＼ 年度	2016年度	2015年度	2014年度	2013年度	2012年度	合計
国内特許出願	8	10	7	7	4	36
海外特許出願	4	9	9	7	7	36
国内外審査請求	7	6	5	2	3	23
国内特許登録	3	3	3	0	1	10
特許登録	1	2	0	0	0	3
商標登録	0	0	1	0	0	1
技術移転(ライセンス，譲渡等)	2	4	4	2	4	16

※ 2012(平成 24)年度～2016(平成 28)年度の職務発明を対象とする。

④受託研究等の受入状況







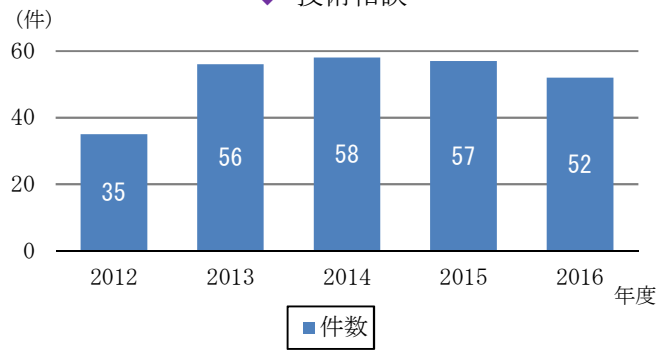
※ 件数及び金額は，契約した年度をもって記載

2017（平成 29）年 3 月 31 日現在

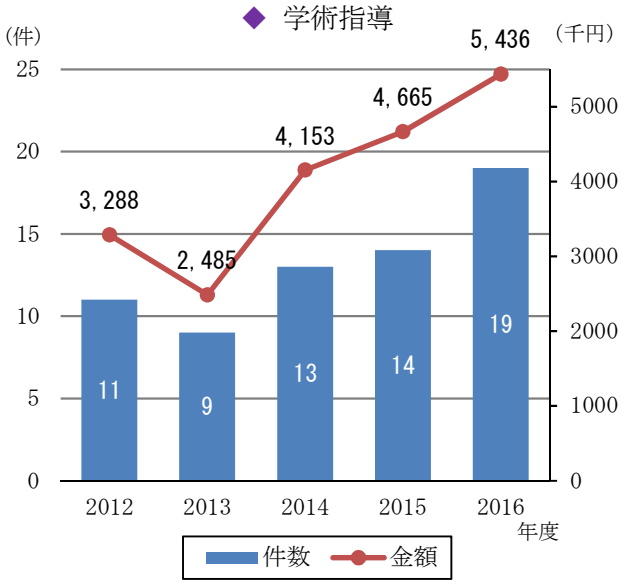
◆ 寄附講座

年度	金額（千円）	件数(件)
2012	20，000	1(継続)
2013	20，000	1(継続)
2014	10，500	1(継続)
2015	10，500	1(継続)
2016	10，500	1(継続)

◆ 技術相談



◆ 学術指導



※件数及び金額は，契約した年度をもって記載

（８）産官学連携

2017（平成 29）年 3 月 31 日現在

①自治体・団体・企業等との連携

	名称	連携内容	協定締結年	備考
1	相模原市立図書館（市内 7 大学・短期大学）	相互協力	1994(平成 6)年	
2	神奈川県教育委員会	部活動支援学生ボランティア事業	2005(平成 17)年	
3	東京都町田市(町田市学長懇談会)	包括協定	2006(平成 18)年	
4	公益社団法人相模原・町田大学地域コンソーシアム	地域貢献・生涯学習	2007(平成 19)年	
5	公益財団法人日本盲導犬協会	包括協定	2008(平成 20)年	
6	一般財団法人Ｃ．Ｗ．ニコル・アファンの森財団	学術交流	2010(平成 22)年	
7	かながわ産学公連携推進協議会	産学官連携	2010(平成 22)年	
8	日本水産株式会社	寄付講座	2011(平成 23)年	
9	神奈川県(県及び県内農学系 4 大学)	都市農業振興	2012(平成 24)年	
10	相模原市教育委員会，座間市教育委員会	市民大学	2013(平成 25)年	
11	一般社団法人日本養豚協会	包括協定	2013(平成 25)年	
12	一般財団法人生物科学安全研究所	包括協定	2013(平成 25)年	
13	特定非営利活動法人　緑のダム北相模	包括協定	2013(平成 25)年	
14	大学図書館協力契約（全国大学図書館）	資料複写	2013(平成 25)年	
15	独立行政法人地域医療機能推進機構相模野病院	包括協定	2013(平成 25)年	
16	株式会社日本産業動物管理センター	包括協定	2013(平成 25)年	
17	愛媛県	就職活動支援	2014(平成 26)年	

	名称	連携内容	協定締結年	備考
18	相模原市	災害時の動物救護活動	2014(平成 26)年	
19	神奈川県衛生研究所	連携協力	2014(平成 26)年	
20	一般社団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会	連携協力	2014(平成 26)年	2020(平成 32)年 12 月 31 日まで
21	相模原市	包括協定	2014(平成 26)年	
22	一般社団法人日本養豚開業獣医師協会	包括協定	2014(平成 26)年	
23	横浜市教育委員会	教員養成の連携・協働	2015(平成 27)年	
24	神奈川県農業共済組合	連携協力	2015(平成 27)年	
25	全国食肉衛生検査所協議会	連携協力	2017(平成 29)年	
26	株式会社スポーツクラブ相模原（ＳＣ相模原）	クリーンパートナー契約	2017(平成 29)年	

②大学間連携

	名称	連携内容	協定締結年	備考
1	放送大学	単位互換	1994(平成 6)年	
2	神奈川県内の大学間における学術交流協定 （県内の大学キャンパスにおける大学院単位互換）	単位互換	2001(平成 13)年	
3	日本獣医生命科学大学	連携協力	2016(平成 28)年	

（９）地域連携

①地域連携事業（2016 年度）

	名称	テーマ	実施日等
麻布大学教育セミナー	麻布大学養豚科学セミナー	豚ふん尿処理によって地球環境は温暖化するのか？	平成 28 年 9 月 28 日
	麻布大学教育セミナー in さいたま	①小動物における尿路結石症の診断と外科的治療 ②牛重要感染症の清浄化の取り組み ③野生動物との共存と利用－被害防除から食肉利用まで－	平成 29 年 2 月 19 日
	小動物臨床セミナー	①犬アトピー性皮膚炎の診断と治療 ②腹部超音波検査実習 ③犬猫のリンパ球系腫瘍の診断・治療 ④動物法病理学 最近の事例から ⑤日常出会う心疾患とその治療 ⑥血算と血液化学データの読み方 ⑦小動物における低侵襲治療の現状と可能性	平成 28 年 6 月 10 日～平成 29 年 2 月 10 日 毎週金曜日，全 7 回
麻布大学生涯学習講座 ～シニアライフを活き活きと～		食生活における油の賢いとり方	平成 28 年 7 月 22 日
市民大学 （相模原市教育委員会，座間市教育委員会(事業委託者:公益社団法人相模原・町田大学地域ｺﾝｿｰｼｱﾑ)との連携事業）		①動物から人間社会へ―動物研究からわかる人の進化と健康―	平成 28 年 7 月 27 日～9 月 7 日 毎週水曜日，全 5 回
		②私たちの生活に潜む健康リスク～環境科学でリスクと向き合う～	平成 28 年 7 月 28 日～9 月 8 日 毎週木曜日，全 5 回
さがまちカレッジ （公益社団法人相模原・町田大学地域ｺﾝｿｰｼｱﾑとの連携事業）		①動物の頭の骨を　観察してみよう！～シカとタヌキの骨くらべ～	平成 28 年 7 月 29 日
		②愛されわんこを目指すには！親子でできるワンコミュニケーション	平成 28 年 12 月 3 日
オーサーズカフェ （相模原市立市民・大学交流ｾﾝﾀｰ(指定管理者:公益社団法人相模原・町田大学地域ｺﾝｿｰｼｱﾑ)との連携事業）		健康を維持する食生活	平成 28 年 4 月 9 日

②麻布大学いのちの博物館

麻布大学いのちの博物館では，先人が残した貴重な遺産を継承するとともに，
(1)研究内容，(2)動物標本，(3)歴史資料を広く社会に紹介している。

■ 2016 年度開館日数及び入館者数

開館日数	入館者総数	うちイベント時 入館者数	うち通常時 入館者数	1 日平均入館者数
246 日	7,024 人	3,352 人	3,672 人	14.9 人

※　1 日平均入館者数＝通常時入館者数÷開館日数

③高大連携協定校

	名称	連携内容	協定締結年	備考
1	神奈川県立座間高等学校	【大学側】 聴講生徒・研究室体験生徒の受入れ 大学教員による高校への出張講義 【高校側】 教育実習生の受入れ 【双方】 教育についての情報交換及び交流 その他双方が協議した合意事項	2003(平成 15)年	
2	神奈川県立城山高等学校		2003(平成 15)年	
3	神奈川県立麻溝台高等学校		2004(平成 16)年	
4	神奈川県立相原高等学校		2004(平成 16)年	
5	神奈川県立川崎工科高等学校		2010(平成 22)年	
6	神奈川県立大和東高等学校		2010(平成 22)年	
7	神奈川県立相模原高等学校		2011(平成 23)年	

④聴講生徒・研究室体験生徒の受入状況（2016 年度）

	聴講生徒	研究室体験生徒
獣医学部	19 人	30 人
生命・環境科学部		20 人
附属動物病院		4 人

（１０）麻布大学附属高等学校に関する情報

①教育理念

夢を語り，学問を追究・実践し，誠実なる校風の基，平和社会の建設に貢献する。

②教育方針

「未来を拓く力の育成」
高校の 3 年間は，人生の中でも最も多感で，社会人として必要な人格形成に重要な意味をもつ期間と捉え，生徒は，誠実な校風のもと，学業，部活等でともに仲間と学びあうことを通じて，「自己を知り，自らを磨く」ことにより，「自身の未来を拓く力（自らの進路をみつめ，学力の向上，人格的素養を磨く）」を育む。

③学校教育目標

1. 個性を伸ばし，生徒一人ひとりの進路に応じた確かな学力の定着（学力）
2. 基本的な生活習慣（あいさつ・時間厳守・マナーやルールの尊重）を育み，国際化の社会に対応できる能力（情報発信力，コミュニケーション能力・プレゼンテーション能力など）の育成（生きる力）
3. 自ら課題をみつけ，自ら考え解決をめざす能力の養成（生きる力）
4. 多様な価値観を認め合い，他者を思いやる心の育成（命の大切さ）
5. あらゆる生命や自然環境を尊重する精神の涵養（命の大切さ）

2016（平成 28）年 5 月 1 日現在

④教職員数　（人）

	校長	副校長	教頭	教諭	契約講師	非常勤講師	専任職員	参与	合計
教職員数	1	(1)	1	36	8	36	5	1	88

※(　)は兼務者を表す。

⑤コース・クラス別生徒数

学年	コース・クラス	組	生徒数	学年	コース・クラス	組	生徒数
1 年	特進クラス	A	41	2 年	理系･特進クラス	A	42
		B	41			B	42
		C	41		文系･特進クラス	C	37
		D	41			D	37
		E	41		理系･進学クラス	E	41
	進学クラス	F	41			F	41
		G	41			G	41
		H	41			H	41
		I	41		文系･進学クラス	I	35
		J	40			J	35
		K	40			K	35
		L	40			L	35
		M	40			M	35
	計（人）		529		計（人）		497
3 年	理系・特進クラス	A	37				
		B	37				
	文系・特進クラス	C	38				
	理系・進学クラス	D	37				
		E	36				
		F	37				
	文系・進学クラス	G	38				
		H	39				
		I	38				
	計（人）		337				

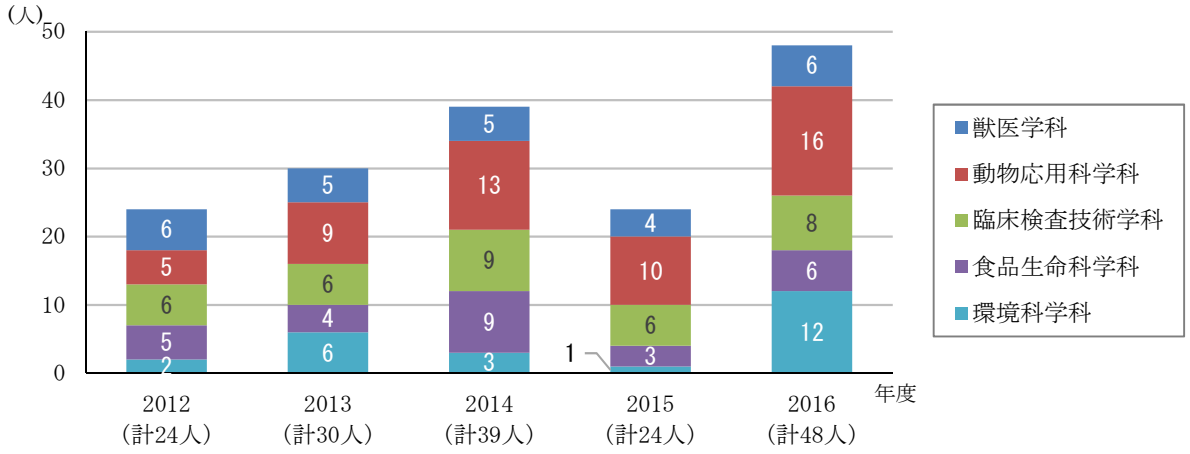
2017（平成 29）年 5 月 1 日現在

⑥卒業者数及び進路状況

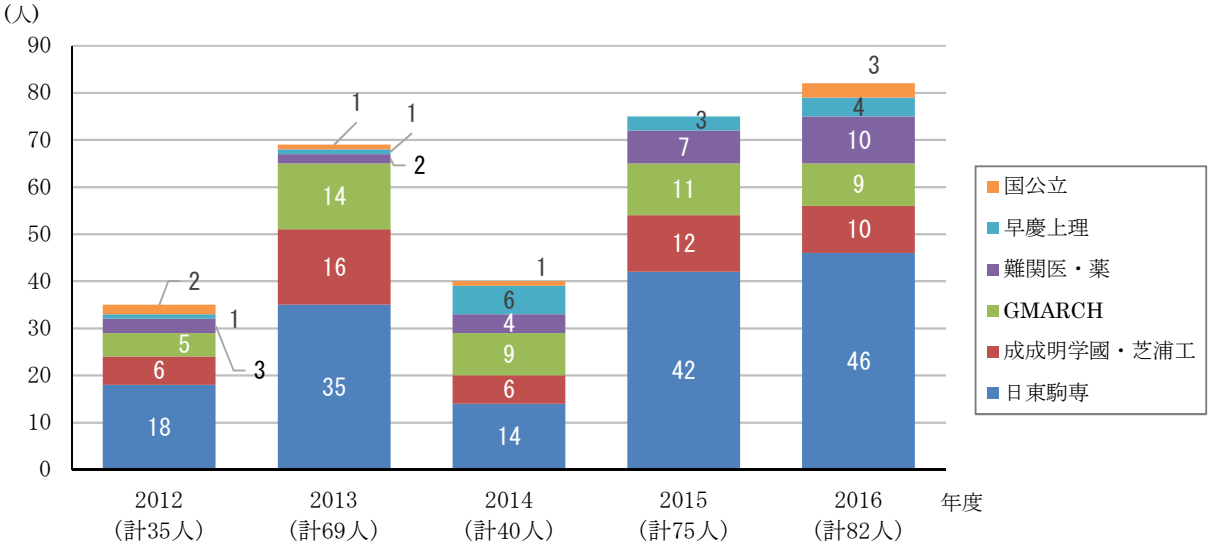
卒業者数	就職	進学						その他
		麻布大学	国立大学	私立大学	短期大学	専門学校･各種学校	その他(留学等)	(浪人等)
335	3	40	2	205	11	44	2	28

2017（平成 29）年 5 月 1 日現在

⑦麻布大学合格者数の推移



⑧難関大学合格者数の推移



※早慶上理・・・・・・・・・・・早稲田，慶応義塾，上智，東京理科
難関医・薬・・・・・・・・・・獨協医科，昭和，昭和薬科，東京薬科，帝京，帝京平成，横浜薬科
ＧＭＡＲＣＨ・・・・・・・・・明治，青山学院，立教，中央，法政，学習院
成成明学園・芝浦工・・・・・・成蹊，成城，明治学院，國學院，芝浦工
日東駒専・・・・・・・・・・・日本，東洋，駒澤，専修

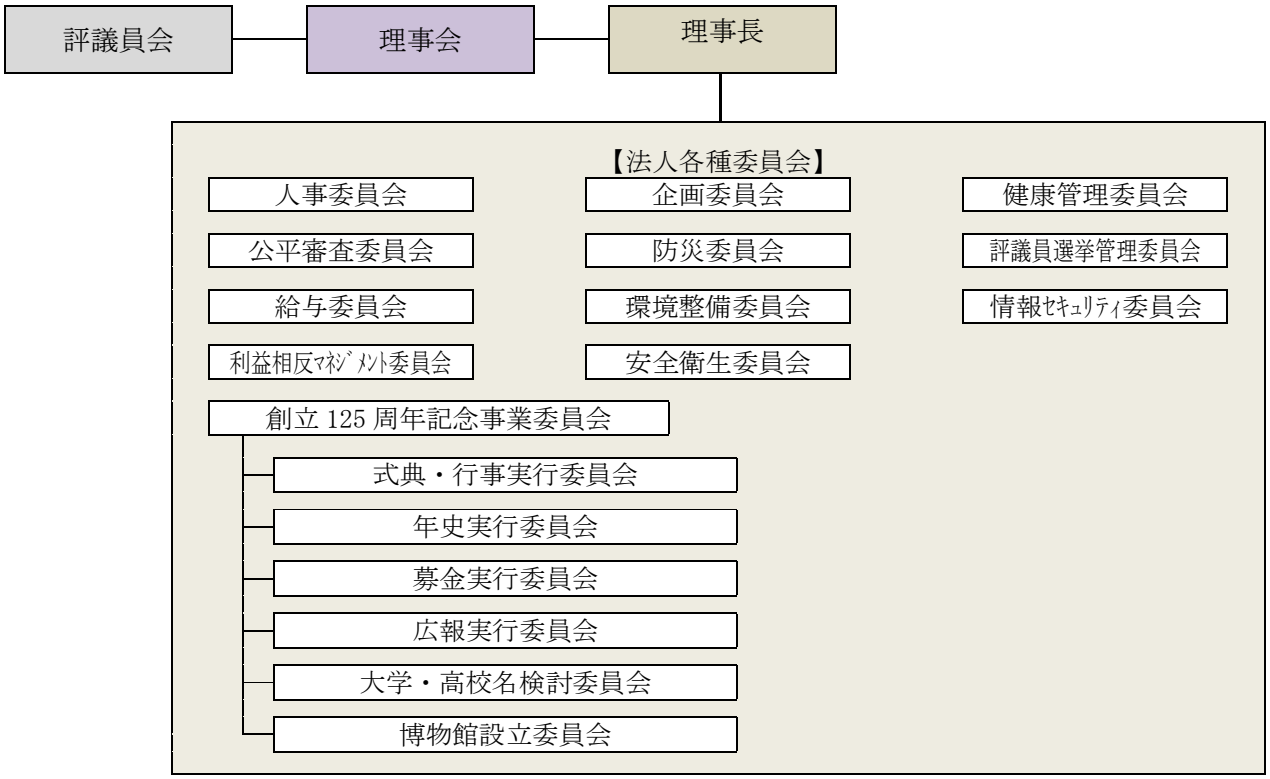
⑨入学試験結果

（人）

				募集人数	2017（平成 29）年度												2016 年度		2015 年度	
					志願者			受験者			合格者			入学者			受験者	入学者	受験者	入学者
					男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計				
全日制普通科	推薦入試			55	62	48	110	62	48	110	62	48	110	62	48	110	85	85	139	139
	一般入試前期	A 方式	単願	廃止													84	84	102	102
			併願	200	332	292	624	332	392	624	332	392	624	68	69	137	985	237	811	185
		B 方式	併願		293	382	675	293	382	675	293	382	675	32	55	87	733	121	580	79
		オープン方式			20	13	33	20	12	32	6	4	10	0	1	1	20	1	28	0
	一般入試後期			若干名	4	1	5	2	1	3	1	1	2	1	1	2	10	1	7	3
	一般入試計				649	688	1,337	647	687	1,334	632	679	1,311	101	126	227	1,832	444	1,528	369
計					711	736	1,447	709	735	1,444	694	727	1,421	163	147	337	1,917	529	1,667	508

3．管理運営の概要

（1）学園運営に係る会議等



（2）会議等の開催状況

①理事会

月日	会議等	議事内容
4 月 26 日	第 1 回 理事会	Ⅰ　審議事項 1）　麻布大学運営規程及び麻布大学部局長連絡会議規則の一部改正（案）について Ⅱ　報告事項 1）　教員の人事について 2）　職員の人事異動について 3）　長期海外出張について 4）　平成 27 年度麻布大学・大学院及び附属高等学校の卒業生数及び修了者数について 5）　平成 28 年度麻布大学・大学院及び附属高等学校の入学者数について 6）　創立 125 周年記念募金報告について 7）　豚舎及び更衣室棟建築工事の入札結果について 8）　平成 28 年度法人各種委員会委員について 9）　第 62 回臨床検査技師国家試験結果について 10）　大学報告について 11）　高等学校報告について Ⅲ　その他 1）　動物病院支援に関するワーキンググループ報告への対応について 2）　その他 ①高等学校事務室事務長兼副校長の職名の確認について ②新評議員による会議等，役員改選に係る事務手続について

月日	会議等	議事内容
5 月 26 日	第 2 回 理事会	Ⅰ　審議事項 1）　麻布大学大学院学則の一部改正（案）について 2）　麻布大学における人を対象とする医学系研究に関する倫理規程及び関係規程の一部改正等（案）について 3）　学校法人麻布獣医学園公印規程の一部改正（案）について 4）　学校法人麻布獣医学園安全衛生管理規程の一部改正（案）について 5）　平成 27 年度事業の実績及び決算について (1) 事業報告書 (2) 資金収支計算書及び事業活動収支計算書 (3) 貸借対照表 (4) 財産目録 (5) 監事監査報告書 Ⅱ　報告事項 1）　長期海外出張について 2）　創立 125 周年記念事業の決算報告等について 3）　競争的資金等（公的機関）の獲得状況について 4）　大学報告について 5）　高等学校報告について Ⅲ　その他 1）　学園における今後の学長の在り方について
6 月 14 日	第 1 回 臨時理事会	Ⅰ　審議事項 1）　理事の事務執行について 2）　理事長の代理・代行について 3）　法人各種委員会委員の選出について 4）　退任役員の表彰について Ⅱ　報告事項 1）　前期理事からの申し送り事項について Ⅲ　その他 1）　私立大学の経営倫理について 2）　その他 ①役員懇談会の開催について ②平成 28 年度役員研修会の開催について
6 月 28 日	第 3 回 理事会	Ⅰ　審議事項 1）　教員の人事（案）について 2）　（仮称）麻布大学学術研究戦略会議規則の制定（案）について 3）　事務局長の人事（案）について　※当日の緊急動議により議題追加 Ⅱ　報告事項 1）　「豚舎及び更衣室棟建築工事」の進捗状況について 2）　大学報告について 3）　高等学校報告について 4）　その他 ①生命・環境科学部教員の昇任人事について Ⅲ　その他 1）　その他 ①各学部学科・附属高等学校の納付金と教員数について ②「（仮称）AZABU Pig Research Center」構想の経過について ③附属動物病院の今後の取組方針について

月日	会議等	議事内容
7月26日	第4回 理事会	Ⅰ　審議事項 1）　教員の人事（案）について 2）　文部科学省「私立大学研究ブランディング事業」への申請について 3）　学校法人麻布獣医学園環境整備委員会規則の一部改正（案）について Ⅱ　報告事項 1）　職員の人事について 2）　大学教学関係役職者について 3）　大学の収容定員の増加に係る学則変更の認可について 4）　有限責任監査法人トーマツ「平成27年度監査覚書」について 5）　第1・四半期の財務状況等報告について (1) 資金収支報告 (2) 資金残高及び資産運用報告 (3) 麻布大学附属動物病院の運営状況報告 6）　「豚舎及び更衣室棟建築工事」の進捗状況について 7）　大学報告について 8）　高等学校報告について 9）　その他 ①事務局長の執務進行状況について ②その他 Ⅲ　その他 1）　（仮称）Pig Research Centerの今後の進め方について 2）　その他 ①附属動物病院の改革支援に関する今後の進め方について ②各学部学科・附属高等学校の教員数と教育サービスについて
9月27日	第5回 理事会	Ⅰ　審議事項 1）　学校法人麻布獣医学園事務組織の改組（案）について 2）　非常勤職員の手当に関する規程の一部改正（案）について 3）　学校法人麻布獣医学園の保有する個人情報の取扱いに関する規程の一部改正（案）について 4）　麻布大学大学院学則の一部改正（案）について 5）　麻布大学研究推進・支援本部規則の一部改正（案）について 6）　学校法人麻布獣医学園資金運用規程及び管理基準の一部改正（案）について 7）　平成29年度予算編成大綱（案）について Ⅱ　報告事項 1）　「豚舎及び更衣室棟建築工事」の進捗状況について 2）　情報化グランドデザイン検討委員会取りまとめ（報告）について 3）　大学報告について 4）　高等学校報告について Ⅲ　その他 1）　特任教員Ⅱ種（特任副手）及び動物看護師の給料等について 2）　平成28年度臨時評議員会の開催について 3）　その他 ①学校法人麻布獣医学園の施設利用に係る方針について

月日	会議等	議事内容
10 月 25 日	第 6 回 理事会	Ⅰ　審議事項 1）　教員の人事（案）について 2）　育児休業，介護休業等又は家族介護を行う労働者の福祉に関する法律の一部改正に伴う学校法人麻布獣医学園就業規則等の改正原案について 3）　平成 28 年度有価証券による運用について 4）　平成 28 年度寄付金募集及び今後の取組について 5）　特任教員Ⅱ種（特任副手）の給料等について　※当日の緊急動議により議題追加 Ⅱ　報告事項 1）　職員の人事について 2）　職員（大学教員）の長期出張について 3）　第 2・四半期の財務状況等報告について (1) 資金収支報告 (2) 資金残高及び資産運用報告 (3) 麻布大学附属動物病院の運営状況報告 4）　「豚舎及び更衣室棟建築工事」の進捗状況について 5）　大学報告について 6）　高等学校報告について 7）　その他 ①事務局長の執務進行状況について Ⅲ　その他 1）　その他 ①次期附属高等学校長の人事等について ②キャンパスマスタープラン第Ⅲ期策定に係る動物管理エリア等の見直しについて ③今後の志願者確保に向けた広報戦略について
11 月 29 日	第 7 回 理事会	Ⅰ　審議事項 1）　教員の人事（案）について 2）　豚舎及び更衣室棟建築工事に係る契約期間延長（案）について 3）　災害時における動物救護活動に関する協定の締結（案）について Ⅱ　報告事項 1）　平成 28 年度有価証券購入について 2）　「豚舎及び更衣室棟建築工事」の進捗状況について 3）　麻布大学特任教員に関する規則の一部改正について 4）　麻布大学自己点検・評価報告書（案）について 5）　平成 28 年度麻布大学授業料等の免除の実施について 6）　高等学校運営会議報告について 7）　大学報告について 8）　高等学校報告について Ⅲ　その他 1）　今期理事会の基本経営方針について 2）　その他 ①平成 28 年 12 月の役員懇談会について

月日	会議等	議事内容
12 月 27 日	第 8 回 理事会	Ⅰ　審議事項 1）　教員の人事（案）について 2）　附属高等学校からの平成 29 年度教員体制に関する要望について 3）　契約講師規程の一部改正（案）について 4）　麻布大学競争的資金等の運営・管理に関する規程等の一部改正（案）について 5）　育児休業，介護休業等育児又は家族介護を行う労働者の福祉に関する法律の一部改正に伴う学校法人麻布獣医学園就業規則等の一部改正（案）について 6）　学校教育法第 109 条第 2 項に基づく平成 29 年度大学基準協会認証評価に係る麻布大学自己点検・評価報告書等の提出について 7）　8 号館 8201 実習室改修工事（案）について Ⅱ　報告事項 1）　職員の人事について 2）　平成 29 年度麻布大学推薦等入学試験・編入学試験結果について 3）　「豚舎及び更衣室棟建築工事」の進捗状況について 4）　獣医学教育評価の実施について 5）　平成 28 年度「私立大学等改革総合支援事業」の選定結果について 6）　平成 28 年度「私立大学研究ブランディング事業」の選定結果について 7）　全国食肉衛生検査所協議会と学校法人麻布獣医学園麻布大学との連携協力に関する包括協定（案）の締結について 8）　国家戦略特区による獣医学部の新設に係る政府の意見募集への対応について 9）　大学報告について 10）　高等学校報告について 11）　その他 ①事務改革ワーキンググループの今後の取組について ②自衛消防隊組織について
1 月 31 日	第 9 回 理事会	Ⅰ　審議事項 1）　麻布大学附属高等学校長の人事（案）について 2）　教員の人事（案）について 3）　平成 29 年度予算要望（人員）（案）について 4）　学校法人麻布獣医学園給与規程の一部改正（案）について 5）　麻布大学学則の一部改正（案）について 6）　平成 29 年度大学基準協会獣医学教育評価に係る自己点検・評価ワークシート等の提出について 7）　平成 28 年度有価証券による運用について　※当日の緊急動議により議題追加 Ⅱ　報告事項 1）　職員の人事について 2）　大学教学関係役職者について 3）　平成 29 年度麻布大学一般入学試験等の志願者状況について 4）　第 3・四半期の財務状況報告について (1) 資金収支報告 (2) 資金残高及び資産運用報告 (3) 麻布大学附属動物病院の運営状況報告 5）　「豚舎及び更衣室棟建築工事」の竣工について 6）　8 号館 8201 実習室改修工事の入札結果について 7）　国家戦略特区による獣医学部の新設に係る告示の施行について 8）　大学報告について 9）　高等学校報告について 10）　その他 ①教員の病気療養について ②事務局長の執務執行状況について Ⅲ　その他 1）　平成 29 年度事業計画及び予算概要について 2）　キャンパスマスタープラン第Ⅲ期（案）について

月日	会議等	議事内容
2 月 28 日	第 10 回 理事会	Ⅰ　審議事項 1）　麻布大学附属高等学校副校長及び教頭の人事（案）について 2）　教員の人事（案）について 3）　麻布大学奨学金貸与規程の一部改正（案）について 4）　麻布大学附属動物病院診療料金改定（案）について 5）　平成 29 年度事業計画（案）について 6）　平成 29 年度予算（案）について 7）　キャンパスマスタープラン第Ⅲ期（案）について Ⅱ　報告事項 1）　職員の人事について 2）　長期海外出張の期間変更について 3）　平成 29 年度麻布大学入学試験結果について 4）　平成 29 年度麻布大学附属高等学校入学試験結果について 5）　大学報告について 6）　高等学校報告について Ⅲ　その他 1）　平成 29 年度理事会・評議員会開催予定（案）について
2 月 28 日	第 11 回 理事会	Ⅰ　審議事項 1）　平成 29 年度事業計画（案)について 2）　平成 29 年度予算(案)について 3）　キャンパスマスタープラン第Ⅲ期（案）について Ⅱ　その他 1）　その他 ①評議員会の情報提供について
3 月 21 日	第 12 回 理事会	Ⅰ　審議事項 1）　教員の人事（案）について 2）　麻布大学学則の一部改正（案）について 3）　麻布大学大学院学則の一部改正（案）について 4）　麻布大学いのちの博物館の事務分掌の見直しに伴う関係規程の一部改正（案）について 5）　麻布大学運営規程の一部改正（案）について 6）　鶏舎工事整備（案）について 7）　契約職員の採用（案）について　　※当日の緊急動議により議題追加 Ⅱ　報告事項 1）　職員の人事について 2）　平成 29 年度麻布大学一般入学試験等結果について 3）　平成 29 年度麻布大学附属高等学校入学試験結果について 4）　第 68 回獣医師国家試験結果について 5）　豚舎等の担保物件提供について 6）　大学報告について 7）　高等学校報告について Ⅲ　その他 1）　平成 29 年度 麻布大学・麻布大学附属高等学校の行事予定について 2）　事務職員満足度調査結果について

②評議員会

月日	会議等	議事内容
5 月 26 日	第 1 回 評議員会	Ⅰ　報告事項 1）　創立 125 周年記念事業の決算報告等について Ⅱ　協議事項 1）　平成 27 年度事業の実績及び決算について (1)事業報告書 (2)資金収支計算書及び事業活動収支計算書 (3)賃借対照表 (4)財産目録 (5)監事監査報告書 Ⅲ　その他 1）　その他
11 月 29 日	第 1 回 臨時評議員会	1）　平成 29 年度予算編成大綱について 2）　「豚舎及び更衣室棟建築工事」の進捗状況について 3）　平成 28 年度寄付金募集及び今後の取組について 4）　今期理事会の基本経営方針について 5）　その他
2 月 28 日	第 2 回 評議員会	Ⅰ　報告事項 1）　平成 29 年度麻布大学入学試験結果について 2）　平成 29 年度麻布大学附属高等学校入学試験結果について 3）　その他 Ⅱ　協議事項 1）　平成 29 年度事業計画（案）について 2）　平成 29 年度予算（案）について 3）　キャンパスマスタープラン第Ⅲ期（案）について Ⅲ　その他 1）　平成 29 年度評議員会開催予定（案）について 2）　その他

③給与委員会

月日	会議等	議事内容
9 月 14 日	第 1 回給与委員会	1. 委員長及び副委員長の選出について 2. 平成 28 年 10 月 1 日付け採用者の格付について
1 月 31 日	第 2 回給与委員会	1. 平成 29 年 4 月 1 日付け採用者の格付について
3 月 9 日	第 3 回給与委員会	1. 平成 29 年 4 月 1 日付け採用者の格付について

④環境整備委員会

月日	会議等	議事内容
7 月 8 日	第 1 回環境整備委員会（持ち回り）	1. 委員長の選出について 2. 委員の一部変更について 3. 環境整備委員会規則の一部改正等について 4. 平成 28 年度 夏期の節電対策について

⑤安全衛生委員会

月日	会議等	議事内容
4 月 26 日	第 1 回安全衛生委員会（持ち回り）	1. 平成 28 年 3 月の事務職員の超過勤務状況について 2. 学内巡視の状況について 3. その他
5 月 16 日	第 2 回安全衛生委員会（持ち回り）	1. ストレスチェック制度実施要領（案）について 2. 平成 28 年 4 月の事務職員の超過勤務状況について 3. 学内巡視の状況について 4. その他
6 月 27 日	第 3 回安全衛生委員会	1. 委員長の交代及び副委員長の指名について 2. 学内巡視の状況について 3. ストレスチェックの実施について 4. その他
7 月 25 日	第 4 回安全衛生委員会（持ち回り）	1. 平成 28 年 6 月の事務職員の超過勤務状況について 2. 学内巡視の状況について 3. その他
8 月 29 日	第 5 回安全衛生委員会（持ち回り）	1. 平成 28 年 7 月の事務職員の超過勤務状況について 2. 学内巡視の状況について 3. その他
9 月 23 日	第 6 回安全衛生委員会（持ち回り）	1. 平成 28 年 8 月の事務職員の超過勤務状況について 2. 学内巡視の状況について 3. その他
10 月 31 日	第 7 回安全衛生委員会（持ち回り）	1. 労働災害について 2. 平成 28 年 9 月の事務職員の超過勤務状況について 3. 学内巡視の状況について 4. その他
11 月 28 日	第 8 回安全衛生委員会（持ち回り）	1. 学校環境衛生測定におけるホルムアルデヒド等測定結果について 2. 平成 28 年 10 月の事務職員の超過勤務状況について 3. 学内巡視の状況について 4. 委員の構成について 5. その他
12 月 26 日	第 9 回安全衛生委員会（持ち回り）	1. 労働災害について 2. ストレスチェック実施結果について 3. 平成 28 年 11 月の事務職員の超過勤務状況について 4. 学内巡視の状況について 5. その他
1 月 30 日	第 10 回安全衛生委員会（持ち回り）	1. 労働災害について 2. 平成 28 年 12 月の事務職員の超過勤務状況について 3. 学内巡視の状況について 4. その他
2 月 27 日	第 11 回安全衛生委員会（持ち回り）	1. 平成 29 年 1 月の事務職員の超過勤務状況について 2. 学内巡視の状況について 3. その他
3 月 27 日	第 12 回安全衛生委員会（持ち回り）	1. 平成 29 年度安全衛生委員会開催日程及び職場巡視日程（案）について 2. 平成 29 年度安全衛生管理活動計画表（案）について 3. 労働災害について 4. 平成 29 年 2 月の事務職員の超過勤務状況について 5. 学内巡視の状況について 6. その他

⑥健康管理委員会

月日	会議等	議事内容
10 月 15 日	第 1 回健康管理委員会	1. 平成 29 年度事業計画及び予算案について

⑦改選に係る会議

月日	会議等	議事内容
5月25日	第1回新評議員による会議	1.寄附行為第18条第3号（学識経験者）評議員（4～6人）の選任について
6月1日	第1回新評議員会	1.理事（寄附行為第１８条第１号評議員から４人）の選任について 2.理事（寄附行為第１８条第２号評議員から４人）の選任について 3.評議員会議長及び副議長の選任について 4.監事（2人）の選任（同意）について
6月1日	第1回新理事による会議	1.学識経験者理事の選任について
6月1日	第1回新理事会	Ⅰ　審議事項 1）理事長の選任について 2）監事候補者（2人）の選任について 3）理事会の開催日程について Ⅱ　その他 1）事務処理における決裁について

⑧評議員選挙管理委員会

月日	会議等	議事内容
4月21日	第1回(通算第7回)評議員選挙管理委員会	1.2号評議員選挙の開票に当たっての確認事項 2.2号評議員選挙の開票及び開票結果の確認について 3.本学園の高校卒業者から選任する評議員について 4.当選者公示(案)について 5.当選通知(案)について 6.2号評議員選挙における投票用紙について 7.今回の選挙における懸案事項について 8.その他 ①有権者名簿の閲覧について ②今後の委員会について

⑨創立125周年記念事業委員会及び各実行委員会

月日	会議等	議事内容
4月8日 ～15日	第1回(通算4回) 広報実行委員会（持ち回り）	1.創立125周年記念事業への御協力に対する御礼及び広報実行委員会の閉会について
5月25日	第1回(通算5回) 募金実行委員会	1.収支決算について 2.募金サイトについて 3.寄附者への結果報告について
5月26日 ～31日	第1回(通算7回) 創立125周年記念事業委員会 （持ち回り）	1.創立125周年記念事業の決算報告等について

（３）2016（平成 28）年度　主要行事

	大学		附属高等学校
	会議	行事等(学園行事含む)	会議・行事等
4 月	獣医学部教授会(4 日) 生命・環境科学部教授会(11 日) 環境保健学研究科教授会(13 日) 獣医学研究科教授会(25 日) 部局長連絡会議(20 日) 教学会議(20 日)	辞令交付式(1 日) 学年始め及び前期始め(1 日) 入学式(2 日) 入学者ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ(4～6 日) ﾌﾟﾚｰｽﾒﾝﾄﾃｽﾄ (5・6 日) 大学院入学者ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ(5 日) 大学院在学者ｶﾞｲﾀﾞﾝｽ(5 日) 在学者・編入学者ｶﾞｲﾀﾞﾝｽ (6 日) 前期授業開始(7 日)	前期始業式(6 日) 入学式(7 日) ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ(8・11 日) 健康診断(12 日) 学年会議(14 日) 部長会議(19・26 日) 部会議(21 日) 保護者進路説明会(24 日) 修学旅行説明会(24 日)
5 月	獣医学部教授会(9 日) 環境保健学研究科教授会(11 日) 生命・環境科学部教授会(16 日) 部局長連絡会議(18 日) 教学会議(18 日) 獣医学研究科教授会(30 日)	監査法人監査(6～13 日) 決算に係る学内監査(17 日) 卒業生子女対象大学説明会(21 日)	体育祭(10 日) 職員会議(12 日) 学年会議(19 日) 部長会議(24・31 日) 中間試験(24～27 日)
6 月	獣医学部教授会(6 日) 環境保健学研究科教授会(8 日) 生命・環境科学部教授会(13 日) 部局長連絡会議(15 日) 教学会議(15 日) 獣医学研究科教授会(27 日)	ﾐﾆ・ｵｰﾌﾟﾝｷｬﾝﾊﾟｽ (5 日) 高大連携に係る教育交流懇談会(20 日) 退任役員表彰(28 日) 研究倫理ｾﾐﾅｰ(30 日)	部会議(2 日・30 日) 部長会議(7・14 日) 職員会議(9 日) 学年会議(16 日) 修学旅行(2 年)(17～24 日) 校外行事：社会見学(17 日) 校外行事：ﾃｰﾌﾞﾙﾏﾅｰ(17 日)
7 月	獣医学部教授会(4 日) 生命・環境科学部教授会(11 日) 環境保健学研究科教授会(13 日) 部局長連絡会議(20 日) 教学会議(20 日) 学術研究戦略会議(20 日) 獣医学研究科教授会(25 日) 環境保健学研究科臨時教授会(27 日)	科研費獲得ｾﾐﾅｰ(11 日) 高大合同研修会(13 日) 大学院入学試験（第Ⅰ期・10 月期)(17 日) 前期授業終了(27 日) 前期定期試験(29 日～8 月 3 日)	部長会議(5 日) 期末試験(6～12 日) 職員会議(19 日) 前期終業式(20 日)
8 月	獣医学部教授会(3 日) 生命・環境科学部教授会(5 日)	ｵｰﾌﾟﾝｷｬﾝﾊﾟｽ (6・7 日) 事務職員研修（補佐・主査・主任)(9 日～11 月 8 日) 夏期休業(11 日～9 月 14 日) 役員研修会(29・30 日) 獣医学部 AO 入学試験 (第 2 次選抜)(31 日) 麻布大学・日本獣医生命科学大学合同 SD 研修(24 日)	公私合同説明会(5 日) 学校説明会(20 日)
9 月	獣医学研究科教授会(12 日) 環境保健学研究科教授会(持ち回り)(15 日) 教学会議(20 日) 部局長連絡会議(21 日) 獣医学部臨時教授会(27 日) 生命・環境科学部教授会(持ち回り)(28 日)	ﾊﾗｽﾒﾝﾄ防止研修会(事務職員)(8・9 日) 学園創立記念日(10 日) 前期追・再試験(15～21 日) 前期終わり(23 日) 後期始め(24 日) 後期授業開始(26 日) 9 月期卒業式(30 日)	後期始業式(1 日) 全体会議(1 日) 学年会議(8 日) 進路適性検査(1 年)(5 日) 翔渕祭(文化祭)(10・11 日) 部会議(15 日) 部長会議(20・27 日) 職業学習(1 年)(26 日) 入試説明会(2 年)(26 日)

	大学		附属高等学校
	会議	行事等（学園行事含む）	会議・行事等
10 月	獣医学部教授会(3 日) 学術研究戦略会議(5 日) 生命・環境科学部教授会(11 日) 環境保健学研究科教授会(12 日) 教学会議(18 日) 部局長連絡会議(19 日) 獣医学研究科教授会(31 日)	辞令交付式(3 日) 環境科学研究会(1 日) 卒業生後継者特別入学試験(8 日) 獣医学部編入学試験（8 日・29 日) ﾊﾗｽﾒﾝﾄ防止教育講演会(14 日) 研究倫理ｾﾐﾅｰ(18 日) 大学祭(22・23 日) ﾎｰﾑｶﾐﾝｸﾞﾃﾞｰ（23 日) ﾐﾆ・ｵｰﾌﾟﾝｷｬﾝﾊﾟｽ，ﾌﾟﾚ入試(30 日)	部長会議(4・25 日) 職員会議(6 日) 学校説明会(8 日) 学年会議(13 日) 中間試験Ａ(18～21 日) 部会議(27 日) 芸術鑑賞会(28 日) 文理選択説明会(1 年)(31 日)
11 月	環境保健学研究科教授会(2 日) 獣医学部教授会(7 日) 生命・環境科学部教授会(14 日) 教学会議(15 日) 部局長連絡会議(16 日) 獣医学部臨時教授会(24 日) 生命・環境科学部臨時教授会(25 日) 獣医学研究科教授会(28 日)	麻布獣医学会(12 日) 永年勤続表彰(14 日) 推薦・特別入学試験(19 日)	部長会議(1・8・15・20・29 日) 職員会議(10 日) 学問系統別説明会(2 年)(14 日) 学年会議(17 日) 球技大会(18 日) 保護者進路説明会(20 日) 部会議(24 日) 選択科目説明会(2 年)(28 日)
12 月	環境保健学研究科教授会(4 日) 獣医学部教授会(5 日) 生命・環境科学部教授会(12 日) 獣医学研究科教授会(19 日) 教学会議(20 日) 部局長連絡会議(21 日)	後期定期試験　臨床検査技術学科 3・4 年次(6～8 日) 研究推進・支援本部ｾﾐﾅｰ(9 日) 後期追・再試験　臨床検査技術学科 3・4 年次(19～21 日) 冬期休業(23 日～1 月 6 日) 仕事納め(28 日)	部長会議(6・20 日) 中間試験Ｂ(7～13 日) 職員会議(8 日) 一般入試出願説明会(3 年)(13 日) 保護者進路説明会(17 日) 防災避難訓練(22 日) 冬期休業(23 日～1 月 6 日)
1 月	獣医学部教授会(8 日) 環境保健学研究科教授会(11 日) 生命・環境科学部教授会(16 日) 教学会議(17 日) 部局長連絡会議(18 日) 獣医学研究科教授会(30 日)	仕事始め(10 日) 授業開始日(10 日) 大学入試ｾﾝﾀｰ試験(14・15 日) ﾒﾝﾀﾙﾍﾙｽｾﾐﾅｰ(19 日) 後期授業終了(30 日)	授業開始日(10 日) 全体会議(10 日) 部会議(12 日) ｾﾝﾀｰ試験自己採点会(3 年)(16 日) 小論文模試(1・2 年)(16 日) 部長会議(17・24・31 日) 学年会議(19 日) 推薦入学試験(22 日) 卒業認定会議(26 日) 職員会議(26 日)
2 月	学術研究戦略会議(1 日) 獣医学部教授会(7・9 日) 環境保健学研究科教授会(8 日) 生命・環境科学部教授会(13 日) 教学会議(14 日) 部局長連絡会議(15 日) 獣医学研究科教授会(27 日)	後期定期試験(1・2・8～10 日) 一般入学試験(3～7 日) 後期定期試験合否発表(16・17 日) 管理職研修(事務職員)(20・22 日) 大学院入学試験(第 2 期)(24 日)	部会議(2 日) 命の授業(1 年)(6 日) 部長会議(7・14・21 日) 一般入学試験(前期)(10 日) 小論文模試(1・2 年)(13 日) ｾﾝﾀｰ模試(2 年)(16 日) 学年会議(16 日) ﾊﾗｽﾒﾝﾄ防止研修会(23 日)
3 月	獣医学部教授会(1 日) 生命・環境科学部教授会(2 日) 環境保健学研究科教授会(3 日) 獣医学研究科教授会(7 日) 教学会議(9 日) 部局長連絡会議(10 日) 獣医学部臨時教授会(16 日) 生命・環境科学部臨時教授会(16 日)	管理職研修(事務職員)(6・17 日) 大学入試ｾﾝﾀｰ利用入学試験(第Ⅱ期)(11 日) 一般入学試験(第Ⅱ期)(11 日) 卒業式・修了式(15 日) 春期休業(25～31 日) ﾐﾆ・ｵｰﾌﾟﾝｷｬﾝﾊﾟｽ（26 日) 後期終わり及び学年終わり(31 日) 辞令交付式(31 日)	卒業式(1 日) 部会議(2 日) 学年末試験(6～10 日) 一般入学試験(後期)(7 日) 卒業生入試講演会(1 年)(10 日) 部長会議(14 日) 学年会議(16 日) 進級会議(17 日) 新入生説明会(18 日) 修了式･離任式(22 日) 新年度準備会議(24 日)

Ⅲ　財務の概要

１．学校法人会計の特徴と企業会計との比較

学校法人は，「教育研究活動」という公共性の高い事業を遂行することを目的としており，この教育研究活動を円滑に遂行するため財政の安定と永続性が求められます。原則として企業のように利益追求(営利)を目的とするわけではないため，企業における損益計算を目的とする商業簿記による会計処理では，学校法人の経営状況を把握することが難しくなります。そのため，学校法人では企業会計とは異なる独自の会計形態をとっており，これを「学校法人会計」といいます。

学校法人会計と企業会計は，次のような違いがあります。

	学校法人会計	企業会計
目的	永続的な運営のため，「収支の均衡状況」と「財政状態」を正確に捉えること	「損益」(収益と費用)を正しく計算し，企業の「営業成績」と「財政状態」を利害関係者に開示すること
会計基準	学校法人会計基準	企業会計原則，原価計算基準等
会計年度	4 月 1 日～翌年 3 月 31 日	定款で定めることができる
作成書類	資金収支計算書 事業活動収支計算書 貸借対照表 上記附属の内訳表・明細表	キャッシュフロー計算書(上場企業) 損益計算書 貸借対照表 株主資本等変動計算書
決算書類の様式	予算額，決算額及びその差異を明記すること	予算額記載の必要性なし
基本財産	基本(自己所有財産)	基本(株主出資)
利益処分	なし(収支均衡を原則とする)	あり(株主配当)
管理機能	あり(予算管理も重視)	あり(主に決算管理)
受託責任機能	教育研究を支援する委託者 (学費支弁者，国・公共団体，寄付者等)	利益獲得を目的とする委託者 (株主，利害関係者等)
利益測定機能	なし(事業活動収支計算書にて収支バランスの測定)	あり(損益計算書)

学校法人会計において作成する計算書類

① 資金収支計算書

当該会計年度に行った諸活動に対応する全ての収入及び支出の内容を明らかにし，支払資金(現金及び預貯金)の収入及び支出の顛末を明らかにするものです。

② 事業活動収支計算書

当該会計年度の事業活動毎の収支の内容と均衡状態を明確にし，経営状況を表すものです。

法人に帰属する負債(借入金，前受金等)にならない収入(事業活動収入)から基本金組入額を差し引いた額と資産・借入金返済などの資本的支出にあてる額を除いた支出を計上します。

③ 貸借対照表

決算日(年度末)における資産・負債・基本金及び収支差額を明らかにし，学校法人の財政状態を表すものです。

2．財務状況の推移

（1）事業活動収支計算書の推移

学校法人会計基準【改正前】(消費収支)　(単位：円)

	科目	2012年度	2013年度	2014年度
消費収入関係	学生生徒等納付金	4,978,265,550	4,936,470,200	4,994,001,700
	手数料	181,186,880	191,821,115	192,797,650
	寄付金	60,291,565	84,834,965	90,241,174
	補助金	827,752,915	777,433,536	740,605,538
	資産運用収入	36,173,728	36,324,246	31,116,730
	資産売却差額	0	0	2,653,963
	事業収入	443,840,349	410,880,258	435,783,190
	雑収入	383,227,195	150,990,208	287,244,465
	帰属収入計	6,910,738,182	6,588,754,528	6,774,444,410

	科目	2012年度	2013年度	2014年度
消費支出関係	人件費	3,328,407,577	2,988,066,683	3,198,510,536
	教育研究経費	2,678,395,529	2,623,276,994	2,757,594,306
	管理経費	613,669,571	615,500,953	692,815,627
	借入金等利息	65,903,083	182,014,558	32,912,714
	資産処分差額	342,561,899	31,175,026	197,137,411
	徴収不能額	0	0	0
	徴収不能引当金繰入額	1,114,250	413,982	1,655,812
	消費支出計	7,030,051,909	6,440,448,196	6,880,626,406

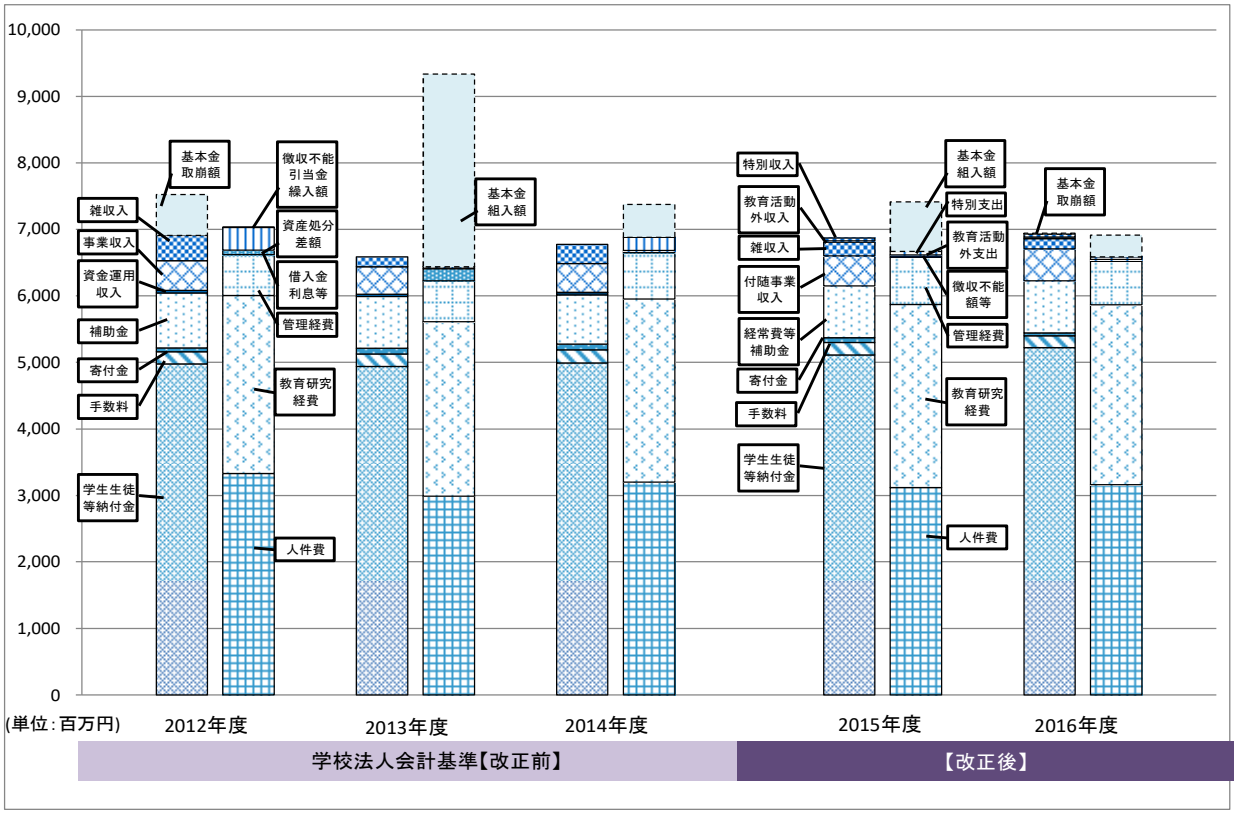
基本金組入額	0	2,895,538,495	495,854,834
基本金取崩額	613,524,712	0	0

【改正後】(事業活動収支)　(単位：円)

		科目	2015年度	2016年度
事業活動収入関係	教育活動収入	学生生徒等納付金	5,112,809,650	5,221,497,850
		手数料	188,448,340	177,049,816
		寄付金	70,188,423	47,600,060
		経常費等補助金	781,030,264	781,703,145
		付随事業収入	452,235,542	481,611,999
		雑収入	201,204,161	151,843,988
	教育活動外収入計		21,210,432	22,947,410
	特別収入計		45,669,619	44,361,876
	事業活動収入計		6,872,796,431	6,928,616,144

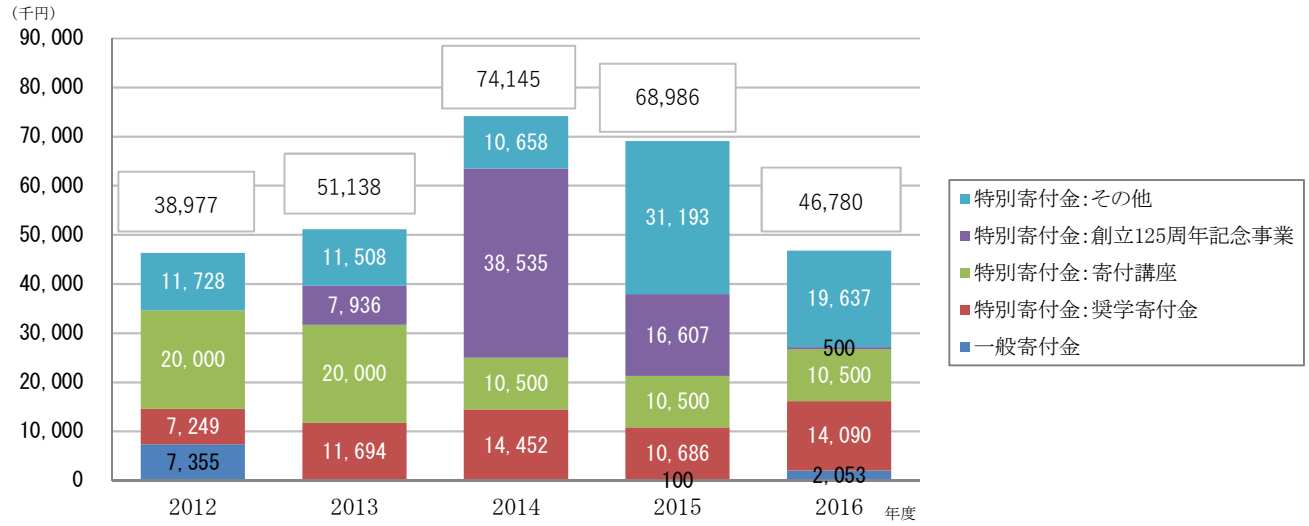
		科目	2015年度	2016年度
事業活動支出関係	教育活動支出	人件費	3,118,588,362	3,158,760,325
		教育研究経費	2,752,280,725	2,706,180,530
		管理経費	709,288,704	653,509,077
		徴収不能額等	1,639,226	1,909,276
	教育活動外支出計		30,912,734	28,912,755
	特別支出計		58,467,425	39,945,903
	事業活動支出計		6,671,177,176	6,589,217,866

基本金組入額	741,760,042	327,990,932
基本金取崩額	0	16,000,000



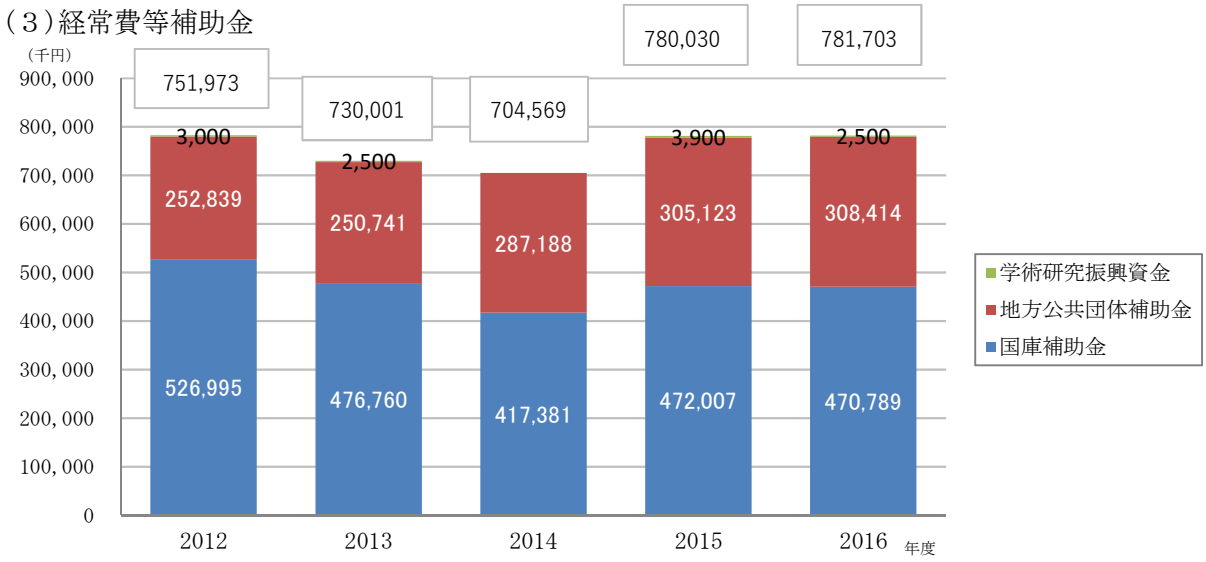
※ 基本金組入額とは，学校法人の永続的維持に必要な資産を継続的に保持するため，維持すべきものとして事業活動収入のうちから組み入れた金額で，組み入れるべき金額としては，教育の用に供される固定資産額で，以下のようなものがある。
建物，構築物，教育研究用機器備品，図書などの取得価額の合計

（２）寄付金の推移



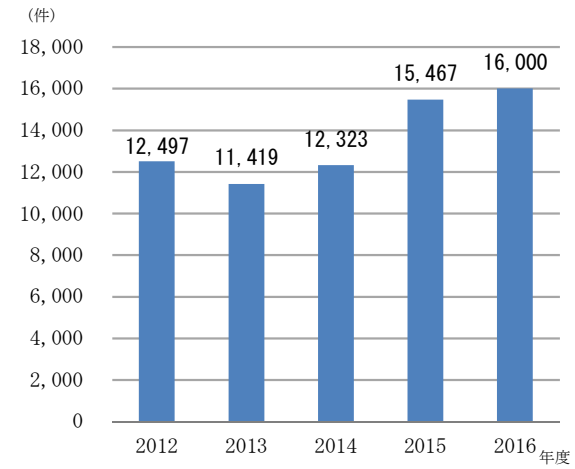
1. 枠内の数字は，各年度の寄付金合計金額（千円）
2. 2015（平成 27）年度に創立 125 周年事業を実施するため，2013（平成 25）年度から一般寄付金を停止し，使途特定の特別寄付金を募集した。

（３）経常費等補助金

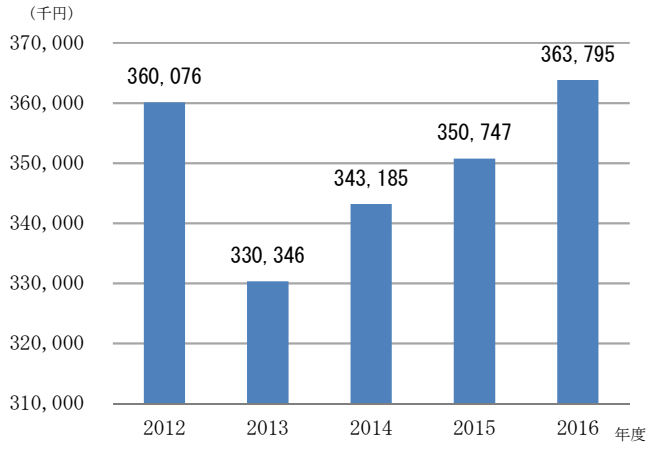


1. 枠内の数字は，各年度の補助金合計金額（千円）
2. 2016（平成 28）年度に，私立大学等改革総合支援事業及び私立大学研究プランディング事業に選定された。

（４）附属動物病院診療件数



（５）附属動物病院診療収入

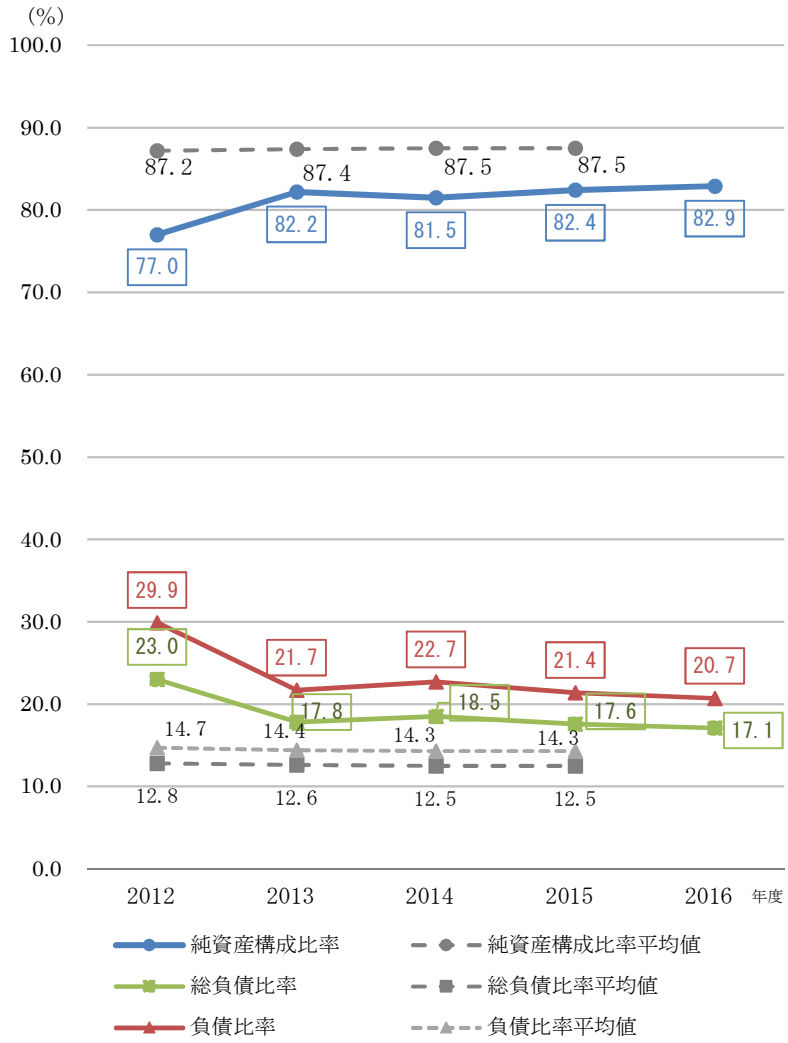


3．財務比率の推移

●掲載している本学の財務比率は，「**新学校法人会計基準**」（※）に基づき算出したものです。
参考データの財務比率は，旧学校法人会計基準に基づく財務比率です。
●財務比率の「**全国平均値**」は，いずれも「今日の私学財政（大学・短期大学編）」（日本私立学校振興・共済事業団編）の医歯系法人を除く大学法人の平均値です。

※　新学校法人会計基準：2015(平成 27)年 4 月 1 日付け施行の学校法人会計基準の一部を改正する省令(平成 25 年 4 月 22 日文部科学省令第 15 号)により改正された学校法人会計基準。2015(平成 27)年度以降の財務計算書類に適用されている。

(1)純資産構成比率，総負債比率，負債比率



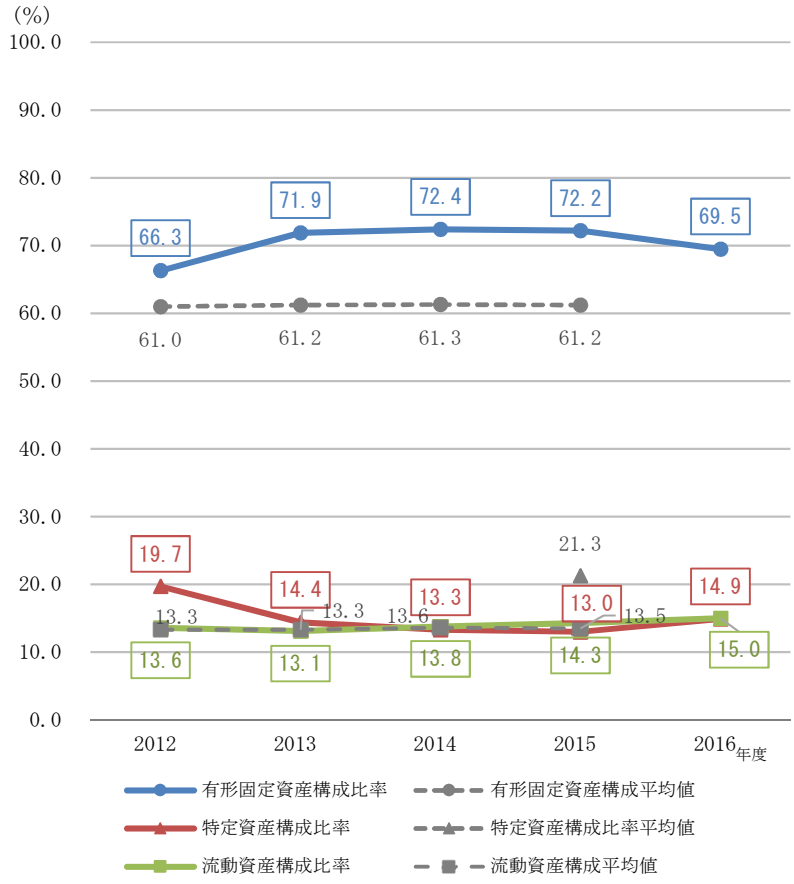
●純資産構成比率は，全国平均値よりも低い水準です。総負債比率及び負債比率は，全国平均値よりも高い水準で推移しています。

☞ **「純資産構成比率」＝ 純資産 ÷（総負債＋純資産）×100**
○資産の調達源泉を分析し，財政基盤の安定性を把握することができる最も概括的で重要な指標であり，高いほど，総資産に対する自己資金率が高く，財政状態が安定しているといえる。

☞ **「総負債比率」＝ 総負債 ÷ 総資産 ×100**
○総資産に対する他人資金の比重を評価する比率で，低いほど，自己資金が多く，財政基盤が安定しているといえる。

☞ **「負債比率」＝ 総負債 ÷ 純資産 ×100**
○他人資金である総負債が，自己資金である純資産を上回っていないかを測る比率であり，低い方が望ましい。

（２）有形固定資産構成比率，特定資産構成比率，流動資産構成比率



●有形固定資産構成比率は，全国平均値よりも高い水準で推移しています。特定資産構成比率は，全国平均値よりも低い水準です。流動資産構成比率は，全国平均値に近い水準で推移しています。

☞「有形固定資産構成比率」＝有形固定資産 ÷ 総資産×100

○土地・建物等の有形固定資産の構成比が，資産構成上，バランスをとれているか評価する指標である。学校規模に対して，設備投資が過剰となる場合は，財政を逼迫させる要因となるため，注意が必要である。

☞「特定資産構成比率」＝特定資産 ÷ 総資産 ×100

○長期にわたって特定の目的のために保有する金融資産の蓄積状況を評価する指標である。この比率が高い場合，中長期的な財政支出に対する備えが充実しており，計画的な学校法人経営に資するといえる。

☞「流動資産構成比率」＝流動資産 ÷ 総資産 ×100

○現金預金や短期有価証券などの現金化が可能な資産の保有状況を評価する指標である。この比率が著しく低い場合，資金繰りが苦しい状況にあると評価できるが，低い場合であっても，有利な運用条件を求めて特定資産化している場合もあり，その点も合わせて評価する必要がある。

◆「固定資産」について◆

2014 年度までの旧区分：

「固定資産＝有形固定資産＋(旧)その他の固定資産」

↓

2015 年度からの新区分：

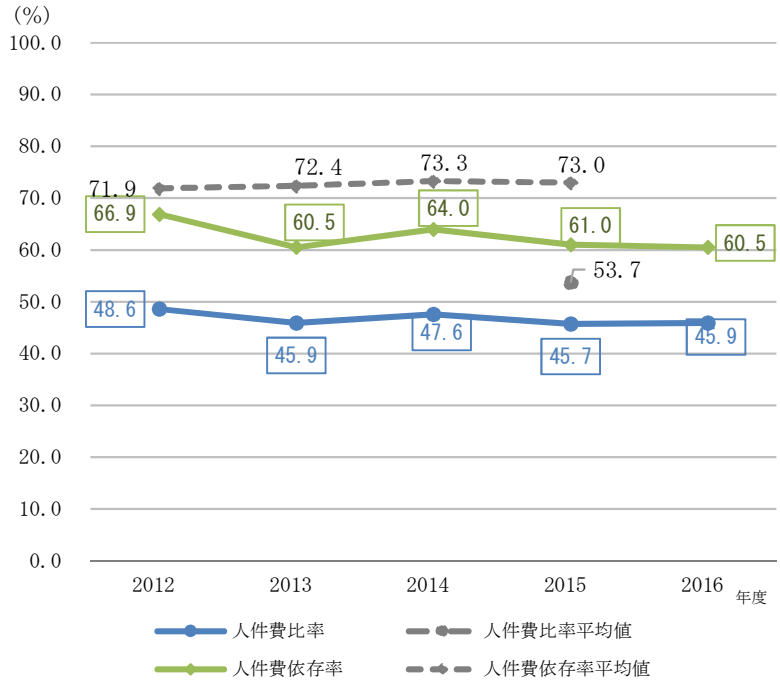
「固定資産＝有形固定資産＋(新)特定資産＋(新)その他の固定資産」

○「(旧)その他の固定資産」が「(新)特定資産」と「(新)その他の固定資産」に区分され，「(新)特定資産構成比率」が新設されました。

(新)特定資産：使途が特定されている預金や有価証券等（各種引当特定資産等）

(新)その他の固定資産：電話加入権，ソフトウェア等

（３）人件費比率，人件費依存率



●人件費比率及び人件費依存率は，いずれも全国平均値よりも低い水準です。

☞「人件費比率」＝人件費 ÷ 経常収入 × 100

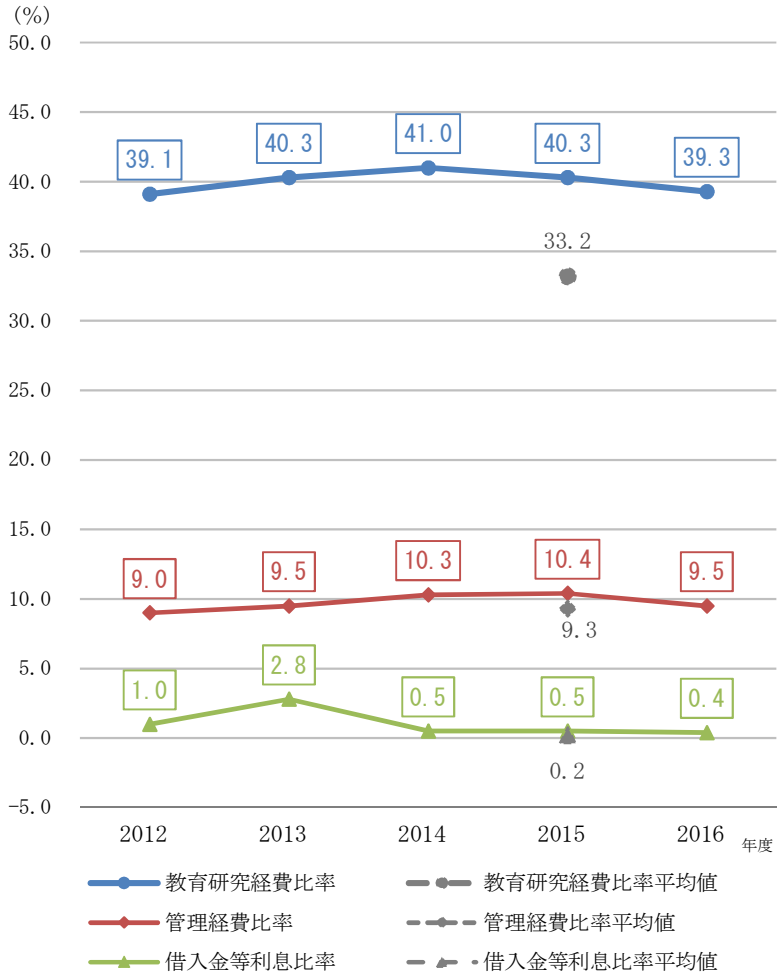
○人件費は経常支出の中で最大の部分を占めるため，この比率が特に高くなると支出全体を膨張させ，収支の悪化を招きやすい。

☞「人件費依存率」＝人件費 ÷ 学生生徒等納付金 ×100

○一般的に人件費は学生生徒等納付金で賄える範囲内に収まっていること(100%以内)が理想的である。

◆（旧）帰属収入 と （新）経常収入について◆
○（旧）帰属収入　＝　（新）事業活動収入
○（新）経常収入　＝　（新）教育活動収入＋教育活動外収入【（旧）帰属収入 - 臨時的な収入】
経常収入とは，「（旧）消費収支計算書」における「帰属収入」（負債とならない収入）から臨時的な収入（施設設備取得に対する補助金及び寄付金，有価証券や不動産等の資産売却差額等）を除いた通常の事業活動によって得た経常的な収入のことをいいます。 したがって，（旧）帰属収入 ＞（新）経常収入となります。
新学校法人会計基準の施行に伴い，従来，帰属収入を分母としていた財務比率の多くが，経常収入を分母とするよう変更になりました。

（４）教育研究経費比率，管理経費比率，借入金等利息比率



●教育研究経費比率，管理経費比率及び借入金等利息比率は，いずれも全国平均値より高い水準です。

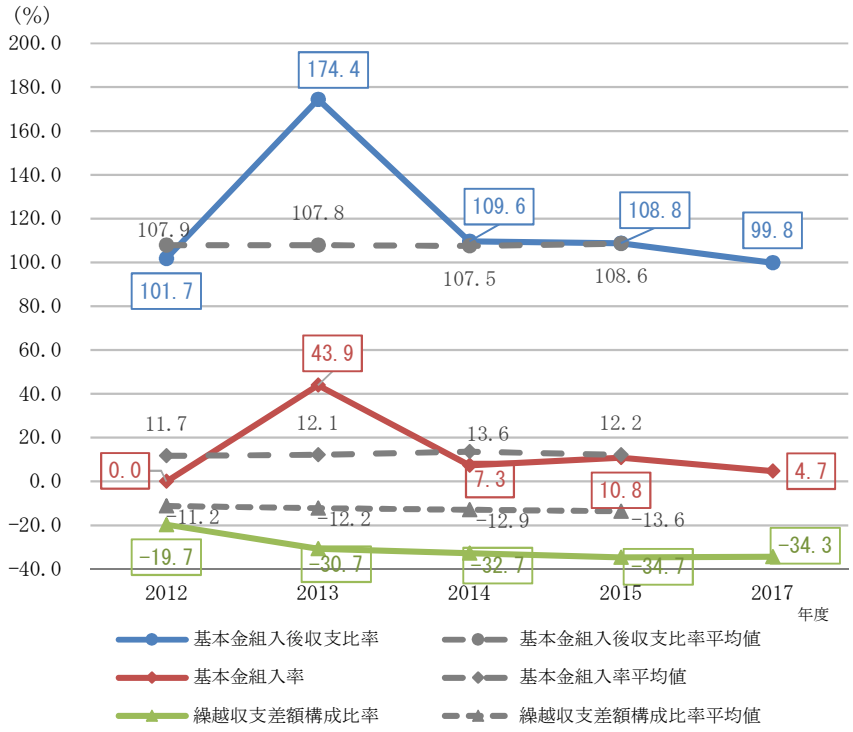
☞ **「教育研究経費比率」＝ 教育研究経費 ÷ 経常収入×100**
○教育研究経費は，学校法人の本業である教育研究活動の維持・発展を支えると共に，経常費等補助金の配分とも関係する費用であり，収支均衡を失しない範囲内(基本金組入後収支比率が 100%前後であること)で高くなることが望ましい。

☞ **「管理経費比率」＝ 管理経費 ÷ 経常収入 ×100**
○管理経費は，学校法人の運営のため，ある程度の支出は必要であるが，教育研究活動以外の目的で支出される経費であり，比率としては低い方が望ましい。

☞ **「借入金等利息比率」＝ 借入金等利息 ÷ 経常収入 ×100**

○借入金等利息は，外部有利子負債がなければ発生しないものであるため，この比率は低い方が望ましい。

（５）基本金組入後収支比率，基本金組入率，繰越収支差額構成比率



●基本金組入後収支比率は，全国平均値よりも支出が多い水準で推移しています。繰越収支差額構成比率は，0%以下で全国平均値よりも低い水準で推移しています。

☞ **「基本金組入後収支比率」＝事業活動支出 ÷ （事業活動収入 - 基本金組入額）×100**

○この比率は，一般的に収支が均衡する100%前後が望ましいと考えられるが，基本金組入額の影響を受けるため，評価する際は，基本金組入内容を考慮する必要がある。

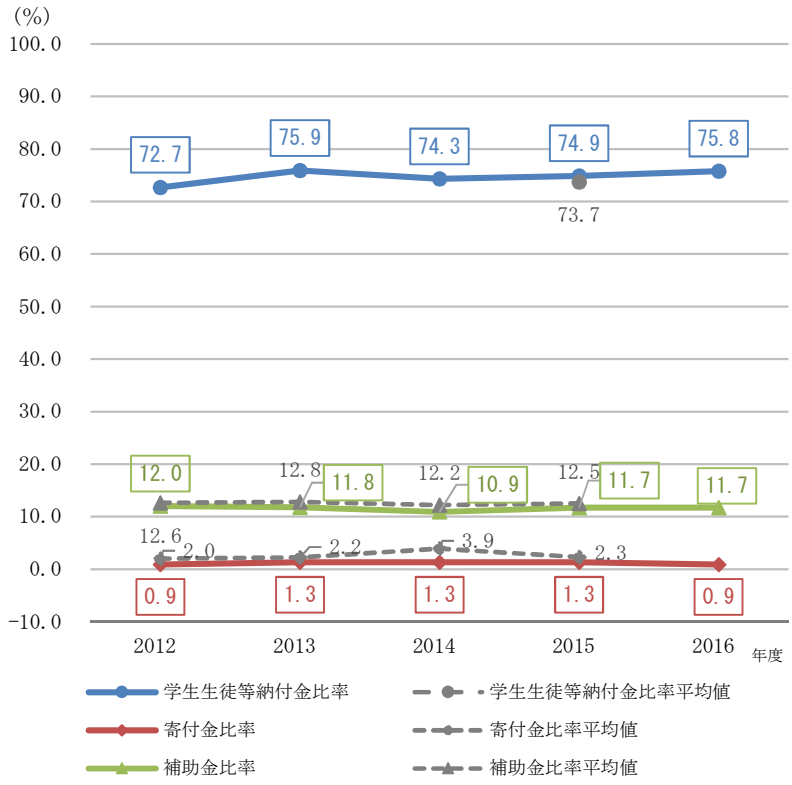
☞ **「基本金組入率」＝基本金組入額 ÷ 事業活動収入 ×100**

○大規模な施設の取得等を単年度に集中して行った場合，一時的にこの比率が上昇する。

☞ **「繰越収支差額構成比率」＝繰越収支差額 ÷ （総負債 ＋ 純資産）×100**

○繰越収支差額は，毎会計年度の当年度収支差額が累積されたもので，学校法人の収支均衡状態を示す重要な指標であり，収支均衡を示す0%前後であることが望ましい。ただし，繰越収支差額は，主に基本金組入額の影響を受けるため，基本金組入内容や中長期的な事業計画と合わせて評価する必要がある。

（６）学生生徒等納付金比率，寄付金比率，補助金比率



●学生生徒等納付金比率は，全国平均値に近い値です。
寄付金比率及び補助金比率は，全国平均値よりも低い水準で推移しています。

☞ **「学生生徒等納付金比率」＝学生生徒等納付金 ÷ 経常収入 ×100**

○事業活動収入の中で最大の割合を占めており，補助金や寄付金と比べて外部要因に影響されることがない自己財源であることから，安定的に推移することが望ましい。なお，この比率が高いほど，学生生徒等納付金の依存度が高く，収入源の多様化が課題となる。

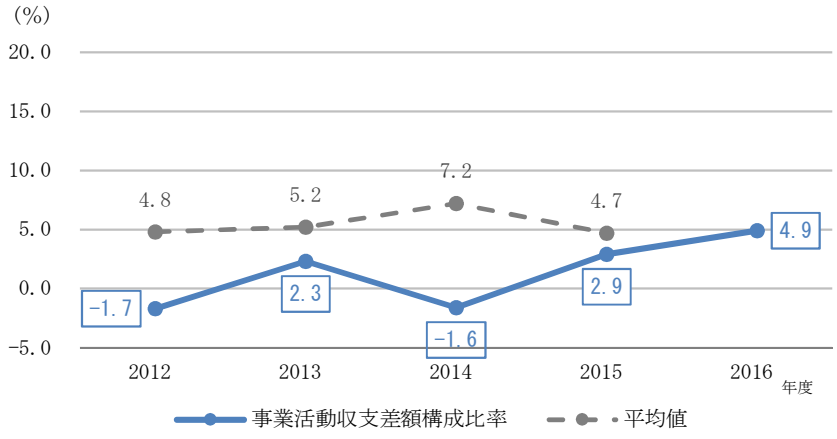
☞ **「寄付金比率」＝寄付金（特別収支の施設設備寄付金及び現物寄付含む）÷ 事業活動収入 ×100**

○一定水準の寄付金収入を継続して確保することが経営の安定のために好ましい。

☞ **「補助金比率」＝補助金（特別収支の施設設備補助金含む）÷ 事業活動収入 ×100**

○学校法人の教育研究活動や管理運営機能，また，教育研究に係る環境の整備，安全性の確保等の支援を目的として交付される資金であり，この比率が高いということは自助努力による多様な取り組みが評価されている表れでもあるが，補助金は，国や地方公共団体の補助金政策の動向に影響を受けることから，他の収入の比率と合わせて評価する必要がある。

（７）事業活動収支差額構成比率

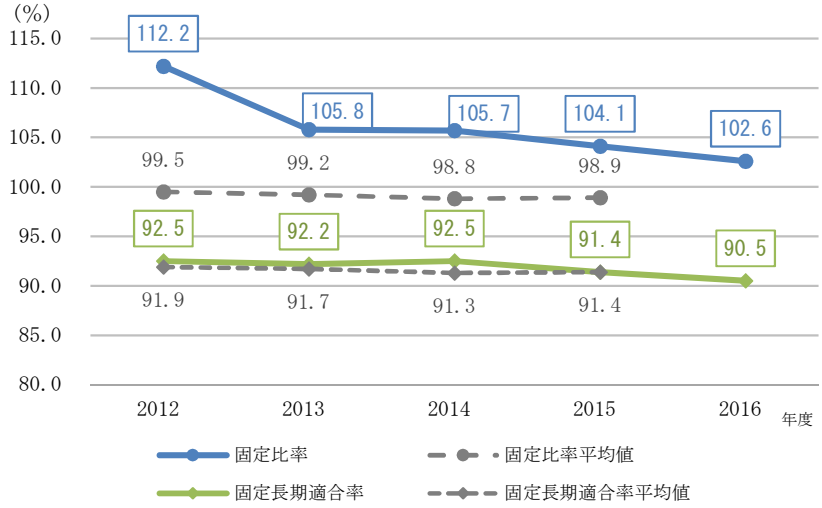


●全国平均値よりも低い水準で推移しています。

☞ **「事業活動収支差額構成比率」＝基本金組入前当年度収支差額÷事業活動収入 ×100**

○この比率がマイナスであることは，当年度の事業活動収入で事業活動支出を賄うことができない状況であり，経営が圧迫されており，将来の資金繰りに支障をきたす可能性を示唆している。この比率のプラスが大きいほど，自己資金が充実し，財政面での将来的な余裕につながることを示唆し，プラスの範囲内で基本金組入額が収まることが望ましい。

（８）固定比率，固定長期適合率



●固定比率は，100％以上で全国平均値よりも高い水準で推移しています。
固定長期適合率は，100％以下で全国平均値よりも高い水準で推移しています。

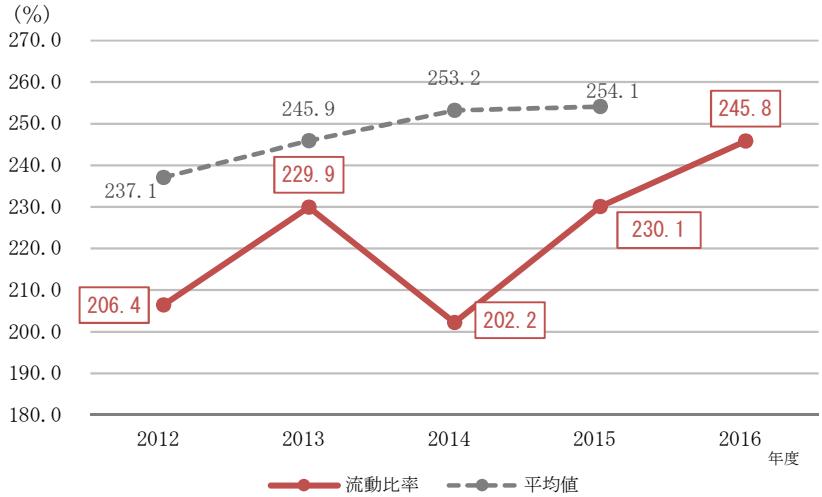
☞ **「固定比率」＝固定資産 ÷ 純資産 ×100**

○土地・建物・施設等の固定資産に対して，どの程度純資産が投下されているか，すなわち，資金の調達源泉とその使途を対比させる比率である。本来投下資金は自己資金を充てることが望ましく，借入金等の外部資金を投下資金とした場合，この比率が 100%を超える。

☞ **「固定長期適合率」＝固定資産 ÷（純資産＋固定負債）×100**

○この比率が 100%を超えた場合，固定資産の調達源泉に短期借入金等の流動負債を導入していると解することができ，財政の安定性に欠けることを示すこととなり，100%以下で低いほど，理想的とされる。

（９）流動比率



●200％以上で全国平均値よりも低い水準で推移しています。

☞ **「流動比率」＝流動資産 ÷ 流動負債 ×100**

○1 年以内に償還又は支払わなければならない流動負債に対して，現金預金又は 1 年以内に現金化が可能な流動資産がどの程度用意されているか，短期的な支払能力を判断する指標である。一般的に金融機関等では，200%以上であれば優良とみなし，100%を切っている場合，資金繰りに窮しているとみなしている。ただし，将来に備えて引当特定資産に資金を留保している場合もあり，当該資産の積立状況も考慮して評価する必要がある。

区分	比率名	算式	2012年度	2013年度	2014年度
消費収支計算書関係	人件費比率	人件費 / 帰属収入	48.2 (52.8)	45.4 (52.4)	47.2 (50.9)
	人件費依存率	人件費 / 学生生徒等納付金	66.9 (71.9)	60.5 (72.4)	64.0 (73.3)
	教育研究経費比率	教育研究経費 / 帰属収入	38.8 (31.2)	39.8 (31.5)	40.7 (31.2)
	管理経費比率	管理経費 / 帰属収入	8.9 (9.2)	9.3 (8.8)	10.2 (9.0)
	借入金等利息比率	借入金等利息 / 帰属収入	1.0 (0.3)	2.8 (0.3)	0.5 (0.2)
	消費収支比率	消費支出 / 消費収入	101.7 (107.9)	174.4 (107.8)	109.6 (107.5)
	学生生徒等納付金比率	学生生徒等納付金 / 帰属収入	72.0 (73.4)	74.9 (72.4)	73.7 (69.5)
	寄付金比率	寄付金 / 帰属収入	0.9 (2.0)	1.3 (2.2)	1.3 (3.9)
	補助金比率	補助金 / 帰属収入	12.0 (12.6)	11.8 (12.8)	10.9 (12.2)
	基本金組入率	基本金組入額 / 帰属収入	0.0 (11.7)	43.9 (12.1)	7.3 (13.6)
	帰属収支差額比率	帰属収入－消費支出 / 帰属収入	△1.7 (4.8)	2.3 (5.2)	△1.6 (7.2)
貸借対照表関係	有形固定資産構成比率	有形固定資産 / 総資産	66.3 (61.0)	71.9 (61.2)	72.4 (61.3)
	その他の固定資産構成比率	その他の固定資産 / 総資産	20.1 (25.7)	15.0 (25.5)	13.8 (25.1)
	流動資産構成比率	流動資産 / 総資産	13.6 (13.3)	13.1 (13.3)	13.8 (13.6)
	固定比率	固定資産 / 自己資金	112.2 (99.5)	105.8 (99.2)	105.7 (98.8)
	固定長期適合率	固定資産 / 自己資金＋固定負債	92.5 (91.9)	92.2 (91.7)	92.5 (91.3)
	流動比率	流動資産 / 流動負債	206.4 (237.1)	229.9 (245.9)	202.2 (253.2)
	総負債比率	総負債 / 総資産	23.0 (12.8)	17.8 (12.6)	18.5 (12.5)
	負債比率	総負債 / 自己資金	29.9 (14.7)	21.7 (14.4)	22.7 (14.3)
	自己資金構成比率	自己資金 / 総資金	77.0 (87.2)	82.2 (87.4)	81.5 (87.5)
	消費収支差額構成比率	消費収支差額 / 総資金	△19.7 (△11.2)	△30.7 (△12.2)	△32.7 (△12.9)

区分	比率名	算式	2015年度	2016年度
事業活動収支計算書関係	人件費比率	人件費 / 経常収入	45.7 (53.7)	45.9
	人件費依存率	人件費 / 学生生徒等納付金	61.0 (73.0)	60.5
	教育研究経費比率	教育研究経費 / 経常収入	40.3 (33.2)	39.3
	管理経費比率	管理経費 / 経常収入	10.4 (9.3)	9.5
	借入金等利息比率	借入金等利息 / 経常収入	0.5 (0.2)	0.4
	基本金組入後収支比率	事業活動支出 / 事業活動収入－基本金組入額	108.8 (108.6)	99.8
	学生生徒等納付金比率	学生生徒等納付金 / 経常収入	74.9 (73.7)	75.8
	寄付金比率	寄付金 / 事業活動収入	1.3 (2.3)	0.9
	補助金比率	補助金 / 事業活動収入	11.7 (12.5)	11.7
	基本金組入率	基本金組入額 / 事業活動収入	10.8 (12.2)	4.7
	事業活動収支差額比率	基本金組入前当年度収支差額 / 事業活動収入	2.9 (4.7)	4.9
貸借対照表関係	有形固定資産構成比率	有形固定資産 / 総資産	72.2 (61.2)	69.5
	特定資産構成比率	特定資産 / 総資産	13.0 (21.3)	14.9
	流動資産構成比率	流動資産 / 総資産	14.3 (13.5)	15.0
	固定比率	固定資産 / 純資産	104.1 (98.9)	102.6
	固定長期適合率	固定資産 / 純資産＋固定負債	91.4 (91.4)	90.5
	流動比率	流動資産 / 流動負債	230.1 (254.1)	245.8
	総負債比率	総負債 / 総資産	17.6 (12.5)	17.1
	負債比率	総負債 / 純資産	21.4 (14.3)	20.7
	純資産構成比率	純資産 / 総負債＋純資産	82.4 (87.5)	82.9
	繰越収支差額構成比率	繰越収支差額 / 総負債＋純資産	△34.7 (△13.6)	△34.3

1. (　)内の数字は「今日の私学財政(大学・短期大学編)」(日本私立学校振興・共済事業団編)に記載されている医歯系法人を除く大学法人の平均値を示す。
2. 総資金＝負債＋基本金＋消費収支差額　　自己資金＝基本金＋消費収支差額
3. 学校法人会計基準の改正に伴い，2015(平成27)年度以降の財務比率の算式等が変更された。
　　事業活動収入＝帰属収入　　経常収入＝教育活動収入＋教育活動外収入